

取調へタルモノト謂フヘク從テ所論各證據ハ法律上證據ト爲スコトヲ得サルモノニ該當セサルヲ以テ  
 裁判長カ其ノ證據ニ付説示ヲ爲スコトアルモ何等ノ違法アルモノニ非サレハ論旨ハ理由ナシ  
 第五點(一)原審裁判長ハ其ノ説示中犯罪ノ構成ニ關シ法律上ノ論點ヲ教示セラルルニ際リ先ツ殺人  
 未遂ヲ説明シ次ニ「傷害罪トハ相手方ヲ殺ス意思ナク只相手ニ暴行ヲ加フル意思ヲ以テ斬付ケ相手ニ  
 負傷セシメタル場合」ノ如キモノナリト説示セラレタルカ是明ニ傷害罪ノ犯意ニ付暴行ノ認識タニア  
 レハ傷害ノ結果ニ付認識ナキモ仍ホ傷害罪ノ成立ヲ妨ケストスルノ説ヲ採用セラレタルモノナリ然レ  
 トモ傷害罪ノ犯意ニ付テハ單ニ暴行ノ意思ヲ以テスルノミナラス傷害ノ結果ニ付認識ヲ要ストスルノ  
 學說ノ存スルコトハ固ヨリ論ナシ此ノ場合ニ裁判長カ被告ニ不利ナルヘキ學說ヲ採リテ説示ヲ爲スハ  
 不當ナリト信ス何トナレハ何レノ學說ヲ採用スルヤハ人ノ自由ナルノミナラス事實ニ付評議ヲ爲ス陪  
 審員カ法律觀念ノ把握ニ付裁判所ト全然同説ヲ採用スルコトハ當ニ其ノ必要ナキノミナラス却テ一説  
 ニ膠着セシムルトキハ評決ニ對シ危險ナル影響ヲ與フヘキカ故ニ原審裁判長ノ説示ハ此點ニ於テ不當  
 ナリト信ス(二)假ニ或犯罪ノ要件ニ付學說並存スル場合ニ其ノ何レヲ採リテ教示スルカハ全然  
 裁判長ノ職權ニ屬ストスルナラハ裁判長ハ説示ニ於テモ又問書ノ間ニ於テモ何レノ部分ニ於テモ一貫  
 シテ自己ノ採用セル見解ヲ支特スヘキハ勿論ニシテ問書ニ於テハ可及的ニ説示ト齟齬セル間ヲ爲ササ  
 ルヘカラス然ラサレハ法律ニ詳カナラサル陪審員ノ頭腦ヲ徒ニ混亂セシムヘケレハナリ原審裁判長ハ

【要旨第四】

法律點ノ教示ニ於テハ單ニ前記ノ如ク傷害罪トハ暴行ヲ加フル意思ヲ以テ負傷セシムル場合ナル旨説  
 示セラレタルニ拘ラス問書ノ補問第一ニ於テ「若シ殺意ナカシトセハ條之助ニ傷害ヲ加フル意思ヲ  
 以テ右創傷ヲ負ハシメタルモノナリヤ」ト問ヒ居リ即チ前ニハ傷害罪ニ暴行ヲ加フル意思ヲ要スルカ  
 如ク教示シ後ニハ該罪ニ傷害ヲ加フル意思ヲ要スルカノ如ク問ヒ居レルハ前後一貫セサルモノニシテ  
 不當ナリ此ノ場合ニ暴行ノ意思ヲ以テシテ仍ホ傷害罪成立ストセハ傷害ノ意思アラハ尙更傷害罪成立  
 スルモノナリト考フルハ法律家ノ能クスル處ナリ法律ヲ知ラサル十二名ノ陪審員中暴行ノ意思ヲ以テ  
 負傷セシムルハ傷害罪ナリト教旨ヲ強ク腦裏ニ記憶シ單ニ暴行ノ意思ヲ以テスレハ傷害罪トナル然  
 ラハ傷害ノ意思存セハ恐ク傷害罪以上ノ罪ニ該ルヘシト誤解シタルモノノ絶無ナリトハ誰カ能ク斷言シ  
 得ンヤ此ノ誤レル觀念ヲ無意識的ニ包藏シテ評議セラレタランニハ被告ノ不利ニ評決ノ爲サルコト  
 決シテ想像ニ難シトセサルナリ然ルカ故ニ原審裁判長説示ハ其ノ法律點教示ニ於テ不當ナルカ又ハ之  
 ト問書ノ間ト齟齬セルノ不當ナルモノナリト信スル次第ナリト云フニ在レトモ○裁判長カ犯罪構成ニ  
 關シ法律上ノ論點ヲ説示スルニ當リテハ論點ニ關スル學說ヲ一々説明スルノ要ナク裁判所カ正當ナリ  
 ト信スル法律上ノ見解ノミニ付説示スルヲ以テ足ルモノトス從テ裁判長カ傷害罪ハ相手方ヲ殺ス意思  
 ナク只相手ニ暴行ヲ加フル意思ヲ以テ斬付ケ相手ニ負傷セシムルコトニ因リ成立スル旨ヲ説示シ傷害  
 罪ノ犯意トシテ傷害ノ結果ニ付認識ヲ要スル旨ノ學說アルコトヲ説示セサルモ何等ノ違法ナク又本件

陪審ニ對スル説示ト利ニ關スル説明 同上説示ト證據ノ利益不利ニ關スル説明  
 陪審法第七十五條ト訴訟關係人ノ異議ナキ場合 犯罪構成ニ關スル法律上ノ論點  
 ノ説示

ニ於ケル法律上ノ論點トシテ裁判長ハ一般的ニ傷害罪ハ殺意ナク暴行ノ意思ヲ以テ斬付ケ負傷セシメタルトキニ成立スル旨ヲ説示シ陪審員ニ交付スル問書ニ於テ傷害ヲ加フル意思ヲ以テ創傷ヲ負ハシメタルモノナリヤトノ問ヲ記載シ兩者ノ用語ニ多少ノ相違アルコト所論ノ如クナレトモ曩ニハ一般的ニ傷害罪ノ犯意ヲ説明シ後ニハ具體的ニ本件ニ付傷害罪ノ犯意ヲ問書ニ記載シタルニ過キササルモノニシテ其ノ間犯意ノ觀念ニ付何等ノ矛盾齟齬ノ存スルモノニ非サレハ本件裁判長ノ説示及問書ノ記載ニ付所論ノ如キ違法アリト稱スルヲ得サルヲ以テ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
検事宮城長五郎關與

○殺人被告事件(昭和四年(九)第九四號  
同年四月二日第四刑事部判決) 棄却

〔上告人〕 被告人 志田 捨 吉 辯護人 山邊 高 剛  
瀧野 精 則  
澤野 茂 雄  
〔第一審〕 札幌地方裁判所 〔第二審〕 札幌控訴院

○判示事項

數人ノ受命判事ノ共同取調ト調書ノ署名捺印

○判決要旨

數人ノ受命判事力共同シテ證人ヲ訊問シ又ハ檢證ヲ爲シタル場合ニ於テハ各自其ノ調書ニ署名捺印スヘキモノトス

〔参照〕 刑事訴訟法第五十六條 被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

數人ノ受命判事ノ共同取調ト調書ノ署名捺印

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 被告人、被疑者、證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人ノ訊問及供述

二 證人、鑑定人、通事又ハ翻譯人宣誓ヲ爲ササルトキハ其ノ事由

調書ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ供述者ニ讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閱覽セシメ其ノ記載ノ相違ナキカ否ヲ問フヘシ

供述者増減變更ヲ申立テタルトキハ其ノ供述ヲ調書ニ記載スヘシ

調書ニハ供述者ヲシテ署名捺印セシムヘシ

同法第五十七條 檢證、押收又ハ捜索ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

押收ヲ爲シタルトキハ其ノ品目ヲ調書ニ記載シ又ハ別ニ目錄ヲ作り之ヲ調書ニ添付スヘシ

同法第五十八條

前二條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル年月日及場所ヲ記載シ

其ノ取調又ハ處分ヲ爲シタル者裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ但シ公判期日外ニ於テ裁判所取調又ハ處分ヲ爲シタルトキハ裁判長裁判所書記ト共ニ署名捺印スヘシ

前條ノ調書ニハ取調又ハ處分ヲ爲シタル時ヲモ記載スヘシ

○事實

原審ハ其ノ第一回公判ニ於テ現場ノ檢證及現場ニテ證人訊問ヲ爲スヘキ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事トシテ判事杉浦忠雄同保持道信ヲ指名シ次テ右兩判事ハ共ニ現場ニ臨ミ檢證及證人訊問ヲ爲シタルモ其ノ取調ニ關シ作成シタル檢證調書及證人訊問調書ニハ冒頭ニ受命判事杉浦忠雄同保持道信ハ裁判所書記

久代政男立會ノ上檢證及證人訊問ヲ爲シタル旨記載シアリテ末尾ニハ受命判事杉浦忠雄ノミ裁判所書記ト共ニ署名捺印シタルモノナリ

原審ハ左記事實ヲ認定シ刑法第二百五條第一項ヲ適用シテ被告人ヲ懲役三年ニ處シ同法第二十九條ニ則リ未決勾留日數中百二十日ヲ本刑ニ算入シ且刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ訴訟費用ヲ被告人ニ負擔セシムル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ノ實姉志田フテハ寡婦ニシテ被告人居村南十三線西二號ニ居住シ荒物雜貨ヲ商ヒ孤身生計ヲ營ミ居タルモノナル處豫テヨリ被告人ノ三男政夫ヲ養子ニ迎ヘ自己ノ相續人ニ爲サムコトヲ切望シ直接又ハ間接ニ被告人ニ對シ其ノ意中ヲ告ケタルモ被告人ニ於テ未タ之カ快答ヲ與ヘサリシ折柄昭和二年八月九日午後七時頃被告人ハフテ方ニ於テ同人ヨリ馳走ヲ受ケ飲酒中フテハ被告人ニ對シ近頃政夫ヲ自宅ニ寄越サヌ様仕向タル旨怨言シ被告人カサルコトナキ旨ヲ以テ辯疏スルモ之ヲ納得セス怒ツテ遂ニ打解ケサルヨリ被告人ハ不快ノ思ヲ爲シテ一旦フテ方ヲ辭シタルカ歸宅後親身ノ間柄トシテフテ方ノ立腹ヲ懸念ノ餘同夜十一時頃再ヒフテ方ニ到リ同人ヲ宥メントシタル處フテハ却テ益々立腹シ右政夫ノ件ヲ以テ被告人ヲ難詰止マサルヨリ口論ノ末遂ニ互ニ毆リ合中被告人ハ手ヲ以テフテノ咽喉ヲ扼シタルニ力餘リテ其ノ場ニ於テ同人ヲ窒息死ニ致シタルモノナリ

○理由

數人ノ受命判事ノ共同取調ト調書ノ署名捺印

辯護人高野精一瀧澤茂雄上告趣意書第三點原院公判調書ヲ閱スルニ其ノ第一回公判ニ於テ辯護人ノ申請ニ因リ現場ノ檢證及證人鳥田政太郎近藤藤八旗手光丸金森三右衛門ヲ訊問スル旨ノ決定ヲ爲シ右證據調ノ受命判事トシテ判事杉浦忠雄保持道信ヲ指定シ昭和三年十月二十日現場ニ於テ檢證及證人訊問ヲ爲シタルコトハ記録一〇一七丁以下ノ檢證調書及證人訊問調書ニ依リ明ナリトス然ルニ右檢證調書及證人訊問調書ヲ閱スルニ執レモ其ノ冒頭ニ札幌控訴院刑事部受命判事杉浦忠雄保持道信ハ裁判所書記久代政男立會ノ上檢證及證人訊問ヲ爲シタル旨記載シアリテ右檢證及證人訊問ハ受命判事杉浦忠雄ト受命判事保持道信ノ兩名ニ於テ履踐シタルコト明白也トス然ルニ右檢證調書及證人訊問調書ノ末尾ニハ執レモ受命判事杉浦忠雄ノミノ署名捺印アリテ受命判事保持道信ノ署名捺印ナク右檢證調書及各證人訊問調書ハ執レモ無効ニシテ右檢證及證人訊問ハ適法ニ履踐セラレタルモノト認ムルニ由ナク結局原院ニ於テハ自ラ決定シタル證據調ヲ適法ニ履踐セサルコトナリ原院公判手續ハ違法也トス然ラハ原判決ハ斯ル違法ノ公判ニ基キ下サレタルモノナルヲ以テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ○數人ノ受命判事カ共同シテ證人ヲ訊問シ若ハ檢證ヲ爲シタル場合ニ於テ當該判事ハ刑事訴訟法第五十八條第一項ニ所謂取調ヲ爲シタル者ニ該當スルヲ以テ此ノ取調ニ付作成シタル調書ニ各自署名捺印スヘキモノトス同條但書ハ公判期日外ニ於テ裁判所カ取調又ハ處分ヲ爲シタル場合ニ之ニ付作成シタル調書ニ署名捺印スヘキ者ノ特例ヲ定メタル規定ナレハ敍上ノ場合ニ之ヲ準用シ一人ノ判事ノ

## 【要旨】

ミ調書ニ署名捺印スルコトヲ得ルモノト解スルハ正當ナラス所論檢證調書證人訊問調書ヲ査スルニ其ノ冒頭ニ受命判事杉浦忠雄保持道信ハ裁判所書記久代政男立會ノ上檢證若ハ證人訊問ヲ爲シタル旨ヲ記載シ尋テ檢證ノ結果若ハ證人ノ訊問及供述錄取シアルヲ以テ上記二名ノ判事ハ共同シテ取調ヲ爲シタルコト明ニシテ各自同調書ニ署名捺印スヘキ筋合ナルニ判事杉浦忠雄ノミ裁判所書記久代政男ト共ニ之ニ署名捺印シタルハ前示法條ニ違反シタルモノト謂ハサルヘカラス但シ同調書ハ其ノ後原審法廷ニ於テ裁判長ヨリ被告人ニ讀聞ケ(檢證調書添付ノ圖面ハ之ヲ示ス)意見ノ有無ヲ問ヒタルコト公判調書ノ記載ニ依リ明ナルヲ以テ證據決定ノ施行ナキモノト解スルヲ得ス原判決ハ同調書ノ記載ヲ證據ニ援用セサルノミナラス敍上ノ法令違反ハ原判決ニ影響ナキコト明白ナレハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事柴碩文關與

○公有水面埋立法違反被告事件 (昭和四年(九)第一二八號 同年四月十日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 中田良太郎 辯護人 益谷 茂藏

【第一審】 輪島區裁判所 【第二審】 金澤地方裁判所

○判示事項

公有水面埋立法第三十九條第一號ノ埋立工事ヲ爲ス者——公有水面ト取得時効

○判決要旨

- 一 公有水面埋立法第三十九條第一號ノ規定ハ地方長官ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲ス者ハ自己ノ利益ヲ目的トスルト否ヲ問ハス之ヲ處罰スル趣旨ナリトス【要旨第一】
- 二 公共ノ用ニ供セラルヘキ公有水面ハ其ノ公用ヲ廢シタル後ニ非サレハ取得時効ノ目的ト爲ラサルモノトス【要旨第二】

【參照】 公有水面埋立法第二條 埋立ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ免許ヲ受ケヘシ 同法第三十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタル者
- 二 詐欺ノ手段ヲ以テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ヲ受ケタル者
- 三 埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シ公有水面ノ公共利  
用ヲ妨害シタル者

明治二十三年勅令第二百七十六號官有地取扱規則第十一條 官ニ屬スル公有地及水面ハ其公用ヲ廢シタル後ニアラサレハ賣拂讓與交換又ハ貸付スルコトヲ得ス但公衆ノ妨害トナラサル限りハ公用ニ供シタル儘有料又ハ無料ニテ特ニ其使用ヲ許スコトヲ得

民法第六十二條 二十年間所有ノ意思ヲ以テ平穩且公然ニ他人ノ物ヲ占有シタル者ハ其所有權ヲ取得ス  
十年間所有ノ意思ヲ以テ平穩且公然ニ他人ノ不動産ヲ占有シタル者カ其占有ノ始善意ニシテ且過失ナカリシトキハ其不動産ノ所有權ヲ取得ス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ事實ヲ認定シ公有水面埋立法第三十九條第一號ヲ適用シ被告人中田良太郎ヲ罰金六十圓ニ處ス旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ地方長官ノ免許ヲ受ケスシテ昭和二年七月十五日頃ヨリ同年八月二日頃迄ノ間ニ居町字乙ケ崎ホ五十九番地ナル父文吉所有地地先ノ國有海面約十八坪ノ埋立ヲ爲シタルモノナリ

○理由

公有水面埋立法第三十九條第一號ノ埋立工事ヲ爲ス者 公有水面ト取得時効

辯護人益谷幾藏上告趣意書第一點被告ハ父文吉所有ノホノ五十九番地ノ一部ニシテ元陸地ナリシヲ三十年前頃船上場ト爲ス爲取毀テ傾斜面ヲ作り一部水面トナシ爾來昭和二年七月迄船上場トシテ使用シ來リタル箇所ヲ復舊陸地ト爲ス爲埋立タルモノニシテ被告ハ當初ヨリ右埋立ニヨル陸地ヲ自己ノ所有ト爲ス意思毛頭無ク父文吉所有前記ホノ五十九番地ノ一部分ト當然成ルモノト思考スルト同時ニ父文吉ニ於テ本件埋立ヲ知ルハ勿論其ノ結果生シタル陸地ハ當然自己所有ホノ五十九番地ニ附加セラレタルモノト信シタル處ニシテモシ夫レ本件埋立ニ付免許ヲ出願シタリトセハ必スヤ父文吉名義ヲ以テセシヤ明ニシテ畢竟被告ハ自己ヲ利スル念願ヨリ埋立ヲ爲シタルモノト言フ能ハス而シ公有水面埋立法第三十九條第一號ハ「免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタル者」トアリテ埋立ヲ爲シタル者自身ヲ罰スル規定ナルカ如キモ本法全條ニ通スル精神ニ見レハ行爲ノ結果不法ニ利得セシ者ヲ罰スル規定ナリト信ス果シテ然ラハ本件ハ原審認定ノ如ク公有水面ヲ埋立タルモノトスルモ被告自身ハ埋立ノ結果何等利得スル所ナキヲ以テ公有水面埋立法違反ニ問擬セラルヘキニ非ス即チ原審判決ハ不當ニ法律ヲ適用シタルモノト云フヘシト云フニ在リ○因テ按スルニ公有水面埋立法ハ公有水面ハ其ノ狀態ニ於テ公共ノ利便ニ重要ナル關係ヲ有スルヲ常トスルヲ以テ漫ニ之カ埋立ヲナスコトヲ許スヘキニアラス然レトモ之カ埋立ニ依リテ更ニ多大ノ利益ヲ得ヘキ場合ニ在リテハ埋立ヲ爲スコトヲ許容スヘキモ其ノ利益ヲ得ントスル者カ擅ニ其ノ利益ヲ收メントスルコトハ利害關係者間ニ紛争ヲ生スル虞アルコト勿

## 【要旨第一】

論公平ニ公共ノ利便ニ付テモ考慮スルヲ必要トスルヲ以テ其ノ利害得失ヲ考量シテ許否ヲ決定スルノ權限ヲ地方長官ニ委ネタルコト同法ノ規定ヲ通覽シテ誠ニ明瞭ナリ從テ同法第三十九條第一號ノ規定ハ地方長官ノ免許ヲ受ケスシテ公有水面ヲ埋立ツル工事ヲ爲ス者ノ何人タルヲ問ハス之ヲ處罰ス可ク埋立ニ依リテ利得ヲ收ムヘキ者ノミヲ處罰スルノ趣旨ニアラサルコトモ亦疑ヲ容ルルノ餘地ナシ故ニ原判決ノ如ク被告人ノ居町字乙ヶ崎ホ五十九番地ハ父文吉ノ所有地ニシテ被告人カ埋立ヲ爲シタルハ其ノ地先公有海面ニシテ右埋立工事ノ結果其ノ利得スル者ハ被告人ニ非スシテ父文吉ナリトスルモ右罰條ノ適用ヲ妨ケス而シテ被告人カ埋立工事ヲ爲シタル右五十九番地地先ハ元陸地ニシテ同地番ノ一部ナリトノ主張ハ原判決ノ認メサル所ナレハ之ヲ前提トシテ云爲スル論旨ハ畢竟原判示ニ副ハサル批難タルニ歸ス論旨理由ナシ

## 【要旨第二】

同第二點本件埋立箇所ハ原審認定ノ如ク嘗テ陸地タリシコトナク所謂公有水面ナリシトスルモ被告ノ父文吉ハ平穩且公然ニ三十年以前ヨリ相當ノ施設ヲ爲シ船上場ニ使用シ來リタルモノナレハ時効ニヨリテ所有權ヲ取得シタルモノト言フヘク之ニ埋立工事ヲ爲スモ違法ニアラスト云フニ在レトモ○公共ノ用ニ供セラルヘキ公有水面ニ付テハ其ノ公用ヲ廢止シタル後ニ非サレハ取得時効ノ目的ト爲ラサルヲ以テ假令所論ノ如ク被告人ノ父文吉ニ於テ平穩且公然ニ三十年以前ヨリ原判示ノ公有水面ヲ占有シ來リシトスルモ其ノ公用ヲ廢止セラレタル事跡ナキヲ以テ文吉ニ於テ取得時効ニヨリ所有權ヲ取得ス

ルコトナキモノト謂ハサルヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)  
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 検事平井彦三郎關與

○織物消費税法違反被告事件(昭和四年(九)第一九五號 棄却)  
(同年四月十一日第五刑事部判決)

〔上告人〕 被告人 山本廣作 辯護人 岡本實太郎  
 杉浦吉五郎  
 〔第一審〕 岡崎區裁判所 〔第二審〕 名古屋地方裁判所

○判示事項

「ラミー」ヲ交織シタル織物ト消費稅

○判決要旨

百分ノ五ヲ超エタル「ラミー」ヲ交織シタル織物ハ織物消費税法第一

條ノ二第一項ニ依ルモ又織物消費税法施行規則第三十一條ニ依ル  
 モ無稅品タルヘキモノニアラス

〔參照〕 織物消費税法第一條 織物ニハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス但シ綿織物ニ付テハ  
 此ノ限ニ在ラス

同法第一條ノ二 本法ニ於テ綿織物ト稱スルハ全重量百分中九十五以上ノ綿ヲ以テ  
 組成シ絹、人造絹、金屬絲、金屬線、金屬箔、漆絲又ハ漆箔ヲ交ヘサル織物ヲ謂フ  
 絹紡抽絲芭蕉絲其ノ他命令ヲ以テ定ムル原料ヲ以テ組成スル織物ニシテ命令ノ定  
 ムルモノハ之ヲ綿織物ト看做ス

同法第二條 消費稅ノ稅率ハ織物ノ價格百分ノ十トス

同法第十條 第五條又ハ第七條ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テ製造  
 場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ルコトヲ得ス

同法第十一條 織物製造者ハ第五條又ハ第七條ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費稅納  
 付前ニ於テ織物ヲ他ニ引渡スコトヲ得ス

同法第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ  
 消費稅ヲ徵收ス但シ消費稅四圓未満ナルトキハ罰金額ハ二十圓トス

一 第十二條但書ニ該當スル場合ヲ除クノ外政府ニ申告セスシテ織物ヲ製造シタ  
 ルトキ

二 外國ニ輸出スル爲若ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出スル爲消費稅ヲ免除セラレタ  
 ル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ内地ニ於テ消費シ又ハ内地ニ於テ消費ス

「ラミー」ヲ交織シタル織物ト消費稅

- ル目的ヲ以テ讓渡シタルトキ
- 三 消費税納付前又ハ擔保提供前ニ於テ織物ヲ消費シタルトキ
- 四 第七條ニ依リ引取りタル織物ヲ其ノ定メラレタル場所ニ移入セサルトキ
- 五 第十條又第十一條ノ規定ニ違反シタルトキ

織物消費税法施行規則第三十一條 左ニ掲クル原料ノミヲ以テ組成スル織物ハ織物

消費税法第一條ノ二第二項ノ規定ニ依リ綿織物ト看做ス

- 一 英貳番手二十八號ヲ超エサル絹紡軸絲
- 二 芭蕉絲
- 三 黃麻
- 四 葛
- 五 藤
- 六 檜
- 七 楮
- 八 鳳梨
- 九 科
- 十 竹
- 十一 紙
- 十二 襪
- 十三 前各號ノ一種又ハ數種ト綿
- 十四 前各號ノ一種又ハ數種ト全重量百分中五未満ノ毛又ハ黃麻以外ノ麻

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律適用ヲ爲シ被告人廣作ヲ罰金九百二十四圓六十五錢ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金三圓ヲ一日ニ換算シ端數二圓六十五錢ヲ一日トシテ三百一日間勞役場ニ留置ス訴訟費用ノ半額ヲ被告人廣作ノ負擔トスル旨被告人吉五郎ヲ罰金三百四十八圓九十五錢ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金三圓ヲ一日ニ換算シ端數九十五錢ヲ一日トシ百十七日間勞役場ニ留置ス訴訟費用ノ半額ヲ被告人吉五郎ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人廣作ハ織物製造業者ニシテ昭和三年二月中旬頃ヨリ同年四月十三日頃迄ノ間ニ綿麻交織物ノ一種ナル綿ラミー交織物(ラミー百分ノ五以上交織)九十九本(價格千八百五圓三十九錢)ヲ製造シタル處其ノ頃犯意ヲ繼續シテ數回ニ亘リ織物消費税ヲ納付セス又該税額ニ相當スル擔保ヲモ提供セスシテ右織物ヲ肩書自宅製造場ヨリ引取り之ヲ名古屋市瀧定合資會社外二個所ニ販賣シテ引渡シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示行爲中織物引取ノ點ハ織物消費税法第十條其ノ引渡ノ點ハ同法第十一條ニ各違反シ夫々同法第十七條第一項第五號第二條ニ該當スル處右ハ連續係ルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シテ一罪ト爲シ其ノ重キ引取ノ罪ニ付キ定メタル刑ニ從ヒテ被告人ヲ處斷シ尙同法第十八條ニ依リ罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル勞役場留置ノ期間ヲ定メ訴訟費用ノ半額ハ刑事訴訟法第

「ラミー」ヲ交織シタル織物ト消費税



二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス  
 被告人及辯護人ハ本件綿ラミール交織物ハ織物消費稅ヲ課セラルヘキモノニアラスト主張スレトモ織物  
 消費稅ハ第一條第一條ノ二ニ依レハ同法ニヨリ消費稅ヲ課セラレサル織物ハ全重量百分中九十五以上  
 ノ綿ヲ以テ組成シタル綿織物ナルコト明ナルヲ以テラミール百分ノ五以上ヲ交織セル本件綿ラミール交織  
 物カ右綿織物ニ該當セサルコト言フヲ俟タサル所トス又織物消費稅法施行規則第三十一條ニハ綿織物  
 ト看做サルル織物ノ組成原料ヲ列記シ在リテ右原料ノミヲ用ヒテ織出セル織物ハ綿織物ト看做サレ純  
 然タル綿織物ト同様免稅セラルルモ其ノ以外ノ原料ヲ用ヒタル織物ニ對シテハ當然加稅セラルヘキモ  
 ノナルコトハ同條並ニ織物消費稅法第一條及第一條ノ二ノ法意ニ照シ解釋ト疑ヲ容レサル所トス然ル  
 ニ本件ラミールハ右綿織物ト看做サルル原料トシテ列記セラルル中ニ掲出シ在ラサルノミナラス原審第  
 二回公判調書中鑑定人山本堅次ノ供述トシテ織物消費稅法施行規則第三十一條各號列記ノ品種中ニハ  
 ラミール同一種類ノモノハコレ無キ旨ノ記載アルニヨリ之ヲ觀レハ本件ラミール交織物ハ免稅品ニアラ  
 スシテ課稅品ナリト解スルヲ相當トスヘキニ依リ右被告人及辯護人ノ主張ハ之ヲ排斥ス  
 被告人吉五郎ハ織物製造業者ニシテ昭和三年三月六日頃ヨリ同年四月十三日頃迄ノ間ニ綿麻交織物ノ  
 一種ナル綿ラミール交織物(ラミール百分ノ五以上交織)四十三本(價格合計金六百九十七圓九十五錢)ヲ  
 製造シタル處其ノ頃犯意ヲ繼續シテ數回ニ亘リ織物消費稅ヲ納付セス其ノ他適法ノ手續ヲ爲サスシテ

右織物ヲ肩書自家製造場ヨリ之ヲ碧海郡新川町字笠清水山本廣作ニ引渡シタルモノナリ  
 法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中織物引取ノ點ハ織物消費稅法第十條其ノ引渡ノ點ハ同法第十一條ニ  
 各違反シ夫々同法第十七條第一項第五號第二條ニ該當スル處右ハ連續ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ヲ  
 適用シテ一罪ト爲シ其ノ重キ引渡ノ罪ニ付キ定メタル刑ニ從ヒテ被告人ヲ處斷シ尙同法第十八條ニ依  
 リ罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル勞役場留置ノ期間ヲ定メ訴訟費用ノ半額ハ刑事訴訟法第  
 二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス  
 被告人吉五郎ニ對スル右原判決中被告人及辯護人ノ主張及之ニ對スル說明ハ被告人廣作ニ對スルモノ  
 ト同一ナルヲ以テ之ヲ省略ス

○ 理 由

各被告人辯護人岡本實太郎上告趣意書(一)原審判決ハ法規ノ精神上ヨリ法ノ解釋ヲ誤レル違法アリ  
 大正十五年第五十一回帝國議會ニ於テ稅制整理ノ一トシテ織物消費稅中綿織物消費稅ヲ免除スルコト  
 トシ同法改正案ヲ政府ヨリ提案サレ兩院通過其ノ後改正法律トナリシハ所謂社會政策的稅制整理トシ  
 テ通行稅廢止賣藥印紙稅廢止ト相並ヒ綿織物消費稅廢止ハ其ノ主眼トサレシモノナリ則之ニヨリ一般  
 民衆ノ日常使用スル下級安價ナル綿織物ニ對スル消費稅ヲ免除シ幾分タリトモ其ノ負擔ヲ輕減セムト  
 スル趣旨ナリ而モ織物消費稅總額中ノ大部分ハ口ノ綿織物ニテ占メタレハ其ノ免稅ハ法文ノ體裁ヨリ

「ラミール」ヲ交織シタル織物ト消費稅

ハ例外ノ如キモ實ハコノ例外カ事實ノ上ニハ本則タルヘキモノナリ唯立法技術ノ上ヨリ但シ書トセシ  
 ノミコノ立法精神ヨリ鑑ミレハ綿又ハ之ニ準スヘキモノハ當然無稅トシテ取扱ハルヘキモノナリ施行  
 規則第三十一條列記亦コノ趣旨ニヨリ規定サレタルモノナリ隨テ織物原料トシテ常ニ綿以下ノ價格ニ  
 アルラミールハ織物トシテ全ク綿織物ト同視スヘキモノナリ故ニ綿織物以上ニ上ラサルラミール交織物ハ  
 綿織物ニ準シテ當然無稅タルヘキモノトスコレ法ノ精神トスルトコロナレハ是趣旨ニヨリ關係條規ヲ  
 解釋セサルヘカラス然ルニ唯單ニ徵稅一點ヨリ法ノ形式ニ囚ハレ苛察ナル解釋ヲ下スハ法規ヲ蹂躪ス  
 ルノ甚シキモノナリ須ラク法規ノ解釋トシテハ其ノ價格綿以下ノラミールハ麻ニアラス綿ニ準スヘキモ  
 ノトシテ當然無稅タルヘク隨テ施行規則第三十一條列記該當ノ詮議ヲ要セサルモノナリ假リニ一步ヲ  
 讓リ同條項該當ノ詮議ヲ要スルモノトナスモ施行規則第三十一條第十四號末文「黃麻以外ノ麻」以外  
 ノモノトシテ無稅タルヘキモノト解釋スルコト當然ナリ斯クシテ織物消費稅法第十條第十一條第十七  
 條ノ適用ハ阻却サルヘキモノトスト云フニ在レトモ○織物消費稅法第一條第一條ノ二同施行規則第三  
 十一條ニ依レハ織物ニシテ消費稅ヲ課セサルモノハ織物消費稅法第一條ノ二第一項ニ規定セル綿織物  
 即百分中九十五以上ノ綿ヲ以テ組成セルモノナルカ又ハ同條第二項同施行規則第三十一條ニ依リ綿織  
 物ト看做サルヘキモノ即右第三十一條ニ列記セル原料ヲ以テ組成セルモノナルヲ要スルコト明白ニシ  
 テ所論ノ如ク織物ノ原料ノ價格カ綿ニ比シ同等又ハ低廉ナルカ爲ニ該織物ヲ綿織物ニ準シ無稅品ト爲

【要旨】

スヘキモノト解スヘキ何等ノ規定アルコトナシ而シテ原判示ニ依レハ本件織物ハ百分ノ五以上ノ「ラ  
 ミール」ヲ綿ニ交織シタルモノニ係リ即前記第一條ノ二第一項ニ規定セル綿織物ニ該當セサルコト明白  
 ナルカ故ニ其ノ課稅品タルヤ否ハ一ニ其ノ原料カ同施行規則第三十一條ニ列記シタルモノニ該當スル  
 ヤ否ニ依リ決セラル可ク所論ノ如ク「ラミール」ノ價格カ綿ニ比シ低廉ナリトスルモ之カ爲ニ本件織物  
 ヲ綿織物ニ準シ無稅品ト爲スヘキモノニ非ス然ラハ原判決カ右ト同一見解ノ下ニ本件織物カ「ラミール」  
 ヲ綿ト交織セルモノナルカ爲ニ之ヲ綿織物ニ準シ無稅品トスヘキモノト爲サス進テ其ノ原料カ前記施  
 行規則第三十一條列記ノモノニ該當スルヤ否ヲ審究シタルハ正當ナリ而シテ「ラミール」ト綿カ同條列  
 記ノ孰レニモ該當セサルコト洵ニ原審ノ判示シタルカ如ク又既ニ原料ニシテ同條列記ノモノニ非サル  
 以上「ラミール」カ黃麻以外ノ麻ナルト否トヲ問ハス本件織物ハ無稅品タルヘキモノニ非サルヲ以テ原  
 判決カ之ヲ課稅品ナリト判示シタルハ相當ナリ本論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨並判決理由  
 ハ之ヲ省略ス)

以上説明スルカ如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事宮城長五郎關與

○治安維持法違反被告事件 (昭和四年(九)第一一〇一號 棄却)

同年四月三十日第一刑部判決

〔上告人〕 被告人 石井長治 辯護人 神道寛次

〔第一審〕 旭川地方裁判所 〔第二審〕 札幌控訴院

○判示事項

大正十四年法律第四十六號治安維持法第一條第一項ト私有財産制度ノ否認——私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル結社

○判決要旨

一私有財産制度ヲ根本的ニ破壊スルヲ目的トスルハ大正十四年法律第四十六號治安維持法第一條第一項ノ私有財産制度ヲ否認スルヲ目的トスルモノニ該當ス〔要旨第二〕  
二生産機關ヲ公有ニ歸セシメ共產主義的社會ヲ建設スル爲又ハ産業機關ヲ社會公有ニ移シ共產制度ヲ實現スル目的ヲ以テ結社ヲ組織スルハ即チ私有財産制度ヲ根本的ニ破壊スルヲ目的トスルモノニシテ前掲治安維持法第一條第一項ノ私有財産制度ヲ否認

スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織スルモノニ外ナラス〔要旨第二〕

〔參照〕 大正十四年法律第四十六號治安維持法第一條 團體ヲ變革シ又ハ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シ又ハ情ヲ知リテ之ニ加入シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

昭和三年勅令第二百二十九號治安維持法中改正ノ件第一條 團體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知ツテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定法律ノ適用ヲ爲シテ被告人石井長治松崎豐作ヲ各禁錮二年ニ被告濱野勇一佐藤鐵之助ヲ各禁錮一年六月ニ處シ各未決勾留日數中九十日ヲ本刑ニ算入シ訴訟費用ハ被告人長治以下四名及他ノ原訴共同被告人三名並第一審共同被告人足利貞雄奥山正二松川泰助藤田永伯

大正十四年法律第四十六號治安維持法第一條第一項ト私有財産制度ノ否認 私有

ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人石井長治濱野勇一佐藤鐵之助北村順治郎村山政儀中山茂原審相被告人足利貞雄奥山正二松川泰助藤田永伯等ハ大正十四年五月頃プロレタリア藝術研究ノ目的ヲ以テ設立セラレタル名寄新藝術協會ノ會員ナリシ處同協會ニ於テ藝術研究ノ外ニ所謂社會科學ヲモ研究スルノ必要アリトナシ石井長治指導ノ下ニ濱野勇一佐藤鐵之助北村順治郎等ニ於テマルクス主義ヲ研究シタル結果漸次之ニ共鳴スルニ至リタルカ被告人石井長治ハ更ニ其ノ活動ヲ政治闘争ノ實行の領域ニ進出セシムヘク其ノ爲ニハ之カ機關ヲ設クルノ要アリト提唱シ他方同シクマルクス主義ノ研究者タル被告人松崎豊作ト旭川市ニ於テ會合シ同人トノ間ニ政治的自由獲得ノ爲ノ萌芽形態トシテノ黨ヲ組織スヘキ旨協議シ次テ同人家昭和二年八月頃前記藝術協會ニ入會スルヤ被告人石井長治松崎豊作濱野勇一佐藤鐵之助等ハ共產主義ヲ實現スルコトヲ目的トスル黨ヲ組織センコトヲ謀議シ石井松崎ニ於テ其ノ黨組織ニ關スル規約ヲ作成スル等ノ準備ヲ爲シタル上同年八月二十七日名寄新藝術協會ハ四會總會ヲ機トシ其ノ總會終了ノ後被告人石井長治松崎豊作濱野勇一佐藤鐵之助北村順治郎村山政儀及原審相被告人足利貞雄奥山正二等ハ右名寄新藝術協會事務所ニ會合シ同席上ニ於テ被告人石井長治ハ現在ノ社會制度ニ缺陷アリ之レ有産支配階級カ無産階級ヲ壓迫搾取シ勞働ニ對スル賃金ヲ正當ニ支給セサルニ基因ス之ヲ防止スル手段トシテハ生産機關ヲ公有ニ歸セシメ分配ハ社會ノ手ニ依リテ勞働ノ價值ニ相當シテ分配スルノ要アリ

リ而シテ現在ノ資本的經濟組織ヲ破壊シ共產主義的社會ヲ建設スル爲ニハ其ノ實現運動ヲ爲ス機關トシテ政治行動ヲ爲ス結社ヲ組織スルコト急務ナルニ依リ吾々ハ共產主義(コンミュニスト)トシテ前衛分子(ケルン)ヲ以テ新藝術協會ノ上ニ立ツ集産黨ト稱スル結社ヲ組織スヘク其ノ黨ノ目的ハマルクス主義ヲ實行シ我國ニ於ケル私有財産制度ヲ否認シ産業機關ヲ社會公有ノ經營ニ移行シ以テ共產制度ヲ實現スルニアリ其ノ組織ハ中央執行委員會即幹部獨裁トシ尙黨大會黨地方協議會本部常任委員會黨協議會等ノ機關ヲ設ケ黨協議會ノ下ニ集産黨協會無産者協會勞働者協會農協協會新藝術協會婦人協會等ノ各機關ヲ置キ右各協會ノ下ニ勞働班農班市民班學校班ヲ設ケ中央執行委員會ノ決議ニ基キ黨地方協議會黨協議會各協會各班ニ順次ニ指令ヲ爲シ最下層團體タル各班ヲシテ右指令ニ基キ無産者階級ヲ共產主義ニ教化シテ團體ヲ結成セシムルニアリ即チフラクシヨン形態(少數派運動)ヲ採リテ順次大衆ヲ共產主義者ニ獲得シ政治闘争ニヨリテ右目的ヲ實現スルニアリト説キ以テ結社ノ勸誘ヲ爲シタルトコロ被告人松崎豊作北村順治郎ハ各自意見ヲ提出シ討議ヲ爲シタルカ結局前記列席ノ被告人等ハ孰モ右石井長治ノ提唱ニ賛同シ茲ニ我國ノ私有財産制度ヲ否認シ共產制社會ヲ實現スルコトノ目的ヲ以テ右被告人等ヲ黨員トシ前示中央執行委員會等ノ機關ヲ備ヘ集産黨ト命名セル結社ヲ組織シ翌二十八日中央執行委員會ヲ開催シ同會ニ於テ黨員ヲ前示被告人等ノ外被告人中山茂原審相被告人藤田永伯松川泰助其ノ他八名合計十九名ニ指定シ被告人石井長治ヲ中央情報調査兼中央組織部委員長及中央委員

長ニ被告人松崎豊作ヲ中央常任書記兼中央執行委員長及中央委員ニ被告人中山茂村山政儀濱野勇一北村順治郎佐藤鐵之助原審相被告人松川泰助藤田永伯外一名ヲ中央委員ニ選定シ其ノ後中央執行委員會ヲ數回開催シ黨ノ組織行動戰術ニ付決議ヲ爲シ前記新藝術協會ノ外ニ日本プロレタリア藝術聯盟北海道同盟無產者協會士別婦人協會等ノ行動機關ヲ設立シタルモノナリ

第二 被告人中山茂ハ當時名寄新藝術協會內支部ノ會員トナリシトコロ直接前記結社組織ニ參加セサリシモ前示ノ如ク黨ニ於テハ同人ヲ黨員トスルコトヲ決定シ居リ昭和二年八月二十九日稚内町ニ於テ右結社決議ニ列席シ居タル山正隆ヨリ結社成立ノ顛末ヲ報告セラレタルヨリ集産黨カ前示ノ目的ヲ有スルコトヲ認識シナカラ黨本部ニ對シ入黨ノ承諾ヲ爲シ以テ右結社ニ加入シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ孰レモ大正十四年法律第四十六號治安維持法第一條ニ該當スルモノナル處同法ハ本件犯罪後昭和三年六月二十九日勅令第二百九號(同日ヨリ執行)ヲ以テ改正セラレタルニヨリ右新舊兩法ノ刑ヲ比較スルニ被告人石井長治松崎豊作濱野勇一佐藤鐵之助北村順治郎村山政儀ノ判示第一ノ結社ヲ組織シタル行爲及被告人中山茂ノ判示第二ノ結社ニ加入シタル行爲ハ孰レモ舊法タル前示法律ニ於テハ第一條第一項ニ該當シ新法タル前示勅令ニ於テハ第一條第二項ニ該當シ各所定ノ刑相等シキヲ以テ行爲時法タル舊法ニ從フヘキモノトシ其ノ禁錮刑ヲ選擇シ被告人石井長治松崎豊作ヲ各禁錮二年ニ濱野勇一佐藤鐵之助ヲ各禁錮一年六月ニ北村順治郎村山政儀中山茂ヲ各禁錮

一年二月ニ量定處斷シ刑法第二十一條ヲ適用シテ未決勾留日數中被告人北村順治郎ニ對シ五十日ヲ其ノ他ノ被告人ニ對シ各九十日ヲ右本刑ニ算入シ被告人北村順治郎村山政儀中山茂ニ對シテハ所犯情狀刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條ニ依リ孰レモ三年間刑ノ執行ヲ猶豫シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ主文末項ノ如ク之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○理由

各被告人辯護人神道寬次上告趣意書第一點原判決ハ其ノ理由中「結局前記列席ノ各被告人等ハ孰レモ右石井長治ノ提唱ニ贊同シ茲ニ我國ノ私有財產制度ヲ否認シ共產制社會ヲ實現スルコトノ目的ヲ以テ右被告人等ヲ黨員トシ前示中央執行委員等ノ機關ヲ備ヘ集産黨ト命名セル結社ヲ組織シ翌二十八日中央執行委員會ヲ開催シ同會ニ於テ黨員ヲ前示被告人等ノ外被告人中山茂原審相被告人藤田永伯松川泰助其ノ他八名合計十九名ニ指定シ被告人石井長治ヲ中央情報調查兼中央組織部委員長及中央委員長ニ被告人松崎豊作ヲ中央常任書記兼中央執行委員長及中央委員ニ被告人中山茂村山政儀濱野勇一北村順治郎佐藤鐵之助原審被告人松川泰助藤田永伯外一名ヲ中央委員ニ選定シ其ノ後中央執行委員會ヲ數回開催シ黨ノ組織行動戰術ニ付決議ヲ爲シ前記新藝術協會ノ外ニ日本プロレタリア藝術聯盟北海道同盟無產者協會士別婦人協會等ノ行動機關ヲ設立シタルモノナリ」ト判示シタリ治安維持法第一條第一項ハ「團體ヲ變革シ又ハ私有財產制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シ又ハ情ヲ知リテ之ニ加

大正十四年法律第四十六號治安維持法第一條第一項ト私有財產制度ノ否認 私有 財產制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル結社

入シタル者八十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス。ト規定シ私有財産制度ノ意義本質並ソノ否認トハ如何ナル行爲ヲ指稱スルモノナリヤ換言スレハ否認ナル行爲ノ内容タル事實ニ關シテハ同法ハ何等規定スルコトナシ斯ノ如キ抽象的且相對的の字句ヲ用ヒタル刑罰法規ハ他ニ類例ヲ見サル處ナリ惟フニ私有財産制度ハ資本主義制度ト同一ニ非ス現在日本カ資本主義經濟組織ノ過程ニ在ルコトハ世人ノヒトシク認ムルトコロナルモ尙其ノ構成中ニハ幾多ノ封建的要素ノ残留スルコトモ亦看過スヘカラサル事實ナリ凡社會ノ制度ヲ分ツテ封建制資本主義制共産制等ニ區別セラルルコトアルモ私有財産制ナル制度ヲ獨立單一ノ制度トシテ規定シタルハ實ニ治安維持ニ於テノミナリ治安維持法ハ現代日本ヲ以テ私有財産制度ノ段階ニ在ルモノト認識スルモノノ如キモ斯ノ如キハ立法者カ社會組織ニ對スル認識ノ錯誤乃至ハ迷信的結果ニシテ私有財産制度ナル單一獨立ノ社會制度ハ存在セス況ンヤ法律上私有財産制度ナルモノナシ法律カ規定乃至ハ保障スル所有權及此レヨリ派生シタル各種私權ト制度トシテノ私有財産制ノ法律の意義ハ嚴格ニ之ヲ區別セサルヘカラス何トナレハ封建制度ノ下ニ於テハ封建制度ニ適合シタル私有財産制ニ關スル法規アリテ私權ノ保護ヲ全ウシタルコトハ疑ナキトコロニシテ更ニ原始國家即チ王朝時代ヲ見ルニ當時ハ奴隸制度ノ時代トシテ茲ニモ亦ソノ社會制度ニ適合シタル私有財産ノ規定存在シ更ニ遡テ原始共産制ノ末期ノ狀態ヲ見ヨ茲ニハ私有財産制度ニ對スル一般の萌芽ヲ發見スルコトヲ得ヘシ更ニ翻テ現代ノロシア即チ「社會主義ソビエツト共和國聯邦」ヲ見ヨ茲ニモ亦私有財産

ハ事實トシテ存シ法規ニ於テ許容シ私權ノ保護全キヲ見ルヘシ「唯ソビエツト聯邦」カ他ノ資本主義國家ト相違スル點ハ生産機關(茲ニ所謂生産トハ分配マテヲ含ム分配ハ從屬的性質ヲ有スレハナリ)ノ國有ト國家ニ依ル管理ノ一點ニ存スルノミナリ即チ原始共産制奴隸制封建制資本主義制共産制夫々ノ制度ニ適應シタル私有財産ハ存在シ私權ノ保護全キヲ得ルモノナリ唯々資本主義制度ノ下ニ於テ私有財産ハ最大ノ保護ヲ得テ爛熟ノ絶頂ニ在ルノ差アルノミナリ即チ私有財産制度トハ一社會形態ニ特有ナル制度乃至ハ單一獨立ノ制度ニアラスシテ如上ノ如キ如何ナル社會形態ノ下ニ於テ夫々適應シテ存在シ得ル社會的必然タル一ノ事實ニ過キサレナリ原判決カ本件被告等ヲ治安維持法違反ナリト斷スルニハ先ツ事實トシテノ私有財産制度ナル社會制度ノ存否如何若シ存在スルトセハ本件犯罪發生當時ノ日本ニ於ケル私有財産制度トハ如何ナル形態ヲ指稱スルモノナリヤニ關シテ事實ノ判斷ヲ爲スヘキ義務アリ然ルニ原判決ハ如上ノ如ク虛無ノ事實タル私有財産制度ヲ當然ノ存在事實ナルカノ如ク前提シ此ノ基礎ノ上ニ本件事實ノ全認定ヲ爲シタルハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト云フヘク同時ニ原判決カソノ理由中以上ノ點ニ關シ何等判示スルトコロナキハ一面事實並法律ニ關スル判斷ヲ遺脱シタル違法アルト共ニ又一面理由不備ノ違法アルモノナリト云フニ在レトモ○按スルニ私有財産制度ヲ根本的ニ破壊スルヲ目的トスルハ大正十四年法律第五十六號治安維持法第一條第一項ニ所謂私有財産制度ヲ否認スルヲ目的トスルモノニ該當スルモノト謂フヘク原判決

## 【要旨第一】

大正十四年法律第五十六號治安維持法第一條第一項ト私有財産制度ノ否認 私有  
 財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル結社

ノ判示スル事實ニ依レハ被告人石井長治松崎豐作濱野勇一佐藤鐵之助等ハ共產主義ヲ實現スルコトヲ目的トスル黨ヲ組織センコトヲ謀議シ石井松崎ニ於テ其ノ黨組織ニ關スル規約ヲ作成スル等ノ準備ヲ爲シタル上昭和二年八月二十七日名寄新藝術協會事務所ニ右被告人四名其ノ他數名會合シ同席上ニ於テ被告人石井長治ハ現在ノ社會制度ニ缺陷アリ之レ有產支配階級カ無產階級ヲ壓迫搾取シ勞働ニ對スル賃金ヲ正當ニ支給セサルニ基因ス之ヲ防止スル手段トシテハ生産機關ヲ公有ニ歸セシメ分配ハ社會ノ手ニ依リテ勞働ノ價值ニ相當シテ分配スルノ要アリ而シテ現在ノ資本的組織ヲ破壞シ共產主義的社會ヲ建設スル爲ニハ其ノ實現運動ヲ爲ス機關トシテ政治行爲ヲ爲ス結社ヲ組織スルコト急務ナルニ依リ吾々ハ共產主義者(コンミュニスト)トシテ前衛分子(ケルン)ヲ以テ新藝術協會ノ上ニ立ツ集産黨ト稱スル結社ヲ組織スヘク其ノ黨ノ目的ハマルクス主義ヲ實行シ我國ニ於ケル私有財産制度ヲ否認シ産業機關ヲ社會公有ニ移シ以テ共產制度ヲ實現スルニ在リタルモノニシテ結局我國ノ私有財産制度ヲ否認シ共產制社會ヲ實現スル目的ヲ以テ集産黨ト名ツクル結社ヲ組織シタルモノニ係リ其ノ生産機關ヲ公有ニ歸セシメ共產主義的社會ヲ建設スル爲ト云ヒ又ハ目的ハ産業機關ヲ社會公有ニ移シ共產制度ヲ實現スルニ在リト云フカ如キハ要スルニ私有財産制度ヲ根本的ニ破壞スルコトヲ目的トスルモノニシテ即チ治安維持法第一條第一項ノ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスルモノニ外ナラス且我國ニ於テ私有財産制度ノ行ハレ居ルコトハ顯著ナル事實ニ屬シ原判決カ判示事實ヲ認メテ之ニ同條項

【要旨第二】

ヲ適用シタルハ固ヨリ正當ニシテ原判決ニハ所論ノ如キ違法ナク又記録ヲ查スルニ原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナキヲ以テ論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ハ其ノ理由中「(一)而シテ被告人石井長治松崎豐作濱野勇一佐藤鐵之助等カ共產主義實現ヲ目的トスル黨ヲ組織シタルコト乃至被告人石井長治松崎豐作濱野勇一佐藤鐵之助北村順治郎等カ判示ノ如ク昭和二年八月二十七日名寄新藝術協會事務所ニ於テ私有財産制度ヲ否認シ共產制社會ヲ組織シタル事實ハ(イ)原審第一回公判調書中被告人濱野勇一ノ供述トシテ之ヲ防止スル手段ハ生産機關ヲ國家ノ有ニ歸セシメ分配ヲ國家ノ手ニヨリテ勞働ノ價值ニ應ジ報酬ヲ得セシメサルヘカラス而シテソノ實現ヲ計ル機關トシテ政治行動ヲ執ル集産黨ヲ組織スル必要アリ此ノ結社ハ……中略……集合シタル者ノ全部石井ノ說ヲ贊成シ集産黨ヲ結社シタル旨ノ記載(ハロ)被告人石井長治ニ對スル豫審第一回訊問調書中……中略……下層ノ無產者ニ對シ教化運動ヲナシ大衆ヲマルクス主義ニ獲得スル組織ナル記載(ハ)被告人佐藤鐵之助ニ對スル豫審第一回訊問調書ニ同人ノ供述トシテ……中略……右統一機關タル黨ハ無產者解放運動ノ前衛分子トシテ正統マルクス主義ノ集團ニシテ組織ハ執行委員制ヲ執リ……中略……(ニ)被告人松崎豐作ニ對スル豫審第一回訊問調書中同人ノ供述トシテ集産黨ノ目的ハ政治ノ自由ヲ獲得ス換言スレハ資本主義的經濟組織ヲ否定シ共產主義的組織ニ社會制度モ變革スルコトヲ圖ルナリ資本主義的經濟組織ヲ否定スルハ物質ノ生産過程全部ト要素ヲ民衆ニ共有ニ歸スルコトナリ例ヘハ土地道頓坑汽船其ノ他生産ヲ爲スモノハ總テ民衆ノ共有ニ歸スルコトナリ集産黨ハ以上ノ事項ヲ實行スル萌芽形態ナリ石井ハソノ主宰トナリ被告人等ハ之ニ加盟シ同黨ヲ組織シタル旨ノ記載(ホ)被告人北村順治郎ニ對スル豫審第三回訊問調書中同人ノ供述トシテ……中略……無產者ヲマルクス主義ニ教化シ政治闘争ノ目的トスル集産黨ヲ組織スルコトノ相談アリ……中略……下略(ヘ)被告人村山政儀ニ對スル豫審第二回訊問調書中同人ノ供述トシテ……中略……各階級ニ進出シマルクス共產主義ニ教化シ共產主義ヲ實行シ行クナリト說明シタルニヨリ自分等モ贊成シタリ……中略……ヲ綜合シテ之ヲ認定スルニ足リ(三)尙右結社ノ翌二十八日判示ノ如ク正式ニ黨員ヲ指定シ役員ヲ決定シタルコトハ……以下略……ニヨリ其ノ證明十分ナリトス」ト判示シタリ惟フニ原判決ハ私有財産制度ト資本主義制度ト同一ニ解シ更ニ共產主義ハ即チ私有財産制度ヲ否認シ共產制ノ下ニ於テハ「產私有ノ觀念ヲ容ルヘカ」

サルモノトシ共産主義實現ヲ目的トスルコトハ直ニ私有財産制度否認ノ結果ヲ豫想シ隨テ右目的ノ爲結社ヲ組織スルコトハ直ニ以テ治安維持法違反ニ該當スルモノトノ誤レル前提ノ下ニ全判決ヲ構成シタルモノナリ「共産」ナル言葉ノ意義如何「共産」トハ財産ノ共有ヲ意味スルニ非スシテ生産機關ノ公有ヲ意味スルモノナリ共産主義ヲ奉スル「ソビエツトロシア」ノ権力下ニ私有財産カ店舖住宅ニ日用消費物ニ隨所ニ存在シテノ私權カ國法ノ保護ヲ受ケツツアル事實ハ決シテ共産主義ノ主張ト矛盾スルモノニ非ルナリ奴隸制度封建制度資本主義制度ノ發達過程カ過去ニ於テ示シカ如ク共産主義モ亦資本主義制度ヲ母胎トシテ資本主義爛熟ノ程ヨリ即チ資本主義展開ノ內在的法則ヨリ必然的ニ共産主義ノ綱領ノ産ミ出シタルモノナリ隨テソレカ一切ノ「私有財産」ソノモノノ撤廢ニ存スルニ非スシテ生産機關(前述ノ通り分配過程マテ含ム)ノ所謂資本制ヲ撤廢スルニ存スルコト論ヲ俟タサルトコロナリ更ニ否認トハ如何否認トハ言論又ハ行動ヲ以テスル人間ノ意思表示ナリ社會カソノ歴史の必然ニ隨テ生スル幾多制度上ノ變革ノ如キハ所謂否認ニ該當セサルモノナリ封建制度ト資本主義制度ト共産主義制度ト下ニ於テ私有財産ノ範圍形態ソノ制限法律保護ノ程度等ニ於テモ必スシモ同一ニ非ス然レトモソノ如何ナル社會制度ノ實現ヲ目的トスルニセヨ私有財産ノ撤廢乃至否認ト稱スヘキ理由ヲ發見シ能ハサルナリ「否認トハ通常ノ意味ニ於テハ事實存在スルニ拘ラス之ヲ認メサル」コトヲ指稱スルナリ即チ現ニ被告カ人ヲ殺シタルニ拘ラス公判ニ於テ人ヲ殺シタルハ被告ニ非スト主張スルカ如キ之ナリ此ノ意味ニ於テ私有財産ノ否認トハ「余ハ私有財産制度ヲ認メス」ト言語又ハ實行ヲ以テ意思表示スレハ足ルモノナリ惟フニ共産主義ノ目的トスルコロハ生産機關ノ公有ソノ社會ニ依ル管理ニアリテ私有財産制度ノ否認ニ非ルナリ生産ノ分配ト消費即チソノ所有關係ニ至リテハ大多數民衆ハ資本主義制度ノ下ニ於テ極度ニ窮乏化シ今ヤ失フヘキ何物ヲモ有セサル實情ニアリ寧ろ共産主義ノ目的トスル處ニ於テコソ民衆ノ主産物ノ所有ト生活資源ノ供給ハ亦全面滑ナルヲ期待シ得ヘキナリ原判決カ共産主義即チ私有財産否認主義ト斷定シ被告等ノ前記供述中「マルクス主義實現」等ノ言葉ヲ取テ以テ直ニ私有財産否認ノ證據ト爲シタルハ探證ノ原則ニ反シ不當ニ事實ヲ認定シタル違法アルモノナリ就中被告等ノ供述中最モ具體的ナリト認メラルヘキ「土地鐵道鑛坑汽船其ノ他ノ生産ヲナスモノハ總テ民衆ノ共有ニ歸スルコトナリ」トアル如キハ一見治安維持法ノ豫想スル私有財産否認ニ該當スルコトナキヤノ疑ヲ生シ易シト雖土地鐵道鑛坑汽船等カソノ一部國家ノ所有ニ歸シ國家ニ於テ之カ經營管理ヲナシツツアルコト更ニ鹽煙草等ノ生産經營ヲ私人ニ禁シタルコトハ現在日本ニ於テ公知ノ事實ニシテ更ニ米專賣全土地

國有等ノ議(貴族院關係ニ於テ多額納稅議員ニ依リ現實ノ問題トシテ論セラレタルコトアリ)等アルモ何等治安維持法ニ依テ處斷セラレタルコトヲ開カサルナリ或ハ無價大土地沒收ノ主張ノ如キ許スヘカラスト謂ハンモ斯ノ如キ事實ハ明治維新當時ニ於テ既ニ明治政府ハ大名ノ土地邸宅ヲスヘテ沒收シタルニ非スヤ明治維新ハ封建制度ヲ撤廢シタルトモ之ヲ以テ私有財産制度否認ヲ實行シタリト稱スルコトヲ得サルナリ要スルニ財産私有ノ形態ヲ或ル特定ノ條件ノ下ニ於テ一社會制度ナリト認容シタリトスルモ私有財産制度ノ否認ナル行爲ハ唯物辯證法ノ理論ノ上ニ科學的眞體ヲ把握シツツアル共産主義者ノ夢想タニセサルトコロニシテ治安維持法ハ共産主義トハ異レル的ニ向テ矢ヲ放テタルモノナリ仍テ案スルニ原判決ハ(1)資本主義制度ト私有財産制度トヲ混同シ資本主義制度即私有財産制度ヲ認識シタル點ニ於テ重大ナル事實誤認ヲ疑フニ足ル顯著ナル事由アリ(2)共産主義ノ意義本質並其ノ目的ヲ摘示セスシテ共産主義ヲ以テ直ニ私有財産制度否認ヲ目的トスルモノナリト認定シタル點ニ於テ理由不備ノ違法アルト共ニ重大ナル事實誤認ヲ疑フニ足ル顯著ナル事由アリ(3)私有財産制度ノ否認トハ何シヤソノ内容ヲ摘示セシテ「生産機關ノ公有例ヘハ土地鐵道鑛坑汽船其ノ他生産ヲナスモノハ總テ民衆ノ共有ニ歸スル」コトヲ直ニ私有財産制度ノ否認ト認定シタルハ理由不備ノ違法アルト共ニ重大ナル事實誤認ヲ疑フニ足ル顯著ナル事由アリ(4)原判決ノ摘示シタル全證據ヲ綜合スルモ集産黨カ「私有財産制度否認」ヲ目的トスル結社ナルコトヲ認ムヘキ何物モナシ原判決ハ證據ニ依ラスシテ事實ヲ認定シタル違法アルモノナリ(5)原判決ハ財産私有ノ形態範圍等ニ關スル變革ト之カ否認トヲ混同シタルモノニシテ重大ナル事實誤認ヲ疑フニ足ル顯著ナル事由アリト云フニ在レトモ○原判決ノ認メタル被告等ノ行爲カ前掲治安維持法第一條第一項ニ該當スル所以ハ前項ニ說示スル所ノ如シ原判決ハ其ノ列示事實ニ對シ證據ヲ舉示シ之ヲ認メタル所以ヲ說明シ毫モ其ノ理由ニ缺クル所ナク從テ原判決ニハ所論ノ如キ違法ナク且又重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナキヲ以テ論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事三橋市太郎關與

大正十四年法律第四十六號治安維持法第一條第一項ト私有財産制度ノ否認 私有財  
 產制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル結社



○出版法違反被告事件 (昭和四年(九)第一七一號 棄却)

(昭和四年四月三十日第一刑事部判決)

〔上告人〕 被告人 松澤徳哉 辯護人 〔布〕 施辰治

〔第一審〕 帶廣區裁判所 〔第二審〕 釧路地方裁判所

○判示事項

出版法第三條ト労働者ノ反抗ヲ懲慥スル文書——同法第二十四條ニ於ケル發行人印刷人ノ氏名

○判決要旨

- 一 官廳並資本家ニ對スル労働者ノ反抗ヲ懲慥スル文書ハ出版法第九條ニ所謂引札ニ非スシテ同法第三條ノ文書ナリ〔要旨第一〕
- 二 出版法第二十四條ニ發行人印刷人ノ氏名トハ發行又ハ印刷ヲ爲

又自然人ノ氏名ヲ謂フモノトス〔要旨第二〕

〔參照〕 出版法第三條 文書圖書ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除

キ三日前ニ製本二部ヲ添ヘ内務省ニ届出ヘシ

同法第九條 書簡、通信、報告、社則、啓則、引札、諸藝ノ番附諸種ノ用紙證書ノ類及寫眞ハ第

三條第六條第七條第八條ニ據ルヲ要セス但シ第十六條第十七條第十八條第十九條

第二十一條第二十六條第二十七條ニ觸ルル者ハ此ノ法律ニ依テ處分ス

同法第二十四條 發行者自己ノ氏名、住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名、住所又

ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ發行スル文書圖書ニ記載セス其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テ

セサル者ハ二圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ第一ノ罪ニ付罰金二十圓ニ第二ノ罪ニ付罰金十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ一日金二圓ノ割合ヲ以テ勞役場ニ留置ストノ判決ヲ言渡シタリ

被告人ハ北海道河西郡帶廣町三ツ瀬鐵工場ニ鐵工トシテ雇ハレ勞務ニ服スル傍勞働運動ニ從事シ帶廣町ニ勞働組合ヲ組織スヘク同志ト畫策シ居ル者ナル處昭和三年七月上旬帶廣町ニ於テ工場安全週間ノ催アルヤ此ノ機會ヲ利用シ勞働組合員ヲ糾合スル目的ヲ以テ同年七月三日帶廣町東一條七丁目松下ウメ方ニ於テ謄寫版ヲ以テ「またゴマカシの安全週間長時間の勞働て何か安全だ」ト題シ「今年モ又七月

出版法第三條ト労働者ノ反抗ヲ懲慥スル文書 同法第二十四條ニ於ケル發行  
人印刷人ノ氏名

二日カラ八日迄安全週間ダトスカシテグニモ付カナイ文句入ノボスターヲベタベタ貼付ケ工場カラ病人ヤ怪我人カ出レハ手前等ノ不完全ナル設備ヲ棚ニ上ケヤガツテ俺等ノ不注意ダトスカスノダ馬鹿野郎此ンナボスターハ手前等ノ座敷ニデモブラ下ゲテ面ヲ洗ツテ考ヘテ見ロ内務省ヤ資本案ハ何時テモ此ノゴマカシヲヤルノダ奴等ノゴマカシ宣傳ニ乗ルナ」云々「奴等ハ俺等ノ命ヨリモ金カラシイノダソレドコロジヤナイ俺等ヲ殺シテモ金ヲフンダクタイノダマルデ工場ダカ屠殺場タカワカリヤシナイ此ンナ事デ何カ安全週間ダヨクモヅウシク吹クラハスモノダ此ンナ資本案勝手ノ安全週間ヲケツトバシ」云々ト記載シタル檄文約五百枚ヲ印刷シ翌日右文書ヲ帶廣町内ノ帝國製麻株式會社北海道製糖株式會社及各鐵工場等ニ於テ其ノ労働者ニ頒布シタルニ拘ラス第一右文書ヲ出版スルニ當リ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日前ニ製本二部ヲ添ヘ内務省ニ届出ヲ爲サス第二右發行ニ係ル文書ニ發行者印刷者ノ氏名住所並發行印刷ノ年月日ヲ記載セサリシモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中第一ノ點ハ出版法第三條同第二十二條第二ノ點ハ同法第二十四條ニ各該當スルトコロ同法第三十二條ヲ適用シ且各刑法施行法第十九條第二條第二十條ニ則リ右各所定金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ第一ノ罪ニ付罰金二十圓ニ第二ノ罪ニ付罰金十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ヲ適用シ主文ノ如ク換刑處分ヲ定ムルヲ相當トス

○ 理 由

辯護人布施辰治中村高一上告趣意書第一點原審判決理由中「右文書ヲ出版スルニ當リ發行ノ日ヨリ到達スヘキ日數ヲ除キ三日前ニ製本二部ヲ添ヘ内務省ニ届出ヲ爲サス」ト判示シ届出ヲ要スル文書ナリト認定シタルモ右文書ハ出版法第九條ニ所謂引札ナルヲ以テ右文書ヲ出版スルニ當リ發行前内務省ニ届出ノ要ナキモノナルニ拘ラス之ヲ要スルモノトシタルハ法律解釋ヲ誤リタルノ違法アリト云フニ在レトモ○原判示事實ニ依レハ被上告人ハ謄寫版ヲ以テ「またゴマカシの安全週間長時間の労働で何が安全だ」ト題シ資本案ハ労働者カ病氣ニ侵サレ又怪我テモスレハ工場設備ノ不完全之ヲ誘起スルモノナルニ拘ラス直ニ労働者ノ不注意ノ爲ナリト云フ資本案ハ労働者ヲ屠殺場ノ如キ工場ニ入レテ自己ノ利益ノミ之圖ル官廳並ニ資本案ハ之ヲ糊塗スル爲安全週間ヲ宣傳ス労働者ハ斯ノ如キ宣傳ニ順從ナルヲ要セサル旨ノ文詞ヲ掲載頒布シタルモノナルコト明ナレハ其ノ文書タルヤ店舗ノ開設商品ノ賣價其ノ他ノ事項ヲ廣ク世間ニ告知シテ取引ヲ誘發シ若ハ選舉ニ關シ投票ヲ勸誘スル等ノ文詞ヲ掲載シタルモノト其ノ性質ヲ異ニシ官廳並資本案ニ對スル労働者ノ反抗ヲ懲慝スル文書ニ外ナラサルハ出版法第九條ノ引札ニ非スシテ同法第三條ノ文書ニ該當スルモノナルコト論ヲ俟タス去レハ原判決ニハ所論ノ如キ違法存スルコトナク本論旨ハ理由ナシ

【要旨第一】

第二點「右發行ニ係ル文書ニ發行者印刷者ノ氏名住所ノ記載ナキ」旨判示シタルモ右文書ニハ北海道労働者農民協會準備會十勝支部ト明瞭ニ記載セラレアリ從ツテ原審判決ハ證據ニ依ラスシテ事實ヲ

出版法第三條ト労働者ノ反抗ヲ懲慝スル文書 同法第二十四條ニ於ケル發行  
人印刷人ノ氏名

【要旨第二】

認定シタルノ違法アリト云フニ在レトモ○出版法第二十四條ニ發行人印刷人ノ氏名ハ發行ヲ爲シ印刷ヲ爲ス自然人ノ氏名ヲ云フモノナレハ押收ノ文書ニ存スル發行者印刷者北海道勞働者農民協會準備會十勝支部トノ記載ハ同條ニ所謂發行人印刷人ノ氏名ヲ記載シタルモノト云フコトヲ得ス去レハ原審カ右文書竝原審公庭ニ於ケル被告人ノ供述ニ依リ判示文書ニ發行人印刷人ノ氏名ヲ缺ク旨判示シタルハ毫モ採證ノ法則ニ違背スルコトナク本論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事三橋市太郎關與

○漁業法違反被告事件 (昭和三年(レ)第三三二一號 事實(所理) 昭和四年五月二日第二刑事部判決 破毀自判)

【上告人】 被告人 網野彦左衛門 外十一名 辯護人 沼田勇三郎  
 原審辯護人 小林音八 小林音八

【第一審】 富山地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

○判示事項

定置漁業者カ免許漁場ノ區域外ニ亘リ漁具ヲ敷設シタル場合ト漁業法第五十八條

○判決要旨

定置漁業ヲ爲ス者カ免許漁場ノ區域外ニ亘リ漁具ヲ敷設シテ漁業ヲ爲シタルトキハ漁業法第五十八條第一項第一號ニ所謂免許ニ依ラスシテ漁業ヲ爲シタル者ニ該當ス

【参照】 漁業法第五十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 免許ニ依ラス若ハ漁業ノ停止中第四條又ハ第六條ノ漁業ヲ爲シタル者
  - 二 免許漁業ノ制限又ハ免許ノ條件若ハ制限ニ違反シテ漁業ヲ爲シタル者
  - 三 専用漁業ノ停止中其ノ漁場ニ於テ停止シタル漁業ヲ爲シタル者
- 前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

○事實

上告審ハ事實審理ヲ經テ左記理由記載ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人十二名ヲ各罰金百

定置漁業者カ免許漁場ノ區域外ニ亘リ漁具ヲ敷設シタル場合ト漁業法第五十八條

圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ各二十五日間勞役場ニ留置ス被告人十二名ヨリ金二千三百九十一圓ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

○理 由

辯護人沼田勇三郎上告趣意書第八點同沼田勇三郎小林音八上告趣意書第一點ノ理由アルコトハ先キニ當院カ本件ニ付爲シタル事實審理ノ決定ニ於テ説明シタルカ如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニヨリ原判決ヲ破毀シ本件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス  
仍テ被告事件ヲ審案スルニ被告人彦左衛門嘉平兵太郎德松與右衛門彦右衛門伊左衛門千右衛門外松佐茂房次郎及被告人孫市ノ被後見人ニシテ未成年者ナル宇波孫作ハ共同シテ富山縣氷見郡氷見町沖合ニ於テ岸網ト稱スル免許第九二三號鮒大敷網定置漁業ヲ營ム者ニシテ大正十五年十月中旬ヨリ同年十一月月上旬ニ亘リ免許區域内ニ右大敷網ヲ敷設シ漁業ニ從事シ居リタル所漁獲物少カリシヲ以テ其ノ雇人タル大船頭本川兵太郎等ノ從業者ハ右被告人彦左衛門嘉平兵太郎德松與右衛門彦右衛門伊左衛門千右衛門外松佐茂房次郎及宇波孫作ノ爲同年十二月十三日頃ヨリ同月十八日迄ニ亘リテ其ノ免許區域タル磯垣網ノ末端カ同縣同郡大田村所在第百八十六號漁場標柱ト同郡永見浦所在第百六十五號同標柱トノ見通シ線ヲ基準トシ該線ヨリ右第百八十六號標柱ノ地點ニ於テ沖合五十一度五十二分ノ線ト右第百六十五號標柱ノ地點ニ於テ沖合五十八度五分ノ線ト合スル地點ニシテ同地點ヨリ沖合同磯垣網ノ屈折

點トノ間百五十間カ免許セラレタル磯垣網ノ右屈點ノ外方ニシテ之ヲ踰越シテ敷設スルコトヲ得サルニ拘ラス前記敷設シ在リタル大敷網ノ磯垣網ノ末端ニ更ニ陸地ノ方向ニ長サ百二十八間ノ垣網ヲ連結シテ屈折敷設シ免許區域外ニ百十間(之ヲ垂直ニ爲ナストキハ六十八間トナル)ノ垣網ヲ延長敷設シ因テ翌十九日ヨリ同月二十五日迄漁業ヲ爲シ其ノ間ニ右垣網ノ延長ニヨリ價格二千三百九十一圓ニ相當スル魚類ヲ多額ニ採捕シタルモノナリ

法律ニ照スニ判示ノ所爲ハ漁業法第五十八條第一項第一號ニ該當シ被告人孫市ニ對シテハ同法第六十三條第六十四條ヲ其ノ他ノ被告人ニ對シテハ同法第六十四條ヲ各適用シ其ノ所定ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ各罰金百圓ニ處スヘキモノトス蓋シ本件ノ如キ定置漁業ニ付テハ漁業法第四條ニ依リ行政官廳ノ免許ヲ受クルコトヲ要シ之カ免許ヲ受ケントスル者ハ漁業法施行規則第二十二條第二十三條ニ依リ漁場毎ニ出願アルコトヲ要シ其願出ニハ漁場ノ位置及區域ヲ記載シタル漁場圖ヲ添付スルコトヲ要スルモノニシテ免許漁業ノ漁場トハ同規則第十六條第一號ニ依レハ定置漁業ニ在リテハ漁具ヲ建設シ又ハ敷設スル區域ヲ指稱スルモノナレハ漁業ノ免許ハ漁場ニ限定サレ漁場外ニ在リテハ免許ノ效ナク免許ヲ受ケタル漁業者ト雖其ノ漁場ノ區域外ニ於テハ全然漁業ヲ爲スノ權利ヲ有セサルモノトス從テ免許漁場ノ區域外ニ漁具ヲ建設シ又ハ敷設シテ漁業ヲ爲スカ如キハ單ニ同法第五十八條第一項第二號ニ所謂免許漁業ノ制限又ハ免許ノ條件若ハ制限ニ違反シテ漁業ヲ爲シタル者ト言フコトヲ得スシテ同

【要旨】

條第一項第一號ニ所謂免許ニ依ラスシテ漁業ヲ爲シタル者ト解スルヲ正當トスレハナリ而シテ右罰金ヲ完納スルコト能サルトキハ刑法第十八條ニ依リ各二十五日間勞役場ニ留置スヘク尙判示違反行爲ニヨリ探捕シタル魚類ニ付テハ漁業法第五十八條第二項ニヨリ沒收スヘキモノ之ヲ他ノ正當ナル漁獲物ト分別シテ沒收スルコト能ハサルヲ以テ其ノ價格ニ付之ヲ追徵スヘキモノトス以上ノ理由ニヨリ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彦三郎關與

○背任被告事件

(昭和三年(九)第一七七六號 棄却)  
同年四月三十日第一刑事部判決

〔上告人〕 被告人 神谷 十吉 辯護人 大井 靜雄  
田中 政義  
〔第一審〕 東京區裁判所 〔第二審〕 東京地方裁判所  
佐藤 善十郎

○判示事項

被告人ノ供述ト證據

○判決要旨

共同被告人ノ一人ノ爲シタル供述ハ他ノ者ニ對シテモ證據タルコトヲ得ルモノトス

〔參照〕 刑事訴訟法第三百三十六條 事實ノ認定ハ證據ニ依ル  
同法第三百三十七條 證據ノ證明力ハ判事ノ自由ナル判斷ニ任ス  
同法第三百三十七條 事實發見ノ爲必要アルトキハ被告人ト他ノ被告人又ハ證人ト對

共同被告人ノ供述ト證據

## ○事 實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人荒卷甚作神谷十吉ヲ各懲役十月ニ處シ第一審ノ未決勾留日數中四十日ヲ右刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人荒卷甚作ハ大正十四年三月中ヨリ中川慶次郎ノ經營ニ係ル東京市日本橋區元濱町河岸三十號地吳服卸商中川慶東京店ニ雇ハレ同年五月初旬以降ハ外賣係トシテ同店ノ商品ヲ東京市内ノ吳服小賣商ニ賣捌キ且其ノ代金ヲ取立ツル業務ニ從事シ居タルモノナルトコロ

第一 同年七月上旬頃其ノ顧客ナル東京市芝區三田三丁目七番地所在ノ被告人神谷十吉ノ店舗ニ赴キタル際同人ヨリ多數ノ吳服店員ハ薄給ニテモ奉公中巧ニ將來獨立開店ニ要スル資本ヲ蓄積スル旨ヲ告ケラレ更ニ同年八月五日再ヒ十吉ヨリ前記店舗ニ於テ其ノ主家ノ商品ヲ廉價ニテ自分ニ賣却セハ其ノ利得ヲ兩人ニテ折半スヘク主家ニ對シテハ甚作カ商品仕入原價ノ控簿ヲ秘ニ改竄シテ一切ヲ隱蔽スルコトヲ得ヘキ旨教ヘラレタルニヨリ當時毎月八圓ノ薄給ナリシ被告人甚作ハ之ニヨリ速ニ獨立開業ノ資金ヲ得ント欲シ右申出ヲ應諾シ茲ニ被告人兩名互ニ共謀ノ上

被告人甚作ハ格段ノ理由ナキ限り其ノ商品ハ原價ニ幾分ノ利益ヲ加算シテ之ヲ他ニ販賣スヘキ任務ヲ有スルニ拘ラス自己及被告人十吉ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ同年八月六日ヨリ大正十五年四月中旬頃迄

ノ間前後約三十八回ニ互リ其ノ任務ニ反シ附錄第一表記載ノ如ク主家ノ商品合計原價トシテ一萬六千六百六十四圓四十五錢分ヲ擅ニ七千二百十三圓七十五錢ヲ以テ被告人十吉ニ賣渡シタル上主家ニ對シテハ其ノ都度恰モ指定値段ノ範圍内ニ於テ賣捌キタルカ如クニ報告シ以テ右中川商店ニ對シ少クモ前記原價ト賣却價格トノ差額ナル三千四百五十圓七十錢ヲ超ユル損害ヲ與ヘ

被告人十吉ハ前記ノ如ク先ツ被告人甚作ヲ指嗾シテ背任行爲ノ實行ヲ決意セシメタル上不當廉賣ニヨリテ自モ利得セントシ之ト共謀シテ前記ノ如ク中川商店ノ商品原價トシテ一萬六千六百六十四圓四十五錢分ヲ七千二百十三圓七十五錢ニテ買受ケ以テ中川商店ニ對シ前記ノ如キ損害ヲ加ヘ

第二 被告人甚作ハ右ノ如ク其ノ主家中川商店ニ對シ其ノ商品ヲ指定値段ノ範圍ニテ被告人十吉其ノ他ニ賣渡シタルカ如ク報告シテ該取引ヲ繼續シ居リタル爲其ノ犯跡ヲ隱蔽スル必要上被告人十吉ヨリ教示セラレタル如ク同店ノ仕入原價控簿ヲ改竄セントシタルモ能ハサリシニヨリ右十吉ニ對スル取引直段ト主家ニ對スル報告賣値トノ差額ハ順次之ヲ主家ニ納入スヘキ必要ニ迫ラレ毎月末ノ決算ニハ次第ニ多額ノ現金ヲ必要トスルニ至リ他面右十吉ヨリハ約旨ノ如ク利益金ノ分配ヲ得サリシ結果遂ニ前同様主家ノ商品ハ格段ノ理由ナキ限り原價ニ幾分ノ利益ヲ加算シテ之ヲ他ニ販賣スヘキ任務ヲ有スルニ拘ラス之ヲ他ニ廉賣シテ其ノ資金ヲ調達シ以テ自己ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ

(一) 同年九月二十五日ヨリ大正十五年三月二十六日迄ノ間前後約十五回ニ互リ其ノ任務ニ反シ附

録第二表記載ノ如ク右主家ノ商品合計原價トシテ三千九十六圓九十錢分ヲ擅ニ金一千五百四圓八十錢ヲ以テ東京市芝區三田三丁目三番地吳服商上谷富藏ニ賣渡シ以テ中商川店ニ對シ少クモ前記原價ト賣却價額トノ差額ナル五百九十二圓十錢ヲ超ユル損害ヲ加ヘ

(二) 大正十四年十二月二日ヨリ大正十五年四月十六日迄ノ間前後約十二回ニ亙リ其ノ任務ニ反シ附録第三表記載ノ如ク主家ノ商品合計原價トシテ二千二百五十四圓七十錢分ヲ擅ニ金一千七百七十五圓五十錢ヲ以テ同市芝區白金三光町七番地吳服商海老澤幸吉ニ賣渡シ以テ右中川商店ニ對シ少クモ前記原價ト賣却價格トノ差額ナル四百七十九圓二十錢ヲ超ユル損害ヲ加ヘ

第三 被告人其作ハ更ニ大正十五年二月中ヨリ同年四月中旬頃迄ノ間前記中川慶東京店ヨリ賣捌ヲ委託セラレタル吳服類中博多帶一本外二點(價額三十四圓相當)並自ラ他ニ賣捌キタル主家ノ商品代金トシテ東京市內麻布十番ノ江波屋其ノ他ヨリ集金シタル現金三百圓ヲ保管中其ノ頃前後十數回ニ擅ニ東京市内外ニ於テ遊興其ノ他ニ費消若ハ着服シテ之ヲ横領シタルモノニシテ以上被告人兩名ノ背任及被告人其作ノ業務上横領ノ各所爲ハ孰モ夫々犯意繼續ニ保ルモノトス

(附録第一表乃至第三表ハ掲載ヲ省略ス)

法律ニ照スニ被告人其作ノ判示所爲中背任ノ點ハ刑法第二百四十七條第五十五條ニ業務上横領ノ點ハ同法第二百五十三條第五十五條ニ各該當スルトコロ右ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ背任罪ニ付テハ懲役刑ヲ選擇シ同法第四十七條第十條ニ從ヒ重キ業務上横領罪ニ付定メタル刑ニ併合罪ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人其作ヲ懲役十月ニ處スヘク被告人十吉ノ判示背任ノ所爲ハ刑法第二百四十七條第六十五條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑罰範圍内ニ於テ被告人十吉ヲ懲役十月ニ處スヘク被告人兩名ニ對シテハ同法第二十一條ニヨリ原審ニ於ケル未決勾留日數中各四十日ヲ右刑ニ算入スヘキモノトス

○ 理 由

辯護人大井靜雄田中政義上告趣意書第一點原判決ハ其ノ事實理由ニ於テ第一事實ニ付ニ被告人其作ハ大正十四年三月中ヨリ云々吳服卸商中川慶東京店ニ雇ハレ云々業務ニ從事シ居リタルモノナルトコロ第一同年七月上旬頃云々被告人十吉ノ店舖ニ赴キタル際同人ヨリ多數ノ吳服店員ハ薄給ニテモ奉公中巧ニ將來獨立開店ニ要スル資本ヲ蓄積スル旨ヲ告ケラレ更ニ同年八月五日再ヒ十吉ヨリ前記店舖ニ於テ其ノ主家ノ商品ヲ廉價ニテ自分ニ賣却セハ其ノ利得ヲ兩人ニテ折半スヘク主家ニ對シテハ其作カ商品仕入原價ノ控簿ヲ秘カニ改竄シテ一切ヲ隱蔽スルコトヲ得ヘキ旨教ヘラレタルニヨリ當時毎月八圓ノ薄給ナリシ被告人其作ハ之ニヨリ速ニ獨立開業資金ヲ得ント欲シ右申出ヲ應諾シ茲ニ被告人兩名互ニ共謀ノ上被告人其作ハ格段ノ理由ナキ限リ其ノ商品ハ原價ニ幾分ノ利益ヲ加算シテ之ヲ他ニ販賣スヘキ任務ヲ有スルニ拘ラス自己及被告人十吉ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ同年八月六日ヨリ大正十五年四月中旬頃迄ノ間前後三十八回ニ亙リ其ノ任務ニ反シ附録第一表記載ノ如ク主家ノ商品合計原價トシテ一萬六百六十四圓四十五錢分ヲ擅ニ七千二百三十四圓七十五錢ヲ以テ被告人十吉ニ賣渡シタル上主家ニ對シテハ其ノ都合モ指定價段ノ範圍ニ於テ賣捌キタルカ如クニ報告シ以テ右中川商店ニ對シ少クモ前記原價ト賣却價格トノ差額ナル三千四百五十圓七十錢ヲ超ユル損害金ヲ與ヘ被告人十吉ハ前記ノ如ク先ツ被告

人共作ヲ指囑シテ責任行爲ノ實行ヲ決意セシメタル上不當廉價ニヨリテ自ラモ利得セントシ之ト共謀シテ前記ノ如ク中川商店ノ商品原價トシテ一萬六百六十四圓四十五錢分ヲ七千二百十三圓七十五錢ニテ買受ケテ以テ中川商店ニ對シ前記ノ如キ損害ヲ加ヘト判示シ以テ刑法第二百四十七條第六十五條第一項第五十五條 適用處斷シタリ然レトモ凡ソ刑法第二百四十七條ノ責任罪ハ他人ノ爲其ノ事務ヲ處理スル者自己若ハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其ノ任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキニ於テ始メテ成立スヘキモノナルコト勿論ナリ故ニ法令又ハ和約ニヨリ他人ノ事務ヲ處理スヘキ義務ナキ場合若ハ自己又ハ第三者ノ利益ヲ圖ル目的ヲ有セサル場合ニ於テハ本罪ノ成立ヲ見ルコトナシ而シテ原判決ハ判示商品ヲ販賣スルニハ原價ニ幾分ノ利益ヲ加算スヘキコトヲ以テ所謂任務ヲ爲シ又被告人カ買受ケタル價額ヲ安價ナリト認定シ以テ所謂自己ノ利益ヲ圖ル目的ヲ有スルモノト爲シタリ茲ニ任務トハ共同被告人荒卷其作ノ中川慶東京店ニ對スル主從關係ヨリ見タルモノニ外ナラザルカ故ニ此ノ關係ヲ有セザル他ノ者ニ於テ斯ノ如キ任務ヲ有スルコトナシ被告人十吉ハ判決モ認ムルカ如ク獨立裝服小賣業ヲ營ムモノニシテ右ノ如キ任務ヲ有スルモノニ非ス又其作ヨリ買受タル商品ノ價額ニ於テ假令安價ナリトスルモ之ヲ他ニ轉賣シテ利益ヲ得ルハ即營業其ノモノニシテ商品買入行爲其ノモノヲ以テ直ニ刑法第二百四十七條ノ所謂自己ノ利益ヲ圖ル目的アリト云フハ當ラス乃チ判示被告人ノ行爲ハ法ノ構成要件ヲ充實セザルカ故ニ罪ト爲ラザルモノトス加之原判決ノ引用シタル各證據ヲ綜合スルモ前記任務及目的ノ點ヲ立證スヘキ證據絶テ存スルコトナシ右ハ罪ト爲ラザル事實ニ刑科シテ並ニ刑事訴訟法第三百六十條ニ背反スル不法アルモノト信ス加之原判決ハ判文中「指囑」ナル文字ヲ用ヒ又「共謀」ナル文字ヲ併用シ而シテ事實認定ノ前段ハ教唆ノ如ク後段ハ共同正犯ノ如シ然ルニ法律適用ノ部ニ於テハ單ニ刑法第六十五條第一項ヲ明示スルニ止マルカ故ニ其ノ何レナリト認定シタルヤ判意明ナラス若教唆ナリトセンカ刑法第六十五條ハ共同正犯ニ關スル例外規定ニシテ之ヲ教唆ニ適用ヘキモノニアラス(御院明治四十四年刑事判決録二六五二頁參照)若共同正犯ナリトセンカ同罪ノ成立ニハ主觀的方面ニ於テ共同ノ認識ヲ必要トシ客觀的方面ニ於テ共同ノ實行ヲ必要トシ其ノ主觀客觀ノ兩要素ヲ充實シタル場合ニ於テ始メテ成立スヘキモノナルニ拘ラス被告人十吉カ客觀的方面即着手以上ノ行爲ニ加工シタル事實ハ原判決ノ認メサルトコロナレハ共同正犯トシテ處罰スヘキ要素ヲ缺知スルモノト云ハサルヘカラス又爰點ニ關スル何等ノ證據ヲ舉示スルコトナシ乃チ原判決ハ理由不備擬律錯誤若ハ罪ト爲ラザル事實ニ對シ刑科シタル不法アルモノト信スト云フニ在リ

○仍テ按スルニ刑法第二百四十七條ニ規定スル責任罪ハ他人ノ爲其ノ事務ヲ處理スル者自己若ハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其ノ任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加フルニ依リテ成立スルモノナレハ此ノ如キ任務ヲ有スル者ニ非スンハ本罪ヲ犯シ得ザルモノナルコト定ニ所論ノ如クニシテ此ノ意味ニ於テ責任罪ハ刑法第六十五條第一項ニ所謂犯人ノ身分ニ因リ構成スヘキ犯罪ノ一ナリ然ラハ此ノ如キ身分ニ因リ構成スヘキ犯罪ニ付身分ナキ者ニ於テ之ヲ犯スコトヲ得スト云フハ止々單獨之ヲ行ハント欲スル場合ニ付テ云フノミ身分ナキ者ト雖身分アル者ノ行爲ニ共同加功スル場合ニ於テハ能ク之ヲ犯シ得ルモノトス刑法第六十五條第一項ハ正ニ此ノ理ヲ表明セルモノニ外ナラサルナリ今之ヲ本件ニ付テ按スルニ原審相被告其作力其ノ主家中川商店ニ對シ商品ヲ販賣スルニ付格段ノ理由ナキ限リ原價ニ幾分ノ利益ヲ加算シテ販賣スヘキ任務アリタルコトハ記錄ニ徴シテ極メテ明白ナルノミナラス原判決ノ判示スル所ニ依ルモ「被告人ハ原審相被告其作ヲ指囑シテ責任行爲ノ實行ヲ決意セシメタル上不當廉價ニ依リテ自ラモ利得セントシテ之ト共謀シ云々」トアルヲ以テ被告人ニハ斯ル身分ナキモ身分アル其作ノ犯行ニ共同加功シタル意味ニ於テ罪責ヲ認定シタルモノト解スルヲ相當トスヘシ唯原判決カ指囑共謀ノ二語ヲ併用セルノ結果被告人ノ本件犯行ヲ其作ノ責任行爲ニ對スル教唆ノ意味ニ於テ之ヲ認定シタルカ將又其作トノ共同正犯ノ意味ニ於テ之ヲ認定シタルカ明瞭ヲ缺クノ嫌アルコト洵ニ所論ノ如シト雖其ノ指囑云々ト言ヘルハ被告人カ其作ト共謀即共同實行スルニ至リタル所以ノ經過ヲ敘シタルモノト解スルヲ相當トスヘシ而シテ教唆者カ教唆行爲ヲ爲シタル後自ラ被教唆者ト其ノ實行ヲ共ニスルニ至リタル場合ニ於テ前ノ教唆行爲カ後ノ正犯行爲ニ吸收合一セラルヘキコトハ法理ノ示ス所ナルノミナラス刑法第六十五條第一項カ共同正犯ノ場合ニ適用アルコトニ付テハ所論判例ト雖之ノ是認スル所ナレハ原判決カ被告人ニ判示ノ犯行ヲ認定シ之ニ刑法第六十五條第一項ヲ適用シタルハ固ヨリ當然ナリ而シテ原判決カ被告人ノ本件犯行ヲ判示スルニ當リ原審相被告其作ト共謀關係アリタルノ事實及同人ヨリ中川商店ノ商品ヲ廉價ニテ買受タルノ事實ヲ以テセル以上共同正犯ニ於ケル主觀的要件ト客觀的要件トヲ示シ得テ缺クル所ナキモノト謂フヘク而モ原判決ノ舉示スル證據ニ依レハ優ニ判示責任ノ事實ヲ認定スルニ足ルカ故ニ所論攻擊ハ當ラス論旨ハ執レモ理由ナシ

第四點本件ニ於テハ被告人十吉ノ供述ト共同被告人荒卷其作ノ供述トカ互ニ相反シ被告人ハ共同被告

共同被告人ノ供述ト證據



人ノ供述ニ依リ責任事實ヲ認メラレタルモノニ外ナラス然レトモ被告人十吉ハ齡十六歳ニシテ父祖ノ遺業タル吳服業ヲ繼承シ爾來格勳精勵一意業務ノ發展ニ努メ極メテ眞面目ナル商人ナリ曾テ本件ノ如キ嫌疑ヲ受ケタルコトナク德望ト信用トヲ同業者間ニ認メラルルニ至レリ關東大震災後世上ハ不景氣ニ次クニ不景氣ヲ以テシ何レノ商人モ其ノ内情ニ於テ困窮セサルモノナク吳服商人ニ至リテハ大正十四年頃ヨリ殊ニ其ノ影響甚シク倒産ニ次クニ倒産ヲ以テスルノ事實アリシハ公知ニ屬ス而シテ被告人ハ記録上明ナルカ如ク他ノ同業者ト異リ殆ト現金ヲ以テ品物ノ買入ヲ爲スカ故ニ他店ノ買入價額ヨリハ廉價ナルコト當然ニシテ毫モ疑ヲ挾ムヘカラス加之本件ノ如キハ中川商店ニ於テ金八萬圓ノ手形金支拂ニ窮シ且神樂坂住吉屋分散ニヨリ同店ノ被リタル損害ノ爲金融困難ノ事情ヲ聞知シタルヲ以テ同店カ多少安價ニ仕入品賣却ノ舉ニ出ツルハ是等ノ事情ニ因ルモノト思惟シタルモノニシテ毫モ判決認定ノ如キ惡意ヲ有スルモノニ非ス殊ニ被告人カ買入代金一千圓ヲ自ラ中川商店ニ持參支拂タルカ如キ事情存スル點ヨリ見ルモ共同被告人甚作ノ主人タル中川商店ノ意思ニ基ク價額ト觀タルハ當然ナリト云ハサルヘカラス證人高木寛一上谷富藏海老澤幸吉等ノ供述ニ見ルトキハ一般吳服商人ト賣却價額竝ニ共同被告人甚作ノ他店ニ對スル本件同様ノ行爲アリタルコトヲ認メ得ヘク是等ノ證言ト被告人十吉ノ一貫セル司法警察官檢事各聽取書及第一、二審公判調書ノ供述殊ニ第一審飯塚判事宛提出ノ上申書ニ載スル時ハ全ク被告人供述ノ眞實ニシテ共同被告人供述ノ虛偽ナルコトヲ知り得ヘシ況ンヤ判示利

益折半契約ノ如キニ至リテハ事實存セサルカ故ニ之ヲ實行セサルノミ警察官意見書ノ如ク貪慾心ニ出テタルモノニ非ルナリ凡ソ共同被告人ノ其ノ事件ニ對スル供述ヲ探テ他ノ被告人ノ罪ヲ斷スル程法的危險大ナルモノナシ證人鑑定人ハ宣誓ノ上之カ供述ヲ爲スモ被告人ノ供述ニ宣誓ナシ而シテ證人鑑定人ノ如ク制裁ナシ無責任無制裁ナル共同被告人ノ供述ヲ以テ他ノ被告人ノ罪ヲ斷スル資料ニ供セントスルハ最モ忌ムヘキコトニ屬ス學者往々ニシテ共同被告人ノ供述ハ法的證據力ナシト謂フハ其ノ危險ノミアリテ訴訟法ノ主義トセル眞實發見ヲ阻害スルカ爲ニ外ナラス之ヲ共同被告人荒卷甚作ノ供述ニ見ルニ大正十五年五月三十日附警察官聽取書即本件ニ付始メテ取調ヲ受ケタル際ハ「處テ昨年八月六日私ハ云々神谷十吉方ニ品ヲ買テ吳レト申シタ處カ値段ハト云ハレマシタカラ先程申上タ値段ヲ言ツタ處カ神谷ハ云々ニマケト申シマスカラ値ノ方ハ精々勉強シテ居ルノテアルカラマカラスト云ツタ處カ云々神谷ハ安ク賣ツテモお前ニハ損害カナイ商人ハ得意カ大切タお前モ將來ハ店ヲ持ツノタロウ店ニ居ル時ニ得意先ヲ可愛カツテ置ケハ商人ハ金ヨリ得意カナケレハ商賣カ出來ナイテアルカラ店ニ居ル時ニ精々得意先ヲ可愛カツテ負ケテ置ケト云ハレマシタノテ其處テ暫ク考ヘテ見タ結果今神谷ノ云ツタ値ヲ賣レハ主人ニハ損害カアル然シ賣ツテ置ケハ將來自分ノ爲ニナルカト思ヒ尙今後何回モ安ク賣ツテ置ケハ萬一主人カラ暇ヲ出サレタ場合ニハ少シハ面倒ヲ見テ吳レルコトト考ヘ見ス見ス主人ニ損害ノアルコトヲ承知シテ全部ヲ云々テ賣リ云々私ハ前ニモ云ツタ通り神谷カラ店ニ居ル時ニ得意

ヲ可愛カツテ置ケハ將來面倒ヲ見テヤルトノコトヲ云ハレマシタノテ淺薄ナ考ヲ云々賣リマシタ兎角  
 神谷ハ安ク賣ツテ吳レレハ金ヲヤルト云フ様ナコトハ云ヒマセヌテシタ云々時々先日ノ品ハ非常ニ儲  
 カツタ安クサヘ賣ツテ吳レレハ現金ヲ幾ラテモ買ツテヤルト云ヒマシタ云々兎角私ハ神谷ノ甘イ話ニ  
 乗ツテ始メ品ヲ安ク賣ツタノカヤミツキテソレカラハ何時モ其ノ値ニ倣ツテ高イ相場ヲ賣ルコトカ出  
 來ナク云々ナツタノテアリマス云々兎角神谷ニ始メ一回安ク賣ツタ爲ニ間違ヲシタノテアリマス」ト  
 供述シタルニ拘ラス同年六月十日附同上第二聽取書ニ依レハ「神谷十吉トノ關係ニ就テハ僞ヲ申上ケ  
 タ點カアリマス云々實ハ其ノ取引ニ就テ秘密ノ契約カアツタノテアリマス」ト前提シ所謂教唆アリタ  
 ル事實ヲ陳述シタル後「最後ニ申上ケ度イノハ最早私モ覺悟ヲシテ居リマス然シ私ハ惡イコトヲスル  
 ニ至ツタ動機ハ神谷十吉ニアルノテアリマスカラ同人モ一緒ニ責任ヲ負ハセテ貰ヒ度イト思ヒマス」  
 ト供述セリ第一回ノ供述ト第二回ノ供述トハ斯ノ如ク變化アリ而モ最後ノ供述ニ見ル時ハ同人カ何故  
 ニ第二回ニ於テ不利益供述ヲ爲シタルヤノ消息ヲ窺フニ足ルヘシ其ノ後ノ供述ノ信スヘカラサルヤ言  
 フ俟タス共同被告人ノ供述カ證據上危險アルハ前記ノ如キ他人ヲ陷レントスル意趣ヲ含ム場合ニ於テ  
 殊ニ甚シキモノトス本件ニ於テ共同被告人ノ供述以外ニ何等被告ノ責任ヲ立證スヘキ資料ナキニ拘ラ  
 ス其ノ共同被告人ノ供述右ノ如シ而シテ被告人十吉ノ供述ト之ヲ對照スルニ及ンテ共同被告人ノ供述  
 ノ信スヘカラサルヲ知ルニ足ルヘシ由是觀之原判決ハ事實ノ誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アル

モノト信スト云フニ在リ○按スルニ往昔糾問主義ノ下ニ在リテハ被告人ハ專ラ證據方法トシテノミ利  
 用セラレ訴訟當事者即訴訟ノ主體トシテノ地位ハ全然認めラレザリシ所ナリト雖彈劾訴訟主義ノ今日  
 ニ至リテハ訴訟當事者トシテノ地位ヲ認メラルルコト却テ厚ク夙ニ泰西ノ學者中ニハ被告人ニ訴訟當  
 事者タルノ地位ノミヲ認メテ證據方法タルコトヲ認メサル者アリ近時我國ニ於テモ此ノ說ニ倣フ者之  
 ナキニ非スト雖被告人ノ供述自體カ證據タリ得ルコトニ付テハ異論ナキカ如シ然ラハ既ニ被告人ノ供  
 述カ證據タリ得ルコトヲ認ムル以上被告人自體ヲ以テ證據方法ト認ムルモ毫モ不當ト謂フヘカラス而  
 シテ被告人ノ供述カ證據タリ得ル點ハ單リ當該被告人ニ對シテノミナラス他ノ共同被告人ニ對シテモ  
 同一ナリト解スヘク從テ共同被告人ノ一人ノ爲シタル供述ハ常ニ他ノ者ノ爲ニ證據タリ得ルニ適スル  
 モノト解セサルヘカラス然ルニ宣誓ニ因ル制裁ノ伴ハサルノ一事ヲ捉ヘテ之カ證據タリ得ルコトヲ否  
 認スルカ如キハ自由心證主義ニ背馳スルモノニシテ到底之ヲ認容スルニ由ナシ由是觀之原判決カ原審  
 相被告甚作ノ供述ヲ斷罪ノ資ニ供シタレハトテ毫モ採證上ノ法則ニ反スル所ナキノミナラス原判決ニ  
 ハ所論ノ如キ事實誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナキヲ以テ論旨ハ理由ナシ

## 【要旨】

第五點原判決カ本件ヲ以テ背任罪ヲ構成スルモノト爲シタル根本點ハ共同被告人其作カ中川慶商店ノ外賣係トシテ吳服類ヲ賣捌クニ  
 當リ格段ノ理由ナキ限り原價ニ幾分ノ利益ヲ加算シテ販賣スヘキ任務ヲ有スルニ拘ラザル其ノ任務ニ反シテ廉價ニ販賣シ以テ中川商店  
 ニ對シ少クモ原價ト賣捌價格トノ差額ノ損害ヲ加ヘタリト爲スモノノ如シ而シテ差點ニ對スル證據トシテ共同被告人其作原審公証供

共同被告人ノ供述ト證據

述「中川商店へ御商ナルニヨリ商品ニ正札ハナキモ最低限度ノ賣値ハ符牒ニヨリ定マリ居リテ原則トシテ其ノ以下ニ賣ルコトハ許サレサルモ新ナル得意ツトル時ノ如キハ原價以上賣値以下ニ賣ルコトモアリ特ニ主人ノ承諾ヲ經ルモノナリ」及原審第二回公判調書中證人倉田儀一供述「自分ハ中川慶東京店ノ主人ナルカ中川ノ店ニテハ商品ハ原價以下ニ賣ルコトハ原則トシテ許サレサルナリ相場カ下リテ原價以下ニ賣ラネハナラヌトキハ特ニ店員ニ其ノ旨命スルモノニシテ又新ナル得意ヲ取ル爲ニ犧牲的ニ原價以下ニ賣ルコトアルモ此ノ如キハ例外ニ屬ス最低ノ賣値ハ通常原價ニ七、八分ヨリ一割位ヲ掛ケタルモノカ貸賣値段ニシテ現金賣ノトキハ八分、九分ハ通常ナリ原價以上最低價格以下ニ賣ルコトハ正當ナル事情アル場合ノミニ許サルモノナリ」ヲ援用セリ之ニヨルトキハ本件背任罪ノ成立スルヤ否ハ共同被告人其作ノ賣却スル價格如何ニヨルモノナルニ拘ラス單ニ原價ニ幾分ノ利益トノミ判示シテ其ノ價格ヲ示サス從テ結果タル損害ノ點ニ於テモ少クトモ原價トノ差額云々ト判示シテ正確ニ何程ノ損害ヲ與ヘタルヤヲ明示セズ故ニ原判決ハ背任罪ノ基本要件タル其作ノ任務同人ノ背任罪ノ行爲及損害ノ數額ヲ判示セサルノ違法アリ加之原判決ハ前記ノ如ク爰點ノ證據トシテ其作及倉田儀一ノ原審公証供述ヲ援用スレトモ同人等ノ供述ハ警察以來反覆常ナク之ヲ信憑スルニ足ラス例ヘハ其作警察第一回聽取書(記録第七八丁)「以上私ハ神谷十吉ニ五十八回ニ賣値一萬五千三百七十二圓八十八錢ノ品ヲ主人ニ無斷テ九千二百二十七圓七十八錢ニ賣リ差引六百四十五圓十錢ノ損害ヲ主人ニ懸ケマシタ從テ神谷ニハ夫丈ケ餘計ノ利益ヲ與ヘタ譯テアリマス」第一審第一回公証其作供述「問、神谷十吉ニ賣却ノ反物ハ如何ナル方法ニテ賣ツタノカ 答、實際ノ賣價ヲ元金ヲ差引キ殘利益金ヲ折半シ分配スル約束ニテ賣却致シマシタ例ヘハ百圓ノ物ノ札ノ付イテアルモノカ元值番帳ニ六十圓ト記載シアレハ元值番帳ヲ四十圓ニ訂正シ六十四圓ニ神谷ニ賣却シ六十圓ヲ主人ニ提供シ表面ニハ二十圓ノ利益カアル様ニシテ神谷トハ實際百圓ヲ賣却スレハ四十圓ヲ二人カ半分ニスルコトニナリマシ」同第二回公判其作供述「問、賣價ハキマツテ居ルカ 答、左様テアリマス品物ニ符丁カ付イテ居リマシテ其ノ前後ニ賣ル、テアリマス 問、夫以下ニ賣ルコトハ出來ヌカ 答、元值マテハ賣ルコトカ出來マス 問、元值ノ切レル様ナ值ヲ賣ルコトカ出來ルカ 答、夫ハ出來マセヌ云々 問、神谷ニ賣ツタノハ元值以下ナルコトハ相違ナキカ 答、相違アリマセヌ」同第三回公証其作供述「問、十圓ノモノヲ五圓ニ番帳ヲ直シテ神谷ニ賣ツタコトニスル答ツタト御前申シテ居ルカ左様ナコトカ出來ルカ 答、出來マセヌノテ價格通りニ賣ツタト云フ傳票ヲ出シタノテアリマス」同第四回公証倉田儀一供述「問、賣出シノ爲ニ品物ヲ持出ストキハ什ウ云フ手續ヲ持出スノカ 答、品物ニハ符牒ヲ大抵ハ元值ヲ書入レテ居リマスノテ店ニアル點檢帳ナルモノニ記入シテ持出ストテアリマスソシテ其ノ場合ハ都合ニヨリ賣値以下ニスルコトハ許シテ居リマスカ元值以下ニ賣ルコトハ許シテ居リマセヌ萬一元值以下ニ賣ルトキニハ責任者ニ相談シテ賣ルコトニシテ居リマス 問、持出ス品物ニ元值カ遺入ツテ居ラヌトキハ元值ハ判ランテハナイカ 答、夫ハ番帳ナルモノカアツテ何時モ店ノ者ハ見ル事カ出來ル程ニナツテ居ルノテ持出ストキ元值記入ナキモノハ夫ヲ見テ持出ストテアリマスカラ元值ノ判ラント云フ様ナコトハ大抵アリマセヌ云々 問、帳記トアル金額ハ元值ノコトカ 答、夫ハ仕入元值ニ五分カ六分ノ手数料ヲ加ヘタル最低ノ賣價ト先程元值ト申シ上ケタモノテアリマス」第二審第一回公証其作供述「問、持出ス各品物ニ付イテ是七ケニ賣レト云フ事ハ極ツテ居ルカ 答、一ツ一ツニ符牒ヲ原價カ付イテ居リ尙番帳ヲ賣價カ付イテ居リマス夫ハ札ニ書イテアルノテスカ其ノ番帳ノ方ヲ何掛カ賣價ト云フコトニナツテ居リマス尤モ品物ニヨツテハ優、特、好ト云フ様ナ文字カ付イテ居ルモノモアリテ其ノ種ノモノハ其ノ文字ニヨツテ賣價カ極ツテ居リマス中川店ハ總テ卸ハカリテスカラ正札ハ付イテ居リマセヌケレトモ勿論原價以下ニ賣ツテハナリマセヌカ最低限度ノ賣價ハ極ツテ居リソレ以下ニ賣ツテモイケナイノテスカ其ノ最低限度ト原價トノ間ニハ一割位ナ差カアリマス 問、ソノ價ハトウシテキマルカ 答、夫ハ京都ノ本店カラ例ヘハ金紗小紋ノ優印ハ二十五圓ト云フ様ニ傳票ヲ云ツテ來マス夫カ原價ニナリ夫ニ一割位掛ケタノカ最低限度ノ賣價ニナリマス夫以上ニ賣レハ儲カモツト出ル譯ニナリマス原價ト元值ハ同シ意味テス 問、所謂賣價以下ニ賣ツタラ付ウナルカ 答、新規ニ作ツタ得意等或ル場合ニハ原價以上賣値以下ニ賣ルコトモアリマスカ怎ウ云フ場合ハ主人ノ方テ勘辨シテ臭レマシタケレトモ夫以外ニハ賣値以下ニハ決シテ賣レナイコトニナツテ居リマス」同第二回公証倉田儀一供述「問、神谷ノ分ノ明細書ニ帳記賣記トアルノハ什ウ云フ意味カ 答、店ノ帳面ニ之丈ケニ賣ツテ來タト報告シタ值段カ帳記テ夫ハ原價ニ幾ラカノ口錢ヲ掛ケタモノテ詰リ賣價段ト云フコトニナリマス賣記トハ得意ノ方ノ帳面カラ調ヘタ值段ヲ詰リ荒卷カ實際ニ先方ニ賣渡シタ值段テス 問、元值トハ 答、仕入值段テス 倉田儀一受命判事取調調書「ソレカラ原價調ハ前ニ檢事局ニ提出シタ分ヨリ精査シタ結果元值カ明ニナツタ分カアツテ此ノ表ノ方カ少シ多クナツテ居リマス尙前ニ元值カ判ツタ様ニ書イテ出シナカラ今日出シタ表ニ元值カ缺イタ分カアルノハ前ニ出シタノカ記載違ヒト思ヒマス」トアリ之等ノ供述ニヨレハ原判決ノ添付セル原價表ナルモノモ之ヲ絕對ニ信用シ得サルモノニシテ眞ノ仕入原價ニアラスシテ京

都本店ヨリ仕入原價ニ幾割カノ利益ヲ加算シタル價格ナルコトヲ知ルニ足ルヘシ新ル矛盾セル供述中其ノ一ツノミヲ採ツテ證據ニ援用セルハ探證ノ法則ニ背反スルノ違法アリト信スト云フニ在リ○仍テ按スルニ原判決カ判示事實ノ中原審相被告共作ニ原價ニ幾分ノ利益ヲ加算シテ販賣スルノ任務アリタルコト及其ノ中川商店ニ判示損害ヲ加ヘタルコトヲ認定スルニ付其作ノ原審公廷ニ於ケル供述及原審第二回公判調書中ノ倉田儀一ノ供述記載ヲ以テセルコトヲ非難セルハ畢竟是原審ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨判斷ヲ論難スルニ過キスシテ適法ノ上告理由トナラス但タ原判決カ原審相被告共作カ其ノ背任行為ニ因リテ主家中川商店ニ與ヘタル損害ヲ判示スルニ當リテ原價ト賣却價格トノ差額三千四百五十圓七十錢ヲ起ユルモノナルコトヲ以テシ精細ニ之ヲ算定シ居ラサルコト寔ニ所論ノ如シト雖此ノ如キハ之ヲ算定スルコト至難ノ業ナルノミナラス縱シ之ヲ爲シ得タリトスルモ判示數額ト大差ナキコトハ一件記録ニ照シ明白ナレハ原判決カ其ノ概算額ヲ示シタルノ事實ヲ提ヘテ輕ク背任罪ノ判示ニ缺クル所アリト斷スルヲ得ス論旨ハ理由ナシ

辯護人大井靜雄佐藤善十郎田中政義上告趣意書第一點原判決ハ第一事實ノ證據トシテ被告人兩名間ニ於テ取引シタル商品ノ種類數量原價及其ノ取引價格並ニ該取引ノ日時回数等カ判示ノ如クナルコトハ昭和二年六月十七日付當審受命判事取調調書ノ記載及同日付倉田儀一作成ノ調査表ノ記載ニ徴シ明瞭ナリト説示シタリ仍テ右受命判事ノ取調調書ヲ閱スルニ「證人倉田儀一ハ本調書末尾ニ添付セル表ヲ提出シ左ノ如ク陳述シタリ「此ノ表ハ詰リ記録一五八丁以下ノ表ト同二九九丁以下ノ表ヲ一纏トシテ大正十四年八月六日以降ノ荒卷カ神谷ニ賣ツタ品物ニ付イテ品名數量賣價(賣記)元價(尤モ番帳カラ判ツタモノタケ記載ス)並ニ荒卷カ店ニ報告シタ處ノ賣價即記帳ヲ掲ケタ表ヲアリマス尤モ本日提出シタ表ハ記帳ニ綴込マレテアル表ヨリモ精査ノ結果ニツカ三ツ品目ニ於テ減少シテ居リマス夫カラ原價調ハ前ニ檢事局ニ提出シタ分ヨリ精査ノ結果原價カ明ニナツタ分カアルノテ此ノ表ノ方カ少シ多クナツテ居リマス尙前ニ原價カ判ツタ様ニ書イテ出シナカラ今日出シタ表ニ原價カ缺イタ分モアルノハ前ニ出シタモノハ記載違ト思ヒマス判事ハ證人カ本日提出ノ表ノ記載ノ正確ヲ試ムル爲各項中十數箇所ヲ摘示シテ一々證人持參ノ帳簿ニ當ラシメタルニ其ノ帳記(座帳ニ依リ)及元價(番帳ニヨリ)及元價(番帳ニヨリ)ノ記載相違ナキヲ認メタリ(記録五一四丁以下)ト記載シアリテ前記證人倉田儀一提出ノ表ハ判示商店ノ座帳及番帳ニヨリ作成セラレタリト云フニアルヲ以テ該表ノ果シテ正確ナルモノナルヤ否ハ右座帳及番帳ト對照スルニアラサレハ不明ナリトス仍テ右取調調書及之ニ添付ノ表ニ對シ證據調ヲ爲スニハ右取調調書ヲ被告人ニ讀附ケルト同時ニ之カ添付ノ表及右證人持參ノ

座帳及番帳ヲ被告人ニ示シテ其ノ意ヲ反證ヲ求メサルヘカテアルモノトス尤モ前記取調調書ニ依レハ「判事ハ證人カ本日提出ノ表ノ記載ノ正確ヲ試ムル爲各項中十數箇所ヲ摘示シテ一々證人持參ノ帳簿ニ當ラシメタルニ其ノ帳記(座帳ニ依リ)及元價(番帳ニヨリ)ノ記載相違ナキヲ認メタリ」ト記載シアルモ該表ノ項目ハ七十餘項アリテ僅ニ十數箇所ニ付テノミ正確ナリト認メタリトスルモ果シテ全部カ正確ナルヤ否不明ナレハナリ然ルニ原審其ノ後ノ公判調書ヲ閱スルニ右座帳番帳ハ之ヲ法廷ニ顯出シ被告人ニ展示シテ之カ意見反證ヲ求メタル事述ノ徴スヘキモノアルコトナク結局原判決ハ適法ニ證據調ヲ爲ササル證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ○按スルニ所論倉田儀一ノ提出ニ係ル明細表ハ公判ニ於テ本件被告事件ニ關シ中川商店ニ於テ蒙リタル損害額ヲ明瞭ニスル爲倉田儀一名義ヲ以テ作成セラレタル私文書ニシテ一箇ノ證據書類タルヤ疑ヲ容レス而シテ右明細書ニシテ已ニ證據書類タル以上其ノ證據力ハ判事ノ自由ナル判斷ニ存スルモノト謂フヘク原審ニ於テ特ニ受命判事カ所論中川商店座帳及番帳ニ就キテ之カ取調ヲ爲シタルハ要スルニ右心證ヲ確カムルノ方便ナリシコトヲ推斷スルニ難カラス然ラハ右明細表ノ證據ヲ爲スニ當リテハ之ニ付證據書類トシテノ法定ノ證據調ヲ爲セハ足ルモノニシテ其ノ表ノ依テ作成セラレタル座帳及番帳ニ付證據調ヲ爲スコトヲ要セサルモノト解スルヲ相當トスヘシ而シテ之ヲ記録ニ徵スレハ所論明細表ハ昭和三年五月二十八日取調續行調書ニ添付セラレ其ノ一部ヲ成セルモノト解シ得ルヲ以テ該調書ニ付適法ノ證據調アリタルコト明白ナル以上自ラ該明細表ニ付テモ證據調アリタルモノト解シ得ヘキカ故ニ原判決ニハ探證上亦所論ノ如キ違法存在セス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨並判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事溝淵孝雄關與

○放火業務上横領被告事件 (昭和四年(れ)第二四一號 棄却)

(昭和四年四月三十日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 海老澤宏 辯護人 (岡田庄作)

【第一審】 宇都宮地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ規定スル事實上ノ主張ニ對スル判斷ト其ノ說示——中止未遂ノ主張ト之ニ對スル判斷說示ノ有無

○判決要旨

一 刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ所謂犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張ニ對シテハ判文上其ノ判斷ヲ示スヲ以テ足り判決ニ於テ特ニ事實上ノ主張ヲ掲記シ竝其ノ當否ニ付判斷ノ理由ヲ説明セサルモ違法ニ非ス【要旨第一】  
二 辯護人ヨリ中止未遂犯ナリトノ事實上ノ主張アリタル場合ニ裁

判所カ判決ニ於テ既遂ノ事實ヲ認定シタルトキハ判文上其ノ主張ニ對スル判斷ヲ示シタルモノニ該當ス【要旨第二】

【參照】 刑事訴訟法第三百六十條 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ  
法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ  
刑法第四十三條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役五年ニ處シ訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トストノ判決ヲ言渡シタリ

被告人ハ

第一 大正十年四月頃ヨリ栃木縣上都賀郡今市町所在下野物産實業株式會社ノ支配人トシテ同會社ノ金錢ノ出納保管其ノ他一切ノ事務ニ從事中犯意ヲ繼續シテ右同月以降昭和三年一月頃迄ノ間今市町其ノ他ニ於テ數百回ニ亙リ擅ニ其ノ業務上保管ニ係ル前記會社所有ノ現金中ヨリ合計約一萬四千圓ヲ自己ノ生活費其ノ他ノ用途ニ費消シテ横領シ

刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ規定スル事實上ノ主張ニ對スル判斷ト其ノ說示 中止未遂ノ主張ト之ニ對スル判斷說示ノ有無

第二 右横領ノ犯跡隠蔽ニ腐心シ居リタル處右會社ニ於テハ昭和三年四月三十日株主總會ヲ開催スルコトトナリタル爲同月二十九日今市町大字今市七百二十四番地同會社營業所ニ於テ小使山崎幸松ヲ雜用ニ使役シツツ徹夜シテ決算報告書ノ作成ニ從事シタルカ近時財界不況ノ爲會社ヘノ預金激減シタルニ因リ同總會ニ於テハ如何ニ帳簿ノ體裁ヲ繕フトモ必スヤ前示犯跡暴露スルニ至ルヘシト思惟シ茲ニ右營業所ニ火ヲ放チ其ノ騒ニ乘シ帳簿類ヲ故意ニ紛失セシメ以テ之カ證據ヲ湮滅スルニ如カスト決意シ右四月三十日午前二時頃幸松ノ隙ヲ窺ヒ木造亞鉛葺二階建ノ前示營業所内事務室ノ西北側造付戸棚ノ床板ヲ剝キ其下ニ新聞紙數枚ヲ押込ミ之ニ燐寸ヲ以テ點火シ再ヒ床板ヲ舊ニ復シ置キタルヨリ火ハ忽チ該新聞紙ヨリ右家屋ニ燃移リ前示戸棚ノ床板及外側羽目板ノ一部ヲ燒燬シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示第一ノ所爲ハ刑法第二百五十三條第五十五條ニ該當シ第二ノ所爲ハ同法第四百八條ニ該ルヲ以テ有期懲役刑ヲ選擇シ以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條本文第十條ニ則リ重キ放火罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シ同法第十四條ノ制限ニ從ヒタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役五年ニ處シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ從ヒ全部被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○理 由

辯護人岡田庄作被告上告趣意書第一點原判決ハ其ノ事實理由ニ於テ「被告人ハ第一、大正十年四月頃ヨリ栃木縣上都賀郡今市町

所在下野物産實業株式會社ノ支配人トシテ同會社ノ金銭出納保管其ノ他一切ノ事務ニ從事中犯意ヲ繼續シテ右同月以降昭和三年一月頃迄ノ間今市町其ノ他ニ於テ數百回ニ亙リ擅ニ其ノ業務上保管ニ係ル前記會社所有ノ現金中ヨリ合計約一萬四千圓ヲ自己ノ生活費其ノ他ノ用途ニ費消シテ横領シト認定シ之カ唯一ノ證據トシテ「判示第一、業務上横領ノ事實ハ犯意繼續ノ點ヲ除キ被告人ノ當公廷ニ於ケル其ノ旨ノ供述ニ依リ之ヲ認メト」ト說示シタリ仍テ原院公判調書中被告人供述ノ部ヲ閱スルニ「問、夫レ等ハ何ニ費消シタカ、答、今市アハ私ノ會社ヲ入レテ銀行カ三ツアリ町ニ何事カ催シテモアル節ハ何時モ銀行ト町有力者トカ相談シテ遣ルノテスカ他ノ銀行重役ハ何レモ他カラ通ツテ居ルノテ今市ニ家ノアルノハ私丈ケテ爲ニ私一人ハ何時モ遁ルル事カ出來ス引出サレテハ其ノ集リニ出ル様ニナリ自然交際費カ嵩シテ遣リ切レヌ様ニナツテ知ラスノ會社ノ金ニ手ヲ付ケル様ニナリマシタ間、宴會ナトマ遣ツタト云フ譯カ答、左横會社ヲ代表シテハ參加シテ居ツタノテアリマス……問、會社ニハ交際費ハナイノカ、答、アリマセヌ間、會社ヲ代表シタ時分ノ交際費ナトハ重役ニ話セハ出シテ吳レル譯テハナイカ答、話スト決算ノ時ドウニカシヨウトハ申シマスカ云フ丈ケテ吳レタコトハアリマセヌ夫レカ爲ツイ重役ニモ斷ラス私專斷テ使ツテ居タ様ナ譯テ……アリマス」(四二七丁裏以下)ト供シアリテ是レニ由レハ判示被告人ノ費消金中其ノ一部ハ判示會社ノ爲會社代表トシテノ交際費ニ費消シタリト云フニ在リテ原判決認定ノ如ク判示金員全部ヲ被告人ノ用途ニ費消シタリト供述シテ「問、被告ハ自己ノ占有スル財物ヲ自己ハ第三者ノ爲不正領得ノ意思ヲ以テ費消スルニ因リテ成立スルモノニシテ假令自己ノ専有スル他人ノ財物ヲ費消シタリトスルモ自己又ハ第三者ノ爲ナラス所有者本人ノ爲ナルニ於テハ不正領得ノ意思ヲ缺如シ横領罪ヲ構成スルモノニアラストハ夙ニ屢々御院判例ノ示ス所ナリトス從テ被告人カ會社ノ爲會社ノ代表者トシテノ交際費ニ費消シタル金員ハ之ヲ横領金額中ヨリ控除セサルヘカラサルモノナリト然ルニ原判決ハ右供述ヲ看過シ判示金額全部ヲ被告人個人ノ用途ニ費消シタリト認定シタルハ虛無ノ證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シ以テ不當ニ事實ノ認定シタルモノニシテ破綻ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ○原判決カ其ノ證據トシテ被告人ノ原審公判廷ノ供述ヲ舉示シ以テ被告ニ對スル業務上横領ノ事實ヲ認定シタルコト所論ノ如シト雖是レ畢竟被告ノ原審ニ於ケル業務上保管ニ係ル金員ヲ妻ノ入院科藝妓置屋ノ資金等ニ私ニ費消セリトノ供述部分(記録四二六丁乃至四二九丁)ヲ採テ其ノ旨ノ旨ノ供述トシテ證據資料ニ供シタルモノト解セラルルヲ以テ論旨ハ究竟原審ノ職權ニ屬スル證據取捨ノ批難タルニ歸シ原判決ハ虛無ノ證據ヲ斷罪ノ資料ニ供シ不當ニ事

刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ規定スル事實上ノ主張ニ對スル判斷ト其ノ說  
示 中止未遂ノ主張ト之ニ對スル判斷說示ノ有無

實ヲ認定シタルモノニ非ス論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ハ第二事實ノ證據トシテ「被告人ノ當公廷ニ於ケル……：昨年四月三十日會社ノ株主總會開催サルルニ付自分ハ其ノ前日判示會社營業所ニ於テ決算書類作成ノ爲夜業シタルカ其ノ際自分ハ右横領ノ事實發覺スルニ於テハ身元保證人タル高野勝三郎ニ迷惑カ及フト考ヘ苦痛テ堪ラス帳簿サヘ無クハ横領ノ事實ハ判ラヌ譯ナレハ火事騒キニ乘シ會社ノ前ノ川ニ帳簿ヲ投込メハヨイト考ヘ三十日午前二時頃小便ニ酒ノ支度ヲサシテ居ル間ニ判示戸棚ノ床板ニ手ヲ掛ケルト取レタル故其ノ床下ニ新聞紙二、三枚ヲ押込ミ所持ノ燐寸ニテ之ニ點火シ戸棚ヲ締メテ置キ隣室ニ來リ小便ト酒ヲ飲ンテ居ルトバチノト音カ聞エタルヨリ事務室ニ來リ戸棚ノ戸ヲ開キタルニ火ヲ吹キ出シタルヨリ云々ノ供述」ト說明シタリ然ルニ同公判調書ヲ閱スルニ「問、會社ノ事務室ノ戸棚ニ放火シタ事實ハ如何答、私ハ遺ツタニ相違アリマセヌ問、何故左様ナ事ヲシタノカ答、昨年四月三十日ニハ會社ノ株主總會カアリマスノテ其ノ前日二十九日ノ晩ハ決算報告ニ關スル書類作成ノ爲夜業ヲシマシタ其ノ時自分ノ横領額未カ發覺スルト私ノ身元保證人ナル高野勝三郎ニ迷惑カ掛カルト考ヘルト苦痛ニナツテ堪ラス前夜ハ友人ト殆ト徹夜ヲ酒宴ヲ遣ツタ所ニ此ノ晩モ夜業中酒ヲ飲ンタノテ殆ト頭ノ中カトウカナツテ居ル處ヘ只今ノ様ニ考ヘ出シタ爲居テモ立ツテモ居ラレヌ様ニナツテツイ放火ノ方法ヲ執ルニ至リマシタノテ何トモ申譯ハアリマセヌ問、火ハ何處ヘ付ケタカ答、初メカラ家ヲ帳簿ヲ燒コト云フ考ヘナトハナク私トシテハ事カ發覺シテ高野氏ニ迷惑カ掛ツテ困ルト云フノカ第一帳簿サヘ無クハ横領ノ事實ハ判リマセヌカラソレヲ判ラヌ様ニスレハ良イト云フ單純ナ考ヘカラ思付タノテ會社ノ前ニハ川カアルカラ火事騒キニ帳簿ヲ其ノ川ニ投込メハ良イト思ヒ戸棚ハ全部中カブリキ張リテ火ヲ付ケテモ火事ニハナラヌト考ヘ其處ヘ支度シマシタ問、其ノ戸棚ハ押入式ニ出來テ居テ床板ハ腐朽シテ居タノテハナイカ答、左様テスソシテ床板ニ偶然手ヲ掛ケタラ取レタノテ其ノ床下ニ新聞紙二、三枚ヲ押込ミソレニ持ツテ居タマツテ點火シ戸棚ハ締メテ置キマシタ」(四三二丁以下)ト供述シアリテ是レニ由レハ被告人ハ判示ノ場所ヘ放火シタルコトハ相違ナキモ元ヨリ該家屋ヲ燒燬スルノ意思ナク判示押入ハブリキ張ニテ火事ニハナラヌト考ヘ單ニ一時火事騒キヲ演シ帳簿ヲ川ニ投込マントノ目的ナリシト云フニ在リテ原判決摘示ト大ニ其ノ趣旨ヲ異ニス而シテ被告人ニ判示家屋燒燬ノ意思ナカリシモノトセハ被告人ノ行爲ハ犯意ヲ缺如スルコトトナリ此ノ點ハ本件斷罪上重大ノ影響ヲ有スル事項ナリトス然ラハ原判決ハ此ノ點ニ付被告供述ノ趣旨ヲ分別變更シテ斷罪ノ資料ニ供シタル

モノニシテ即チ探證ノ法則ニ違背スルモノト信スト云フニ在レトモ○原判決ノ引用セル所論原審ニ於ケル被告供述部分ト原審公判調書ノ被告供述記載トヲ對照スレハ同一趣旨ナルコトヲ知ルニ足り原判決ハ被告ノ供述セル儘ヲ採用セルモノニシテ毫モ之ヲ分割變更シタル跡ナク又前記燒燬ノ意思ヲ以テ放火シタリトハ被告ノ供述セルトコロニシテ原判決亦斯ル供述アリトシテ引用セルコトナク論旨理由ナシ

第三點被告人ノ豫審第三回訊問調書ニハ火ヲ放チテ火事騒キニ帳簿ヲ川ノ中ニ捨テルノカ目的テアツタノテ帳簿ヲ持出シタノテアリマシタ之カ爲決シテ私ハ彼ノ家ヲ燒イテ仕舞フト云フ考ヘテハナク只火事騒キニスルト云フ考ヘタケテシタ……：私ハ火力燃工出スト直ク其ノ場所ニ行キ板戸ヲ外シ他面小使ヲシテ外ニ出テ火事ヲ怒鳴ラセタノテアリマス云々供述記載同人ノ豫審第五回訊問調書ニ私ノ放火シタノテハ家ヲ燒ク意思テナク放火騒キノ混雜ニ乘シ帳簿ヲ外ニ持出シ川ニ投ケ捨テテ紛失シタト云フ口實ヲ作ランカ爲テアツタカラテアリマス放火テ帳簿ヲ判ラナクスル爲ノ機會ヲ作ツタノニ過キマセヌ云々供述記載第一審第一回調書ニ被告人ノ供述トシテ實際火事ニ至ラナイ内ニ消シ止メテ仕舞フ考ヘテアツタノテアリマス云々記載及前點所載ノ證據ヲ綜合スル時ハ第一、被告人ハ放火ノ爲ス意思ヲ以テ放火行爲ヲ爲シタルニ相違ナキモ燒燬スル意思ナキ事極メテ明瞭ナリ刑法第百八條ハ火ヲ放チテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物……：ヲ燒燬シタルモノハ云々ト規定セルカ故ニ客觀要素トシテ放火行爲アルコト及放火ニ依リテ目的物ヲ燒燬シタル事ヲ要シ主觀的要素トシテ放火ノ意思及燒燬ノ意思ヲ要ス然ルニ本件ニ於テ此ノ燒燬ノ意思ヲ缺如ス此ノ點ニ於テ本件ハ無罪ナリト云ハサルヘカラス第二、敘上證據ニ據ルトキハ被告人ハ放火ヲ爲シ火事騒キヲ惹起シ其ノ機會ニ乘シテ帳簿ヲ川ニ投入スルヲ目的トシタルモノナルコト明ナルト同時ニ紙類ノ燒燬スル音ヲ聞クヤ直チニ現場ニ走セ行キ消火ノ手筈ヲ爲シタル事モ明ニシテ是ニ依リ僅々數杯ノ汲水ニ依リ消火スル事ヲ得タルモノナリ元來放火罪ハ公共危險罪ニシテ危險ノ發生ヲ罪ノ形式的要件(第百九條以下)又ハ實質的要件(第百八條)トス然ルニ本件ハ材料ニ火ノ燃移ルヲ待チテ之ヲ消止ムル方法ヲ採リタルモノニシテ其ノ目的ハ燒燬ニアラス火事騒キヲ作ルニアリ否寧ろ消火ヲ目的ト爲シタルモノナリ適當ナル火事騒キヲ演出スルト同時ニ消火セント志シタルモノナリ故ニ豫審危險ノ發生ヲ防止スル狀態ニ於テ處置セラレタルモノナリト云フヲ得ヘキノミナラス延テ何等危險發生モサル事恰モ年初行ハルル消防演習ト毫モ異ル處ナシト云ハサルヘカラス此ノ理由ニ依ルモ亦本件ハ無罪ナリト云ハサルヘカラス

刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ規定スル事實上ノ主張ニ對スル判斷ト其ノ說  
示 中止未遂ノ主張ト之ニ對スル判斷說示ノ有無

スト云フニ在レトモ○原判決引用ノ各證據ヲ綜合スレハ被告カ家屋燒燬ノ意思ヲ以テ放火シ以テ獨立燒燬ノ程度ニ達セシメタルコトヲ證明シ得ルヲ以テ放火ノ目的カ帳簿搬出ニ在リ且消火ノ準備ヲ爲シ置キタリトスルモ既ニ發生シタル放火既遂ノ結果ニ付其ノ責任ヲ免ルルヲ得サルヲ以テ無罪ナリトノ論旨ハ理由ナシ

**第五點原判決ハ判示第二事實ニ付被告人ヲ放火既遂罪トシテ處斷シタリ然ルニ原院ニ於テ被告人ノ辯護人ハ孰レモ「放火ニ付テハ家屋燒燬ノ意思ナク且直チニ之ヲ防止シ得ヘキ設備ノ場所ニ試ミ而モ直チニ防止シ得タルモノナルヲ以テ中止未遂犯ナリ」ト主張シタルコトハ原院公判調書ノ記載ニ徴シ明白ナリトス仍テ原判決ニ於テハ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ依リ此ノ主張ニ對シ相當ノ判斷ヲ示ササルヘカラサルモノナルニ毫モ此ノ主張ニ對シ判斷ヲ與ヘサルハ判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタルモノニシテ刑事訴訟法第四百十條第二十號ニ依リ破毀スヘキモノト信スト在リ○仍テ按スルニ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニハ法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシト規定セルヲ以テ同項所定ノ原由タル事實上ノ主張アリタルトキハ裁判所ハ之ニ對シテ其ノ當否ノ判斷ヲ示ササルヘカラスト雖單ニ判文上判斷ヲ示スヲ以テ足り判決中ニ事實上ノ主張ヲ掲記シ之カ當否ニ付判斷ノ理由ヲ説明セサルモ違法ニ非ス原審公判調書ヲ閱スルニ所論ノ如ク原審辯護人ハ放火ニ付テハ家屋燒燬ノ意思ナク且直チニ之ヲ防止シ得ヘキ設備ノ場所ニ試ミ而モ直チニ防止シ得タルモノナルヲ以テ中止未遂犯ナリト主張シタルコトハ其ノ記**

【要旨第一】

【要旨第二】

載スルトコロナルモ原審認定事實ニ依レハ被告ハ營業所ニ火ヲ放チ其ノ騒ニ乘シ帳簿類ヲ故意ニ紛失セシメ以テ之カ證據ヲ湮滅スルニ如カスト決意シ木造二階建營業所内事務室西北側造付戸棚ノ床下ヲ剝キ其ノ下ニ新聞紙數枚ヲ押込ミ之ニ燐寸ヲ以テ點火シ再ヒ床板ヲ舊ニ復シ置キタルヨリ火ハ忽チ該新聞紙ヨリ右家屋ニ燃移リ前示戸棚ノ床板及外側羽目板ノ一部ヲ燒燬シタリト云フニ在ルヲ以テ原審ハ被告ノ所爲ヲ放火既遂罪ナリト認定シタルコト明ナレハ前示辯護人ノ中止未遂犯ナリトノ主張ハ自ラ之ヲ排斥シ中止犯ニ非サルコトノ判斷ヲ示シタルモノト謂フヘシ蓋シ裁判所カ被告ノ所爲ヲ放火未遂罪ナリト認定シタル場合ニ中止犯ナリトノ主張アリタルトキハ被告以外ノ障礙若ハ舛錯ニ因ル未遂罪ナリヤ將タ被告ノ意思ニ因ル未遂罪ナリヤヲ判文上明記スルニ非サレハ右主張ニ對シテ判斷ヲ示シタルコトヲ知り難キ場合アルヘシト雖裁判所カ既遂罪ナリト認定シタルニ於テハ單ナル未遂罪ナリヤ將タ中止犯ナリヤヲ云爲スル餘地ナキヲ以テ自ラ右主張ヲ排斥シタル判斷ヲ示シタルモノト謂フヲ得ヘケレハナリ從テ原審ハ辯護人ノ主張ニ對シ判斷ヲ遺脱シタル違法アルコトナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告理由及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事三橋市太郎關與

刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ規定スル事實上ノ主張ニ對スル判斷ト其ノ說示 中止未遂ノ主張ト之ニ對スル判斷示ノ有無



### ○強盜竝暴力行爲等處罰ニ關スル法律違反被告事件

(昭和四年(れ)第二七五號 棄却)  
同年五月二日第五刑事部判決

【上告人】 被告人 金田榮太郎 辯護人 山口貞昌  
【第一審】 大阪地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

#### ○判示事項

暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項違反ト刑法第六十條

#### ○判決要旨

數人力共同シテ暴行ヲ實行シタル事實ヲ認定シ暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項ニ該當スル場合ニハ刑法第六十條ヲ適用スヘキモノニアラス

【參照】 暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項 團體若ハ多衆ノ威力ヲ示シ團體若ハ多衆ヲ假裝シテ威力ヲ示シ又ハ兇器ヲ示シ若ハ數人共同シテ刑法第二百八條第一項第二百二十二條又ハ第二百六十一條ノ罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又

ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

刑法第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

#### ○事實

第二審裁判所ハ左記事實ヲ認定シ第一行爲ニ對シ刑法第六十條第二百三十六條第一項第二行爲ニ對シ大正十五年法律第六十號(暴力行爲等處罰ニ關スル法律)第一條第一項ヲ適用シ尙刑法第四十七條第六十六條第七十一條第六十八條第三號第二十一條ヲ適用シ被告人榮太郎ヲ懲役三年ニ處シ未決拘留日數七十日ヲ本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一被告人金田榮太郎ハ昭和三年四月十日江藤碩造カ大阪市西成區橋通參丁目小林梅吉方ニ立越シタルヲ知り同人等カ賭博ヲ爲スモノト思惟シ之ヲ被告人木村末吉ニ告ケ兩名同道シテ右小林方ニ到リ碩造ニ對シ賭博ヲ爲シタルトキハ勝チタル金ノ分配ヲ受ケ度旨申入レ被告人末吉ハ之カ分配ヲ受クル目的ヲ以テ同市同區梅道二丁目壹番地菊水食堂ニテ碩造ヲ待受ケ被告人榮太郎ハ偶被告人末吉ニ所用アリテ來訪セル被告人本田孝三ニ對シ右事情ヲ告ケ孝三榮太郎ノ兩名モ同シク賭博ニ勝チタル金ノ分配ヲ受クル目的ヲ以テ右菊水食堂ニ到リ末吉ト共ニ碩造ヲ待受ケ居タルニ同日午後五時過頃前記碩造カ右食堂ニ來リ賭博出來サリシ旨ヲ告ケテ立去ラムトシタルヨリ被告人等ハ碩造カ賭博ヲ爲シテ勝チ乍ラ其ノ分配ヲ爲ササルモノト爲シ強テ同人ヲ右食堂ノ二階ニ上ケテ其ノ所持金ヲ奪取セムト決意シ茲

暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項違反ト刑法第六十條

ニ被告人等三名共謀ノ上被告人末吉ハ下駄ヲ以テ碩造ヲ毆打シ被告人榮太郎孝三モ同人ヲ毆打シ碩造ヲ右食堂ノ二階ニ上ラシメ被告人末吉ハ碩造ニ對シ賭博ハ出來タルニ相違ナシト主張シテ暗ニ金圓ノ交付ヲ求メ被告人孝三ハ碩造ニ對シ自分ハ俠客ノ身内ナル旨ヲ告ケ且ツ同人ノ顔面ヲ毆打シ被告人榮太郎ハ同人ニ對シ本田ハ人ヲ傷ケ入監シタルコトアル旨ヲ告ケテ三名交々暴行又ハ脅迫ヲ爲シ同人ヲシテ此ノ上出金ニ應セサルニ於テハ其ノ生命身體ニ如何ナル危害ヲ加ヘラルルヤモ計リ難キ旨畏怖セシメテ同人ノ反抗ヲ抑壓シタル上被告人孝三ニ於テ即時同所ニ於テ同人ノ所持金中四十餘圓ヲ奪取シ以テ被告人等三名共同シテ之カ強取ヲ遂ケ

第二被告人孝三及榮太郎ノ兩名ハ同日午後八時頃同市同區櫻通三丁目八番地飲食店志賀通家ニ於テ被告人末吉ト飲酒中隣室ニ於テ三崎貞治等カ被告人末吉ト知合ナル同家仲居桂靜子ニ三味線ヲ彈カセ盛ニ遊興シ該仲居カ被告人等ノ聘ニ應セサリシヨリ之ニ憤慨シ被告人榮太郎ハ右隣室トノ間ノ襖ヲ押倒シ之ヲ咎メタル三崎貞治ヲ被告人孝三ト共同シテ各手ヲ以テ毆打シタルモノナリ

### ○理由

辯護士山口貞昌上告趣意書第七點原裁判所ハ被告榮太郎ニ(第一)木村末吉及本田孝三ト共謀(原判決ノ用字例ニ從フ)シテ江藤碩造ニ暴行脅迫ヲ加ヘ金圓ヲ強取シ(第二)本田孝三ト共同(原判決ノ用字例ニ從フ)シテ三崎貞治ニ暴行ヲ爲シタル犯罪アリト認め第一ニ付刑法第六十條及同法第二百三

十六條第一項第二ニ付大正十五年法律第六十號第一條第一項ヲ(特ニ刑法第六十條ヲ除外ス)各適用處斷セリ右判示ニ依レハ原院ハ第一犯罪ヲ以テ刑法總則所定ノ共犯ニ係ルモノトナシ第二犯罪ハ然ラサルモノト認めテ處斷シタルコト明白ナリト信ス然レトモ大正十五年法律第六十號暴力行為等處罰ニ關スル件ハ暴行罪ヲ數人共同(刑法第六十條)ニテ犯シタル場合ニ限り其ノ處罰ニ付被害者ノ告訴ヲ要件ト爲ササル特例ヲ規定シタルニ過キササルヲ以テ當該犯人ノ間ニ於テハ刑法ノ本則ニ依リ犯意ノ連絡犯行ノ分擔等一般共犯ノ成立ニ關スル各種條件ノ具備ヲ必要トナスコト論ヲ俟タサル所ナリ故ニ右判示ノ如ク被告榮太郎カ偶本田孝三ト同時ニ各々三崎貞治ヲ毆打シタルモ其ノ間ニ犯意ノ共通其ノ他共犯成立ノ要件ナクンハ之ニ右法律第六十號ヲ適用スルヲ得サルヤ毫末モ疑ナク從テ原判決カ共犯關係存在ノ事實ヲ確定セサルニ拘ラス輕ク暴力行為等處罰ニ關スル法律ヲ適用處斷シタルハ不當ニシテ理由不備ノ違法アリト謂ハサルヘカラスト云ヒ」第八點原判決ハ「被告榮太郎ハ三崎貞治ヲ被告人孝三ト共同シテ各手ヲ以テ毆打シタリ」ト判示シタルモ右共同云々ノ文詞ハ單ニ大正十五年法律第六十號所掲ノ抽象的法律術語ヲ其ノ儘襲踏使用シタルニ止リ此ノ文詞ニ依リ當然被告榮太郎ト孝三間ニ犯意ヲ共通シテ犯行ヲ分擔實行シタル旨ノ具體的事實ヲ敘述説明シタルモノトハ解シ難ク(原判決ノ證據説明ニモ此ノ點ヲ徵スヘキ說示ナシ)這ハ恰モ詐欺罪ニ付某人ヲ欺罔シテ金品ヲ騙取シタリト謂ヒ其ノ欺罔騙取ノ具體的事實ヲ説明セサリシ場合ト等シク上記共犯關係ノ内容ニ關スル事實ノ

判示ヲ缺如スルモノニシテ理由不備ヲ免レスト云フニ在リ○按スルニ原判決カ第一被告人等ハ共謀シテ暴行脅迫ヲ以テ江藤碩造所持ノ金圓ヲ強取シ第二被告人等ハ共同シテ各手ヲ以テ三崎貞治ヲ毆打シタリトノ事實ヲ認定シ第一事實ニ付テハ刑法第六十條ヲ引用シタルニ拘ラス第二事實ニ付テハ同條ヲ引用セサリシコト洵ニ所論ノ如シ然レトモ右ノ如ク共謀ト云ヒ又ハ共同ト云フモ其ノ共犯タルコトヲ示ス點ニ於テハ二者ノ意義毫モ異ル所無ク右第一第二ノ事實ハ孰レモ被告人等カ共通ノ犯意ヲ以テ俱ニ前記各犯罪ヲ實行シタル共犯者ナルコトヲ示スヘキ具體的事實ヲ認定シタル趣旨ナルコト明白ナリ而シテ原判決カ右第二ノ犯罪ニ付適用シタル暴力行為等處罰ニ關スル法律第一條第一項ニハ數人共同シテ暴行罪ヲ犯シタル者ヲ處罰スル旨規定シアリ其ノ解釋上暴行罪ヲ犯シタル數人間ニ所謂共犯關係ノ存在スルコトヲ要件トシテ特別ニ處罰スルノ法意ナルコト明ナルヲ以テ數人カ共同シテ暴行ヲ實行シタル事實ヲ認定シ同法條ヲ適用スル場合ニハ更ニ刑法第六十條ヲ適用スヘキモノニアラスサレハ原判決カ右第二犯罪ニ付前掲處罰ニ關スル法律第一條第一項ヲ適用シ刑法第六十條ヲ適用セサルハ洵ニ相當ナリト謂フヘク之カ爲ニ所論ノ如ク原判決カ第三犯罪ニ付共犯關係ヲ否定シ又ハ共犯關係ノ存在ヲ確定セサルモノト謂フヘカラス又原判決ニハ被告人等カ共通ノ犯意ヲ以テ各三崎貞治ヲ毆打シタリトノ具體的事實ヲ認定シアルコト敍上説明ノ如クナルヲ以テ所論ノ如ク共犯ニ關スル事實ノ判示ヲ缺如スルノ違法モアルコトナク論旨ハ孰レモ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上説明スルカ如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事 榎田 麟二 關與

○贈賄關稅法違反被告事件 (昭和四年(九)第三二四號 棄却)  
(同年五月十四日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 大給 貢 作 辯護人 金光 邦 三  
 【第一審】 神戸地方裁判所 【第二審】 大阪控訴院

○判示事項

稅關貨物取扱人ノ名義ヲ使用スル者ノ關稅通脫ト關稅法第八十二條ノ二第二項

○判決要旨

稅關貨物取扱人タルノ免許ヲ受ケサル者カ其ノ免許ヲ有スル者ノ承認ヲ得テ同人ノ名義ヲ使用シ自己ノ計算ニ於テ輸入貨物取扱業

稅關貨物取扱人ノ名義ヲ使用スル者ノ關稅通脫ト關稅法第八十二條ノ二第二項

ヲ經營シ其ノ業務ヲ執行スル際關稅ヲ遁脫シタルトキハ關稅法第七十五條ニ依リ處罰セラレ同法第八十二條ノ二第二項ノ適用アルモノニアラス

【參照】 關稅法第七十五條 關稅ノ遁脫ヲ圖リ又ハ關稅ヲ遁脫シタル者ハ其ノ遁脫ヲ圖リ又ハ遁脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ犯罪ニ係ル貨物ヲ沒收ス

同法第八十二條ノ二第二項 稅關貨物取扱人ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ第七十四條、第七十五條又ハ第七十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ稅關貨物取扱人ヲ處罰ス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定法律ノ適用ヲ爲シテ被告人貢作ヲ懲役六月及罰金一萬九千三百七圓十六錢ニ處シ未決拘留日數八十日ヲ本刑ニ算入シ罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ百日間勞役場ニ留置ス被告人貢作ヨリ金一萬八千二百九十三圓三十九錢ヲ追徵スル旨ノ判決ヲ爲シタリ  
被告人大給貢作ハ稅關貨物取扱人タルノ免許ナキニ拘ラス其ノ免許ヲ有スル神戸市榮町通二丁目三九商會深井増藏ノ承認ヲ得テ同人名義ヲ使用シ自ラ同市海岸通二丁目ニ於テ神戸稅關ニ於ケル輸入貨物取扱業ヲ經營シ其ノ業務ニ從事中同市西町中村兄弟樂器商會主中村久吉及大阪市西區阿波座上通三丁

目松尾七平商店ヨリ同人等宛ニ海外ヨリ神戸港ニ到着シタル輸入貨物ノ通關手續ヲ引受ケ其ノ取扱ヲ爲スニ際リ當該検査官吏ニ請託贈賄シテ之カ關稅ノ一部ヲ遁脫センコトヲ企テ

(一) 大正十三年一月十一日同港ニ海外ヨリ到着シタル前記中村久吉宛ノピアノ六箱ノ通關方ヲ引受ケ同日頃同稅關ニ於テ其ノ輸入申告ヲ爲スニ當リ該貨物ノ價格金三千六百十四圓八十九錢其ノ重量二千三百五十八斤三三ニ相當シ之ニ每百斤金三十四圓四十錢ヲ擬率シタル金八百一十一圓二十六錢ノ關稅ヲ課セラルヘキトコ豫メ検査官吏被告人誠一ニ對シ其ノ重量ヲ低減シテ査定セラレ度キ旨請託シ其ノ價格ヲ金二千四百圓トシ之ニ照應スル虛偽ノ仕入書ヲ添付シテ申告シ同被告人ヲシテ之ヲ容レ其ノ重量ヲ一千六百二十一斤ト査定セシメ關稅金五百五十七圓六十二錢ヲ納人シテ其ノ通關ヲ了シ以テ其ノ差額金二百五十三圓六十四錢ヲ遁脫シ其ノ翌日頃同稅關構内ニ於テ被告人誠一ニ對シ右請託ヲ認容シ吳レタル報酬トシテ金五十圓ヲ供與シ以テ贈賄シ

(二) 同年三月十八日前同様到着シタルピアノ六箱ノ通關方ヲ前同貨主ヨリ引受ケ同日頃同稅關ニ於テ其輸入申告ヲ爲スニ際シ該貨物ノ價格金四千三百九十四圓ニ相當シ其ノ重量二千百十六斤六七ナルニヨリ前同率ヲ擬シタル金七百二十八圓十三錢ノ關稅ヲ課セラルヘキトコ豫メ検査官吏被告人誠一ニ對シ前同様ノ請託ヲ爲シ其ノ價格ヲ金二千五百圓トシ之ニ照應スル虛偽ノ仕入書ヲ添付シテ申告シ同被告人ヲシテ之ヲ容レ其ノ重量ヲ千六百九十八斤ト査定セシメ關稅金五百八十四圓十一錢ヲ納人シ

其ノ通關ヲ了シ以テ其差額關稅金百四十四圓二錢ヲ通脫シ被告人誠一ニ對シ其ノ翌日頃同稅關構内ニ於テ右請託ヲ認容シ吳レタル報酬トシテ金五十圓ヲ供與シ以テ贈賄シ

(三) 同年四月四日前同様に著シタル樂器部分品三箱(二百五十クロス)ノ通關方ヲ前同貨主ヨリ引受ケ同月十二日同稅關ニ於テ其ノ輸入申告ヲ爲スニ當リ該貨物ノ價格金一千七百二十七圓九十一錢ニ相當シ之ニ從價四割ヲ擬率シタル金六百九十一圓十六錢ヲ課稅セラルヘキトコロ豫メ檢査官吏被告人誠一ニ對シ其ノ數量ヲ減少シ價格ヲ低減シテ申告スヘキニ付之ヲ認容セラレ度キ旨請託シ其ノ數量ヲ百五十クロスニ減シ其ノ價格ヲ英貨六十磅十二志六片ナリト申告シ同被告人ヲシテ右申告通リ認容査定セシメ金二百二十圓八十四錢ノ關稅ヲ納入シ其ノ通關ヲ了シ以テ其差額關稅金四百七十圓三十二錢ヲ通脫シ被告人誠一ニ對シ右請託ヲ認容シ吳レタル報酬トシテ其ノ翌日頃同稅關構内ニ於テ金百五十圓ヲ供與シ以テ贈賄シ

(四) 同年四月二十八日前同様に著シタル洋樂器部分品竝ニ附屬品五箱ノ通關方ヲ前同貨主ヨリ引受ケ同年五月七日同稅關ニ於テ其ノ輸入申告ヲ爲スニ當リ該貨物ノ價格金六千二百一十一圓三十三錢ニ相當シ之ニ從價四割ヲ擬率シタル金二千四百八十四圓五十三錢ノ關稅ヲ課セラルヘキトコロ豫メ檢査官吏被告人誠一ニ對シ前同様に請託ヲ爲シタル上其ノ數量ヲ減少シ其ノ價格ヲ低減シテ英貨八十一磅五志トシ之ニ照應スル虛偽仕入書ヲ添付シテ申告シ仍テ同被告人ヲシテ之ヲ容レ其ノ數量ヲ申告通リ認

メ價格ヲ金八百七十一圓八錢ナリト査定セシメ關稅金三百四十八圓四十三錢ヲ納入シテ其ノ通關ヲ了シ以テ其ノ差額關稅金二千三百三十六圓十錢ヲ通脫シ其ノ翌日頃同稅關構内ニ於テ右請託ヲ認容シ吳レタル報酬トシテ被告人誠一ニ對シ金二百四十圓ヲ供與シ以テ贈賄シ

(五) 同年六月十一日前同様に著シタル樂器四百九十七箇及部分品七箱ノ通關方ヲ前同貨主ヨリ引受ケ同月十九日同稅關ニ於テ其ノ輸入申告ヲ爲スニ當リ該貨物ノ價格金三千二百八十二圓三十四錢ニ相當シ之ニ從價四割ヲ擬率シタル金千三百十二圓九十二錢ノ關稅ヲ課セラルヘキニ拘ラス豫メ檢査官吏被告人利吉及誠一ニ對シ前同様に請託ヲ爲シ其ノ數量ヲ減少シ其ノ價格ヲ低減シテ英貨金九十八磅二志トシ之ニ照應スル虛偽ノ仕入書ヲ添付シテ申告シ右被告人兩名ヲシテ之ヲ容レ其ノ數量ヲ申告通リ認メ其ノ價格ヲ金千五十圓六錢ナリト査定セシメ關稅金四百二十圓一錢ヲ納入シ其ノ通關ヲ了シ以テ其ノ差額關稅金八百九十二圓九十一錢ヲ通脫シ被告人利吉ニ對シ右請託ヲ爲シタル際即時之ヲ認諾シ吳レタル報酬トシテ兵庫縣武庫郡六甲村東明ナル當時ノ被告人利吉方住宅ニ於テ金百圓ヲ供與シ被告人誠一ニ對シテハ右通關ノ翌日頃同稅關構内ニ於テ同様趣旨ノ下ニ金二百圓ヲ供與シ以テ各贈賄シ

(六) 同年六月二十三日同様に著シタル蓄音器二十一箱ノ通關方ヲ前同貨主ヨリ引受ケ同年七月十九日同稅關ニ於テ其ノ輸入申告ヲ爲スニ當リ該貨物ノ價格金二千五百九圓十九錢ニ相當シ之ニ從價五割ヲ擬率シタル金千二百五十四圓五十九錢ノ關稅ヲ課セラルヘキニ拘ラス豫メ檢査官吏被告人誠一ニ

對シ前同様ノ請託ヲ爲シ其ノ價格ヲ低減シテ英貨九十二磅十一志六片トシ之ニ照應スル虛偽ノ仕入書ヲ添付シテ申告シ同被告人ヲシテ之ヲ容レ其ノ價格ヲ金九百六十五圓五十五錢ト査定セシメ同月二十一日金四百八十二圓七十七錢ノ關稅ヲ納入シテ其ノ通關ヲ了シ以テ其ノ差額關稅金七百七十一圓八十二錢ヲ連脫シ其ノ後數日ヲ經テ同稅關構内ニ於テ被告人誠一ニ對シ右請託ヲ認容シ吳レタル報酬トシテ金百圓ヲ供與シ以テ贈賄シ

(七) 同年七月十五日前同様到着シタル樂器四箱ノ通關方ヲ前同貨主ヨリ引受ケ同月二十一日同稅關ニ於テ其ノ輸入申告ヲ爲スニ當リ該貨物ノ價格金三千五百七十五圓九十三錢ニ相當シ之ニ從價四割ヲ擬率シタル金千四百三十四圓三十七錢ノ關稅ヲ課セラルヘキトコロ豫メ検査官吏被告人誠一ニ對シ前同様ノ請託ヲ爲シ其ノ數量ヲ減少シ其ノ價格ヲ低減シテ英貨金九十二磅十八志トシ之ニ照應スル虛偽ノ仕入書ヲ添付シテ申告シ同被告人ヲシテ之ヲ容レ其ノ數量ヲ申告通り認メ其ノ價格ヲ金九百六十七圓四十六錢ナリト査定セシメ同日關稅金三百八十六圓九十八錢ヲ納入シテ其ノ通關ヲ了シ以テ其ノ差額關稅金千四十三圓三十九錢ヲ連脫シ其ノ後數日ヲ經テ神戸市須磨敦盛華壇ニ於テ被告人誠一ニ對シ右請託ヲ認容シ吳レタル報酬トシテ金百五十圓ヲ供與シ以テ贈賄シ

(八) 同年七月二十二日前同様到着シタルハトモニカ三百ダース三箱ノ通關方ヲ前同貨主ヨリ引受ケ同年八月六日同稅關ニ於テ其ノ通關手續ヲ爲スニ當リ其ノ價格金二千八百十七圓九十二錢ニ相當シ之

ニ從價四割ヲ擬率シタル金千二百二十七圓十六錢ノ關稅ヲ課セラルヘキニ拘ラス豫メ検査官吏被告人利吉及誠一ニ對シ前同様ノ請託ヲ爲シ其ノ數量ヲ百七十五ダースニ減少シ其ノ價格ヲ英貨百十六磅十片ニ低減シ之ニ照應スル虛偽ノ仕入書ヲ添付シテ其ノ輸入申告ヲ爲シ仍テ右被告人兩名ヲシテ之ヲ容レ書面検査ニヨリ數量ヲ申告通り認メ其ノ價額ヲ金千二百三十四圓十錢ナリト査定セシメ金四百九十三圓六十四錢ノ關稅ヲ納入シテ其ノ通關ヲ了シ以テ其ノ差額金六百三十三圓五十二錢ヲ連脫シ被告人利吉ニ對シテハ右請託ヲ爲シタル際前記同被告人方居室ニ於テ右請託ヲ承諾シ吳レタル報酬トシテ金百五十圓ヲ供與シ被告人誠一ニ對シテハ其ノ通關ノ翌日頃神戸市加納町ナル同被告人方居室ニ於テ同様請託ヲ認容シ吳レタル報酬トシテ金百三十圓ヲ供與シ以テ各贈賄シ

以上連脫關稅總額金六千三百四十五圓七十二錢ニ達シ

(九) 大正十二年十二月七日前同貨主ヨリ同人宛ピアノ六箱ノ通關方ヲ引受ケ之カ手續ヲ爲スニ當リ豫メ検査官吏被告人誠一ニ對シ低率ノ關稅ヲ査定シテ通關シ吳レ度キ旨請託シ同被告人ヲシテ書面ノミノ検査ニヨリ其ノ重量千五百九十九斤每百斤金三十四圓四十錢擬率セラルヘキモノト査定シ其ノ輸入申告ヲ認容セシメタル上同月十二日右關稅金トシテ金五百三十三圓五十二錢ヲ納入シテ其ノ通關ヲ了シ被告人誠一ニ對シ其ノ頃同稅關構内ニ於テ右請託ヲ認容シ吳レタル報酬トシテ金四十圓ヲ供與シ以テ贈賄シ

(十) 大正十三年三月二十六日前同貨主ヨリ同人宛ピアノ三箱ノ通關方ヲ引受ケ之カ手續ヲ爲スニ當リ豫メ検査官吏被告人誠一ニ對シ前同様ノ請託ヲ爲シ同被告人ヲシテ書面ノミノ検査ニヨリ其ノ重量八百四十九斤前同率ノ課稅セラルヘキモノト査定シ其ノ輸入申告ヲ認容セシメ同年四月五日右關稅トシテ金二百九十二圓五錢ヲ納ハシテ其ノ通關ヲ了シ其ノ頃同稅關構内ニ於テ被告人誠一ニ對シ前同趣旨ノ報酬トシテ金三十圓ヲ供與シ以テ贈賄シ

(十一) 同年二月三日前同貨主ヨリ同人宛ピアノ六箱ノ通關方ヲ引受ケ之カ手續ヲ爲スニ當リ豫メ検査官吏被告人誠一ニ對シ前同様ノ請託ヲ爲シ同被告人ヲシテ前同様其ノ重量ヲ千六百九十二斤ト査定セシメ同月六日右關稅トシテ金五百八十二圓四錢ヲ納入シテ其ノ通關ヲ了シ其ノ頃同稅關構内ニ於テ被告人誠一ニ對シ前同趣旨ノ報酬トシテ金五十圓ヲ供與シ以テ贈賄シ

(十二) 大正十二年五月七日前記松尾七平ヨリ同人宛バラビンワツクス千二百袋ノ通關方ヲ引受ケ之カ手續ヲ爲スニ當リ豫メ検査官吏被告人誠一ニ對シ該貨物カ印度洋ヲ通過シ來リシ爲溶解シ其ノ重量減少セルヲ以テ之ヲ見込ミ申告スヘキニ付之ヲ認容シ吳レ度キ旨請託シ其ノ重量ヲ九萬十百三十斤トシテ其ノ輸入申告ヲ爲シ同被告人ヲシテ書面ノミノ検査ニ依リ申告通り之ヲ認容シ每百斤金十二圓ノ擬率ヲ爲シ其ノ關稅ヲ金一萬八百八十六圓四十錢ナリト査定セシメ同月九日右査定關稅ヲ納入シテ其ノ通關ヲ了シ被告人誠一ニ對シ其ノ翌日頃同被告人ノ前記居室ニ於テ右請託ヲ認容シ吳レタル報酬ト

シテ金二百圓ヲ供與シ以テ贈賄シ

(十三) 大正十二年四月二十日頃同貨主ヨリ同人宛バラビンワツクス三百袋ノ通關方ヲ引受ケ之カ手續ヲ爲スニ當リ豫メ検査官吏被告人誠一ニ對シ前同様ノ請託ヲ爲シタル上其ノ重量ヲ減少シテ四萬五千三百六十斤トシテ其ノ輸入申告ヲ爲シ仍テ同被告人ヲシテ申告通り認容シ前同率ヲ擬シテ其ノ關稅ヲ金五千四百四十三圓二十錢ト査定セシメ同月二十四日右査定關稅ヲ納入シテ其ノ通關ヲ了シ被告人誠一ニ對シ其ノ翌日頃同被告人ノ前記居室ニ於テ右請託ヲ認容シ吳レタル報酬トシテ金二百五十圓ヲ供與シ以テ贈賄シ

(十四) 同年六月二十四日頃前同貨主ヨリ同人宛バラビンワツクス五百六十袋ノ通關方ヲ引受ケ其ノ手續ヲ爲スニ當リ豫メ検査官吏被告人誠一ニ對シ前同様ノ請託ヲ爲シ其ノ重量ヲ減少シテ六萬七千七百三十七斤半ナリト其ノ輸入申告ヲ爲シ同被告人ヲシテ其ノ申告通り認容シ前同率ヲ擬シテ其ノ關稅ヲ金八千二百二十八圓五十錢ト査定セシメ同月二十七日右査定關稅ヲ納入シテ其ノ通關ヲ了シ被告人誠一ニ對シ其ノ翌日頃同被告人ノ前記居室ニ於テ右請託ヲ認容シ吳レタル報酬トシテ金四百五十圓ヲ供與シ以テ贈賄シ

(十五) 同年八月十三日頃前同貨主ヨリ同人宛バラビンワツクス四百四十三袋及八百十四袋ノ通關方ヲ引受ケ其ノ手續ヲ爲スニ當リ豫メ検査官吏被告人誠一ニ對シ前同様ノ請託ヲ爲シタル上其ノ重量ヲ

減少シ九萬五千二十九斤トシテ其ノ輸入申告ヲ爲シ同被告人ヲシテ之ヲ申告通り認容シ前同率ヲ擬シテ其ノ關稅ヲ金一萬千四百三圓五十錢ト査定セシメ同月十五日右査定關稅ヲ納入シテ其ノ通關ヲ了シ被告人誠一ニ對シ其ノ翌日頃同被告人ノ前記居宅ニ於テ右請託ヲ認容シ吳レタル報酬トシテ金五百圓ヲ供與シ以テ贈賄シ

(十六) 大正十三年四月八日及同月十一日海外ヨリ神戸港ニ到着シタル神戸市西町日佛代理商會宛キツトレサ一合計八箱ニ付前記中村久吉ノ紹介ニ基キ佛人某ヨリ之カ通關方引受ヲ爲シ之カ手續ヲ爲スニ當リ豫メ検査官吏被告人誠一ニ對シ迅速且低率ノ關稅ニテ通關シ吳レ度キ旨請託シ之ヲ單ニレサ一又ハタンネツトスキントシテ其ノ輸入申告ヲ爲シ同被告人ヲシテ即日検査ヲ了シ右申告ヲ認容シ之ニ從價稅ヲ擬率シ低額ノ課稅ヲ以テ之ヲ通關セシメ同被告人ニ對シ同月十五六日頃前記同被告人方居宅ニ於テ右請託ヲ認容シ吳レタル報酬トシテ金二百圓ヲ供與シ以テ贈賄シ

(十七) 大正十二年十一月初旬頃神戶稅關川崎事務所ニ於テ同稅關官吏被告人直彦ニ對シ自己ノ申告ニ係ル輸入貨物ノ通關ニ關シ迅速ニ處理シ便宜ヲ圖リ吳レ度キ旨請託ヲ爲シ其ノ謝禮トシテ即時金五十圓ヲ供與シ以テ贈賄シ

(十八) 大正十三年七月頃前記中村久吉ヨリ通關方引受ケタルピアノ三箱ニ付其ノ手續ヲ爲スニ當リ検査官吏被告人清吾ニ對シ右貨物ニ損傷アルヲ以テ低率ノ關稅ヲ査定シ吳レ度キ旨請託シ同被告人カ

之ヲ認容シテ便宜ヲ圖リタルヨリ其ノ報酬トシテ其ノ頃同稅關構内ニ於テ同被告人ニ對シ金五十圓ヲ供與シ以テ贈賄シタリ

以上ノ犯行ハ犯意繼續ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人貢作ノ贈賄ノ所爲ハ刑法第九十八條第一項ニ該當スルところ犯音繼續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ其ノ所定刑中懲役刑ヲ選擇シテ貢作ヲ懲役六月ニ處シ被告人貢作ノ關稅ヲ違脫シタル所爲ハ關稅法第七十五條刑法第八條第五十五條ニ該當スルヲ以テ被告人貢作ヲ其ノ違脫シタル稅金六千三百四十五圓七十二錢ノ三倍ニ相當スル罰金一萬九千三十七圓十六錢ニ處シ以上ノ贈賄ト關稅法違反ハ併合罪ナルヲ以テ刑法第四十八條第一項本文ニ依リ右懲役刑ト罰金刑トヲ併科シ同法第二十一條ニ依リ未決勾留日數八十日ヲ右懲役刑ニ算入シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ依リ百日間勞役場ニ留置スヘク被告人貢作ノ關稅ヲ違脫シタル貨物ハ何レモ同被告人以外ノ者ニ屬シ沒收スルコト能ハサルヲ以テ關稅法第八十三條第一項ニ依リ被告人貢作ヨリ其ノ關稅貨物ノ價格合計二萬八千三百三十三圓五十一錢ヨリ其ノ關稅額合計金九千八百四十四圓十二錢ヲ控除シタル殘額金一萬八千二百九十三圓三十九錢ヲ追徵スヘキモノトス

### ○理 由

被告人貢作辯護人金光邦三上告趣意書第一點被告人貢作ノ行爲ヲ關稅法第七十五條規定ノ關稅違脫罪



ニ該當スルモノト問擬シタルハ著シク不當ナリ仍テ原審判決ヲ閱スルニ「被告貢作ハ判示ノ各通關手續ハ事實上自己ノ開與シタル處ナルモ右ハ何レモ其ノ當時稅關貨物取扱人ノ免許ヲ有シ神戶稅關ニ於ケル通關ノ業務ニ從事シ居タル深井増藏名義ヲ以テ爲サレタルモノナレハ關稅通脫罪ノ責任ハ右深井増藏ニ於テ之ヲ負擔スヘキ自己ニ於テ負擔スヘキ理由ナキ旨主張シ判示各通關手續カ右深井名義ヲ以テ爲サレタルモノナルコトハ曩ニ判示スルカ如クナルヲ以テ若シ同被告人ニシテ深井増藏ノ代理人雇人又ハ其ノ他ノ從事者トシテ其ノ業務ニ關シ判示關稅通脫ノ犯行ヲナシタルモノナランニハ之ニ對スル刑事上ノ責任ハ稅關貨物取扱人タル深井増藏ニ於テ之ヲ負擔スヘキ被告貢作ニ於テ負擔スヘキモノニ非サルコト關稅法第八十二條ノ第二項ニ規定スル趣旨ニ徴シ明ナリ然レトモ被告人貢作ハ右深井増藏ノ代理人雇人又ハ其ノ他ノ從業者トシテ判示通關手續ヲ爲シタルモノニ非サルコトハ同被告人ノ當公廷ニ於ケル供述ニ依リ自ラ明ナレハ該通關ニ付關稅ヲ通脫シタル責任ハ被告人貢作ニ於テ之ヲ負擔スヘキ事當然ニシテ深井増藏名義ヲ以テ右通關手續ヲナシタル故ヲ以テ該責任ヲ回避スルコト能ハサル勿論ナリトス依テ右被告人ノ辯疏ハ理由ナキモノトシテ排斥ス云々」ト判示シタリ然ラハ果シテ貢作ノ通脫行爲ニ對スル被告ノ辯疏ヲ如上ノ理由ヲ以テ一蹴シ去ル事ヲ得ヘキモノナリヤ否最  
高法衙ノ良知良能ノ判官ノ御明鑑ヲ仰カントスルモ要點ハ一ニ茲ニアリ凡ソ犯罪ヲ處罰スルハ犯罪行爲ヲナシタルモノ自身ヲ科刑制裁スルモノナル事ハ犯罪處罰ノ大原則ニシテ何人モ疑ハサル處ナリ然

レトモ若シ總テノ法規違反ニ對シ此ノ原則ヲ千遍一律ニ適用スル場合ニ於テハ往々ニシテ其ノ法規立法ノ特殊の精神ヲ失フ場合アリ之總テ原則ニ例外規定アル所以ナリ特ニ千差萬別幾多ノ制裁法規ニ於テハ場合ニ依リテハ原則ニ對シ例外規定ヲ設ケテ其ノ制裁法規ノ生命ト立法ノ眞ノ目的ヲ達セントスル例ハ決シテ尠カラス關稅法中ノ罰則規定モ亦其ノ一ニシテ關稅法罰則ニ於テノ原則ニ對シ幾多ノ例外的規定アリ即關稅通脫罪ハ關稅法第七十五條ノ規定ニ違反シタルモノハ事實ノ犯罪行爲者ヲ罰セントシテ犯罪者ト何等意思連絡ナキ場合ト雖其ノ營業者ヲ處罰スル趣旨ヲ規定セリ蓋シ之等ノ營業者ハ其ノ營業上ニ關シ一切ノ責任ヲ負ヒ且其ノ代理人又ハ使用人(從業者雇人ヲ含ム)ヲ監督スヘキ地位ニアレハナリシカモ又使用人ヲ處罰セントスルモ財產刑ヲ科スルモノニアリテハ其ノ目的ヲ達シ難キコトアレハナリ關稅法違反ハ一種ノ財政犯罪ニシテ總テ財產刑ナレハ之等ノ場合ニ於テ多クハ殆ト無資產ナル代理人使用人ヲ罰シテモ何等其ノ目的ヲ達スル能ハス國家カ侵害セラレタル收入の税金ノ補償ハ敢テ望ム能ハサレハナリ又關稅法ニ於テハ稅關貨物取扱人ノ代理人又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者ノ其ノ業務ニ關シ通脫罪ヲ犯シタル時モ關稅法第八十二條ノ第二項ニヨリテ稅關貨物取扱人其ノ者ヲ處罰シテ其ノ代理人雇人其ノ他ノ從業者ノ行爲ヲ罰セサル趣旨ヲ明規セリ蓋シ之又稅關貨物取扱人ノ場合ニ於ケル立法ノ趣旨理由モ前述ト同様ニテ稅關貨物取扱人ハ免許營業ノ一ニシテ其ノ業務ニ關シテハ一切ノ責任ヲ負ヒ其ノ代理人ハ雇人其ノ他ノ從業者ヲ監督スヘキ地位ニアレハナリシカ

モ又之等使用人ヲ處罰セントスルモ財産刑ヲ科スルニ在リテハ到底其ノ目的ヲ達シ能ハサレハナリ如上ノ通り關稅法罰則ノ立法ノ趣旨ハ其ノ使用人ノ行爲ニ對シテモ其ノ營業者若ハ稅關貨物取扱人ヲ處罰シ以テ其ノ責任ノ如何ニ重大ナルカヲ要求スルモノトセハ本件ニ於テ縱令被告責任カ自己ノ計算ニ於テ其ノ通關手續ヲ爲シタルニセヨ又名義人深井増藏ト獨立シテ爲シタルニセヨ唯單ナル計算關係ノ歸屬ノ有無ニ依リテ稅關貨物取扱人ナル重大ナル責任ヲ有スル免許營業者ノ責任ヲ左右スルコトナリ立法ノ精神ヲ沒却スルニ至ラサルカ若シ此ノ點ニ於テ原審ノ解釋ヲ正當ナリトセハ法律ノ規定シテ重大ナル責任ヲ負ハシメタル稅關貨物取扱人ナル免許營業ノ意義ヲ失ヒ稅關貨物取扱人ハ唯形式上ノ名義トナリ事實通關手續ヲ爲シ營業スルモノハ名義人以外ノモノトナリ一方又稅關貨物取扱人ナル免許ヲ得テ此ノ免許名義ヲ他人ニ貸與シ或ハ利用セシムルノ弊風ヲ生スルヤ火ヲ見ルヨリ明ナリ總テ免許營業ニ關スル取締法規ハ最モ嚴重ナル解釋ヲ爲ササル可カラス仄聞ス被告責任ハ稅關貨物取扱人深井増藏ニ名義料ノ名稱ノ下ニ多額ノ報酬ヲ支拂ヒタリト言フニアラスヤ稅關貨物取扱人トシテノ營業ヲ營ム目的ヲ以テ免許ヲ得而モ自ラハ之ヲ營業トセス唯此ノ名義ヲ他人ニ貸與シ利用シテ其ノ間多額ノ不當ノ利得ヲ貪ルカ如キ脫法的犯罪者ヲ生スルニ至リ其ノ弊害タルヤ甚大ナリ之等立法ノ精神ヨリ又之等ノ實情ヨリ論究スル場合ハ本件判示ノ事實ニ於テ被告責任カ深井増藏ノ名義ヲ借り之ヲ利用シテ稅關貨物取扱人ノ業務ヲ爲シタル行爲ニ對シテハ他ノ法規若ハ關稅法ノ他ノ規定ニ違反スル行爲ア

リトスルモ被告責任ハ關稅通脫ノ責任者トシテ罰スルハ法律ノ適用ヲ誤ルモノニシテ延テハ關稅法罰則規定ヲ死法徒律ニ歸セシムル事トナル可シ仍テ本件ニ關シテハ稅關貨物取扱人深井増藏ハヨシ本件犯行ニ關與セサリシトシテモ其ノ監督上一切ノ責任ヲ負擔セサル可ラサルト共ニ一面被告責任ハ事實本犯行ニ關與セル事實明白ナリト雖關稅法上ヨリ見テ其ノ責任ヲ負擔スヘキ性質ノモノニアラス宜シク本件ニ於ケル被告責任ノ行爲ハ其ノ計算關係カ免許營業者タル深井増藏ト獨立無關係ナリトシ名義人深井増藏ト被告責任ノ對内關係ニ於テ從屬的關係ノ有無ヲ問ハス對外的タル稅關ヨリ又法律ヨリ見タル責任ハ稅關貨物取扱人タル深井増藏ノ從業者ト看做シ關稅法第八十二條ノ二第二項ニヨリテ其ノ營業者タル深井増藏ヲ責任者タラシム可キモノナリ之ニ類スル處罰規定ハ彼ノ取引所法中ニモ屢々散見スル處ニシテ取引所員ノ從業者ノ範圍ハ最モ廣汎ニ之ヲ解釋セル判例ヲ見テモ如上ノ解釋ノ決シテ誤ニアラサルヲ信ス然ラハ本件被告責任ノ如キ行爲者ニ對シテハ何等法ハ之ヲ咎メサルヤノ反問アラシムモノニ對シテハ稅關貨物取扱人法第十二條ニ免許ヲ受ケスシテ稅關貨物取扱人ノ業務ヲ行ヒタルモノトシテノ制裁規定ニヨリテ之ヲ取締ル事ヲ得ルニアラスヤ如上ノ理由ニヨリ被告責任ノ本件犯行ヲ以テ關稅法第七十五條ニ問擬シタルハ關稅法ノ解釋ヲ誤リタル失當ノ判決ト云ハサル可カラスト云フニ在レトモ○稅關貨物取扱人タルノ免許ヲ受ケサル者カ其ノ免許ヲ有スル者ノ名義ヲ使用シ自己ノ計算ニ於テ輸入貨物取扱業ヲ經營シ其ノ業務ヲ執行スル際關稅ヲ通脫シタルトキハ其ノ行爲ハ關稅法第

## 【要旨】

七十五條ニ依リ處罰セラルヘキモノトス縱令其ノ名義ノ使用ニ付免許者ノ承認ヲ得タル場合ト雖名義使用者カ免許者ノ業務ニ關シ其ノ代理人雇人其ノ他ノ從業者トシテ關稅遺脱ノ行爲ヲ爲シタルトキニ非レハ關稅法第八十二條ノ二第二項ノ適用アルヘキモノニ非ス原判決及其ノ引用ニ係ル第一審判決ノ說示ニ依レハ被告人眞作ハ稅關貨物取扱人タルノ免許ヲ受ケサルニ拘ラス其ノ免許ヲ有スル深井増藏ヨリ同人名義ノ使用ニ付承認ヲ得自己ノ計算ニ於テ獨立シテ輸入貨物取扱業ヲ經營シ其ノ業務ニ從事中關稅ヲ遺脱シタルモノナレハ其ノ行爲ハ關稅法第七十五條ニ該當スルモノトス原判決カ此ノ趣旨ニ出テ同被告人ヲ處罰シタルハ正當ナリ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告理由及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事柴碩文關與

○強盜殺人強盜殺人未遂住居侵入被告事件(昭和四年六月三日第三八二二號棄刑)

〔上告人〕 被告人 生長 幸壽 辯護人 秋山 虎雄  
植田 完治  
〔第一審〕 大阪地方裁判所 〔第二審〕 大阪控訴院

○判示事項

強盜致死罪ノ成立

○判決要旨

強盜致死罪ノ成立ニハ犯人カ財物ヲ得ルコトヲ必要トセス

〔參照〕 刑法第二百四十條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス  
死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ死刑ニ處ス押收物件第四號(シカラップ)ヲ沒收ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ  
被告人ハ同意續シテ

(第一) 大正十五年十一月五日午前零時頃頃盜ノ目的ヲ以テ大阪市港區吾妻町二丁目三番地白米商砂尾岩一方ニ侵入シ同家奥ノ間ニ就寢シ居タル同人ノ妻ふじゑノ枕許ニ於テ金品ヲ搜索中同女カ眼ヲ

覺マシタル氣配アリタルヨリ同人等ノ爲ニ發見セラルルコトヲ虞レ寧ロ同人等ヲ殺害シテ金品ヲ強取セント決意シ直ニ其ノ場ニ於テ豫テ携ヘ來レルシカラツプ(押收物件第四號)ヲ以テ右ムじ及岩一ノ頭部ヲ順次ニ亂打シ兩人ノ昏倒スルヤ何レモ死亡シタルモノト思惟シ隣室ニ於テ岩一所有ノ現金約十圓ヲ強取シタルモ右兩名ハ何レモ數十日ノ治療ヲ要スル創傷ヲ被リタルニ止マリ殺害ノ目的ヲ遂ケス

(第二) 昭和二年七月六日午後十一時過頃竊盜ノ目的ヲ以テ同市同區泉尾濱通四丁目四十八番地山田松三郎方ニ侵入シ同人ノ寢所ニ於テ金品ヲ搜索セントシタル際松三郎ニ覺知セラレタリト思惟シ同人ヲ殺害シテ金品ノ強取ヲ遂ケント決意シ有合セノ木片ヲ振ツテ同人ノ頭部ニ亂撃ヲ加ヘ更ニ有合セノ布片ニテ同人ノ頸部ヲ締メ同人ヲシテ左顛頂部ノ打撲傷ニ因ル死ヲ遂ケシメタル上室内ヲ搜索シタルモ遂ニ金品ヲ發見スルニ至ラザリシモノナリ

法律ニ照ラスニ被告人ノ所爲中住居侵入ノ點ハ刑法第三百三十條第五十五條ニ判示第一ノ強盜殺人未遂ノ點ハ各同法第二百四十三條第二百四十條後段ニ判示第二ノ強盜殺人ノ點ハ第二百四十條後段ニ各該當スルトコロ右強盜殺人ト其ノ未遂トハ連續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ強盜殺人ノ一罪トシ之レト住居侵入トノ間ニハ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ重キ強盜殺人罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中死刑ヲ選擇シ押收物件中第四號(シカラツプ)ハ被告人カ判示第一ノ

強盜殺人未遂ノ犯行ノ用ニ供シタル物件ニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項第二號第二項ニ依リ之ヲ沒收シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

### ○理 由

辯護人秋田旭上告趣意書第一點原判決ハ法律ノ適用ヲ誤リタル違法アリ原審ハ其ノ判決ニ於テ判示第二事實ヲ「昭和二年七月六日午後十一時過頃竊盜ノ目的ヲ以テ同市同區泉尾濱通四丁目四十八番地山田松三郎方ニ侵入シ同人ノ寢所ニ於テ金品ヲ搜索セントシタル際松三郎ニ覺知セラレタリト思惟シ同人ヲ殺害シテ金品ノ強取ヲ遂ケント決意シ有合セノ木片ヲ振ツテ同人ノ頭部ニ亂撃ヲ加ヘ更ニ有合セノ布片ニテ同人ノ頸部ヲ締メ同人ヲシテ左顛頂部ノ打撲傷ニ因ル死ヲ遂ケシメタル上室内ヲ搜索シタルモ遂ニ金品ヲ發見スルニ至ラザリシモノナリ」ト認定シ之ニ對シ刑法第二百四十條ノミヲ適用シ「金品ヲ發見スルニ至ラザリシ」強盜未遂ニ對シ當然適用スヘキモノナル刑法第二百四十三條ヲ適用セサルハ違法ナル裁判ナリ論者或ハ曰ク強盜人ヲ殺シ財物ヲ盜ムニ至ラザリシ時モ亦刑法第二百四十三條ヲ適用スヘキモノニアラストサレト刑法第二百四十三條ニ於テ強盜人ヲ殺シタルモ財物ノ強取未遂ナル場合ヲ除外スルモノトセハ同法條ニ刑法第二百三十七條ヲ除外セル如ク之カ明文ヲ設ケサル以上本件ノ如ク強盜人ヲ殺シ財物強取ノ點カ未遂ニ終リタル場合モ亦刑法第二百四十條ノ未遂トシテ

【要旨】

刑法第二百四十三條ヲ適用スヘキモノニシテ之カ適用ヲ爲サザリシ原審判決ハ違法ナリト云フニ在レトモ○財物強取ノ手段トシテ人ヲ殺害シタルトキハ刑法第二百四十條後段ノ犯罪成立スルモノニシテ財物ヲ得タリヤ否ヤハ其ノ犯罪ノ構成ニ關係ナキモノトス蓋シ同條後段ハ強盜ノ要件タル暴行脅迫ヲ加フル行爲ニ因リ相手方ノ生命ヲ害スルコトアルヘキカ故ニ強盜故意ニ又ハ故意ナクシテ人ヲ死ニ致ス場合ヲ豫想シ之カ處罰規定ヲ設ケタルモノニシテ同條後段ノ罪ノ未遂タル場合ハ強盜故意ニ人ヲ死ニ致サントシテ遂ケサルトキニ於テ之ヲ認ムルヲ得ヘク財物ヲ得タルヤ否ヤハ同條ノ構成要件ニ屬セサルモノト解スルヲ相當トスレハナリ然ラハ原判決ハ被告人ノ判示第二ノ行爲ヲ刑法第二百四十條後段ニノミ間擬シタルハ正當ニシテ所論ノ如キ擬律ヲ誤リタル違法アルコトナシ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彦三郎關與

○再審請求事件(昭和四年(六)第五號棄却)

〔再審請求人〕 受刑者 古屋伸之助 委任代理人 辯護士 水田謙一  
 〔原 審〕 大審院

○判示事項

再審ノ請求ト委任代理

○決定要旨

有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ委任ニ因リ爲シタル再審ノ請求ハ不適法ナリ

〔參照〕 刑事訴訟法第四百九十二條 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスル再審ノ請求ハ左ニ掲クル者之ヲ爲スコトヲ得

- 一 管轄裁判所ノ檢事
  - 二 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者
  - 三 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ法定代理人、保佐人及夫
  - 四 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ状態ニ在ル場合ニ於テハ其ノ配偶者、家督相續人、直系ノ親族及兄弟姉妹
- 第四百八十五條第七號、第四百八十七條第二號又ハ第四百八十八條第二號ニ規定ス
- 再審ノ請求ト委任代理

ル原由ニ因ル再審ノ請求ニシテ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニスルモノハ有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ行爲罪ヲ犯スニ至ラシメタル場合ニ於テハ檢事ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百八十六條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ハ管轄裁判所ノ檢事之ヲ爲スコトヲ得第四百八十七條又ハ第四百八十八條ノ規定ニ依ル再審ノ請求ニシテ第一項ノ規定ニ該當セサルモノニ付亦同シ

同法第五百四條 再審ノ請求法律上ノ方式ニ違反シ又ハ請求權消滅後ニ爲シタルモノナルトキハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

○事實

古屋仲之助ニ對スル當院昭和三年(れ)第七八號詐欺私文書偽造行使公正證書原本不實記載行使被告事件ニ付當院カ事實審理ノ上昭和四年三月九日言渡シタル有罪ノ確定判決ニ對シ仲之助ハ自己ノ利益ノ爲再審ノ請求ヲ爲スコトヲ辯護士水田謙一ニ委任シ謙一ヨリ仲之助ノ代理人トシテ當院ニ再審ノ請求ヲ爲シタルニ付當院ハ檢事三橋市太郎ノ意見ヲ聽キ左記ノ理由ニ依リ請求棄却ノ決定ヲ爲シタリ

○理由

刑事訴訟ニ於テハ特ニ認メタル場合ノ外代理ヲ許サス而シテ再審ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル者ハ刑事訴訟法第四百九十二條ニ列記セル者ノ一ニ該當スルコトヲ要シ而モ委任代理ヲ許シタル規定ナシ然ラハ右仲之助ハ同條ニ所謂有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ該當スルモ本件再審ノ請求ハ仲之助自身之ヲ爲シタル

ルモノニ非スシテ其ノ委任代理人水田謙一ヨリ爲シタルモノナルコト明ナルカ故ニ不適法タルヲ免レ  
ス仍テ刑事訴訟法第五百四條前段ニ則リ主文ノ如ク決定ス

○殺人竊盜被告事件

(昭和四年(九)第二六六號 破毀自判)  
同年五月三日第一刑事部判決

〔上告人〕 被告人 繩井 義一 辯護人 秦 良一  
〔第一審〕 廣島地方裁判所 森保 祐昌

○判示事項

陪審員ノ心得ノ諭告——諭告ノ範圍——陪審法第七十三條ト證人ノ召喚シ難キ場合——證據ノ要領ノ說示ト其ノ範圍——陪審法第八十二條第二項ト公判ニ於テ示シタル證據書類

○判決要旨

一 陪審員ノ心得ノ諭告ハ檢事被告事件陳述ノ前ニ於テスル當初ノ一回ニ限ルコトナク裁判長ニ於テ必要ト認ムルニ於テハ說示ノ

陪審員ノ心得ノ諭告ノ範圍 陪審法第七十三條ト證人ノ召喚シ難キ場合  
證據ノ要領ノ說示ト其ノ範圍 陪審法第八十二條第二項ト公判ニ於テ示シタル  
證據書類

前後ヲ問ハス時宜ニ從ヒ之ヲ繰返スヲ妨ケス【要旨第一】

二陪審員力評議答申ヲ爲スニ付必要ナル一般經驗上竝訴訟法上ノ心得ノ如キハ論告ノ範圍内ニ屬スルモノトス【要旨第二】

三證人ニ對シ召喚狀ヲ發シタルモ旅行不在ノ爲召喚スルコト能ハサル場合ハ陪審法第七十三條第一號ノ疾病以外ノ事由ニ因リ召喚シ難キモノニ該當ス【要旨第三】

四陪審法第七十七條ニ依リ證據ノ要領ヲ說示スルニハ公判ニ於テ證據調ヲ經タル證據ノ全體ヲ一團トシテ其ノ要領ヲ說示スルヲ以テ足り各證據ニ付前ニ證據調ノ際爲シタルト同様ニ要旨ヲ告ケ又ハ之ヲ示スノ要ナク箇々ノ證據ノ中或モノハ全然之ヲ說示セサルモノアリトスルモ說示ノ違法無效ヲ來タスコトナシ【要旨第四】

五陪審法第八十二條第二項ノ公判ニ於テ示シタル證據物及證據書類トハ公判廷ニ於テ證據調ヲ爲シタル證據物及證據書類ヲ意味スルモノニ外ナラス【要旨第五】

參照) 陪審法第六十九條第一項 裁判長ハ檢事ノ被告事件陳述前陪審員ニ對シ陪審員ノ心得ヲ論告シ之ヲシテ宣誓ヲ爲サシムヘシ

同法第七十三條 裁判所豫審判事受命判事受託判事其ノ他法令ニ依リ特別ニ裁判權ヲ有スル官署檢事司法警察官又ハ訴訟上ノ共助ヲ爲ス外國ノ官署ノ作リタル訊問調査及之ヲ補充スル書類圖畫ハ左ノ場合ニ限リ之ヲ證據ト爲スコトヲ得  
一 共同被告人若ハ證人死亡シタルトキ又ハ疾病其ノ他ノ事由ニ依リ之ヲ召喚シ難キトキ

同法第七十七條 前條ノ辯論終結後裁判長ハ陪審ニ對シ犯罪ノ構成ニ關シ法律上ノ論點及問題ト爲ルヘキ事實證據ノ要領ヲ說示シ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ評議ノ結果ヲ答申スヘキ旨ヲ命ズヘシ但シ證據ノ信否及罪責ノ有無ニ關シ意見ヲ表示スルコトヲ得ス  
同法第八十二條 裁判長ハ評議ヲ爲サシムル爲陪審員ヲシテ評議室ニ退カシムヘシ  
裁判長ハ公判廷ニ於テ示シタル證據物及證據書類ヲ陪審ニ交付スルコトヲ得

### ○事實

第一審裁判所ハ本件ヲ陪審ノ評議ニ付シ左記ノ如ク事實ノ判斷及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役八年ニ處シ訴訟費用中陪審費用ノ三分ノ一及豫審竝公判ニ於テ證人ニ支給シタル分ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ十二三年前ニ妻帯シタル事アルモ禿頭ナル爲妻ニ嫌ハレ離別ト爲リ爾來獨身生活ヲ續ケ來

陪審員ノ心得ノ論告 論告ノ範圍 陪審法第七十三條ト證人ノ召喚シ難キ場合  
證據ノ要領ノ說示ト其ノ範圍 陪審法第八十二條第二項ト公判ニ於テ示シタル證據書類



リタル處昭和三年五月十三日頃廣島市廣瀬町山本マサ方向居仲居業岡本ハマヨト情交ヲ結ヒ其後同人ニ對シ金品ヲ贈與シテ關係ヲ持續シ居ル中ハマヨハ他ニ情夫ヲ持チ被告人ヲ嫌惡スルニ至リ被告人ヨリ金品ヲ受ケナカラ情交ノ要求ニ應セス被告人ハ悶々ノ情ニ堪ヘサル折柄同年八月五日深更ハマヨノ稼業先タル同市鷹匠町佐伯飲食店ニ到リ戶外ヨリ窺ヒタルニハマヨハ他ノ男ト酒間ニ嘻々セルノミナラス情交ヲ爲セルカ如キ狀況ナルヨリ被告人ハ嫉妬憤激ノ極ハマヨヲ殺害セント決意シ翌八月六日午前零時過頃同市鍛冶屋町金物商高砂武士之助方店頭ヨリ同人所有ノ匕首一本(價格七圓)ヲ竊盜シ之ヲ携ヘテ前記佐伯飲食店ニ立歸リタル處ハマヨハ既ニ同家ヲ立出テ居ルヨリ其後ヲ追ヒ同六日午前一時過頃同市廣瀬町廣瀬神社鳥居前ノ路上ニ於テ右匕首ヲ以テ同人ノ背部ヲ突刺シ右肺ニ貫通セル刺傷一箇ヲ加ヘ同人ヲシテ之ニ基因スル内出血ノ爲即死セシメ所期ノ目的ヲ遂ケタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲中竊盜ノ點ハ刑法第二百三十五條ニ殺人ノ點ハ同法第九十九條ニ各該當スルトコロ以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ殺人罪ニ付有期懲役刑ヲ選擇シ同法第四十七條第十條ヲ適用シ重キ殺人罪ノ刑ニ同法第十四條ノ制限内ニ於テ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ懲役八年ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條陪審法第六條第七條ニヨリ其ノ負擔ヲ定ムヘキモノトス

第一審公判調書ニハ法廷ヲ公開シタル上裁判長ハ陪審員一同ニ對シ陪審ノ心得ヲ諭告シ宣誓ヲ爲サシ

メタルコトヲ揭ケ又事實及證據ノ取調ヲ了リテ檢事辯護人ノ辯論ヲ聽キ被告人ニ最終ノ陳述ヲ爲サシメタル後裁判長ハ陪審員一同ニ對シ左ノ通り陪審員ノ心得ヲ諭告シタルコトヲ記載ス

裁判長ハ陪審員一同ニ對シ左ノ通り陪審員ノ心得ヲ諭告シタリ昨日辯護人ノ辯論中疑ハシキハ輕キニ從フト云フコトハ刑事訴訟法ノ大原則ナリト辯論アリタルカ左様ナ諺ハアレトモ刑事訴訟法ニハ斯カル規定ハ存在セス此ノ諺ハ公平ニ判斷シ罪アルモノハ罰シ罪ナキモノハ罰スヘカラスト云フ趣旨ニ解スヘキモノニシテ事件ヲ判斷スルコトカ困難ナルモノハ罪アルモノモ罪ナキモノトシテ罰スヘカラスト云フ趣旨ニアラス困難ナル事件ト雖冷靜ニ公平ニ其ノ事實ノ真相ヲ捉ヘテ審判スルノカ裁判ノ本旨ニシテ陪審員各位ハ此ノ裁判ノ基本トナルヘキ事實ノ判斷ヲ爲スヘキ職責ヲ有スルモノナレハ最モ冷靜ニ公平ニ事實ノ真相ヲ判斷スヘキモノナリ又百人ノ罪アルモノヲ遁カシテモ一人ノ罪ナキモノヲ罰スヘカラストノ辯論アリタルモ這ハ罪ナキモノヲ罰スヘカラストノ比喩ニシテ事件カ複雑ニシテ判斷スルコトカ困難ナルモノハ遁カシテ罪ナキモノトスヘシト云フ趣旨ニアラス更ニ又此ノ事件ニ付警察官カ被告人ニ虛偽ノ自白ヲ強要シタルカ如ク他地方ノ警察官ノ不當ノ處置アリタルコトヲ引用シタル辯論アリタルモ或ル警察官カ不當ノ處置ヲ爲シタリトスルモ何人モ不當ノ處置ヲ爲スモノト斷定スルコトヲ得サルハ勿論ナルヲ以テ其ノ人其ノ人ニ付判斷スヘキモノニシテ當法廷ニ現ハレタル證據ノミニ基キ判斷スヘキモノナリ故ニ本件ニ關係ナキ事實ヲ捉ヘテ本件ノ判斷ヲ爲スカ如キコトハ其

陪審員ノ心得ノ諭告ノ範圍 陪審法第七十三條ト證人ノ召喚シ難キ場合  
證據ノ要領ノ説示ト其ノ範圍 陪審法第八十二條第二項ト公判ニ於テ示シタル  
證據書類

ノ當ヲ得サルモノナリ次ニ本件ニ付岡本ハマヨカ殺害セラレタル際最初或ル人ヲ強姦殺人犯人トシテ  
檢舉シタル處見込違ナリシニ付本件モ亦見込違ニハアラサルカトノ趣旨ノ辯論アリタルカ吾人ノ日常  
ノ經驗ニ徴シ物ヲ捜カス場合最初捜カシタル箇所ニナク後ニ捜シタル箇所ニアルコトハ經驗スル所ニ  
シテ此ノ場合最初捜シタル箇所ニナカリシコトカ思違ナリシ爲後ニ捜カシタル箇所ニアリタルコトカ  
間違トハ云フ事ヲ得サルモノナリ本件事案ノ當否ハ此ノ法廷ニ現ハレタル證據ノミニ基キ冷靜ニ公平  
ニ且慎重ニ判斷セラレ其ノ職務ヲ盡サレンコトヲ希望ス

證人佐伯トメニ對シ昭和三年十一月二十七日午前十一時ヲ期日(陪審事件第一回公判期日)トスル召  
喚狀ノ送達證書ニハ本人ハ十日程以前ヨリ京都地方ニ旅行不在ニ付送達不能(全戸不在)トノ記載ア  
リ

第一審公判調書ニ依レハ證人三好方時ハ廣島縣巡査部長ニシテ第一回公判期日ニ出頭シ被告人及藤高  
サイニ對スル聽取書ヲ作成シ又本件ノ意見書ヲ作成シタルコト竝之ニ關連スル事實ニ付公判廷ニテ供  
述ヲ爲シタルモノナリ

第一審公判調書ニハ裁判長ノ陪審長互選及評議答申方法ニ付注意ヲ與ヘ評議室ニ退キ慎重審議シ公平  
ニ評議シ答申スヘキ旨ヲ命シ問書及記録中ノ被告人ニ對スル第一二回豫審調書證人藤高サイニ對スル  
豫審調書鑑定人荻藤中節同香川卓二ノ各鑑定書及附屬圖(中略)竝證據物件中ノ證第一、七、八、

十、十七、十九號ヲ交付シタルコトノ記載アリ

○理 由

辯護人秦良一上告趣意書第一點裁判長ハ說示ヲ爲スニ當リ辯護人ノ辯論ニ對シ四點ニ互リテ反駁的意  
見ヲ述ヘタルハ其ノ說示不法不當ナルモノト信ス即第一辯護人ノ辯論中「凡ソ人ノ罪ヲ定メルニハ證  
據ニ依ラネハナラヌ證據トハ當公判廷ニ於ケル證人ノ申シタルコト裁判所カ御採用ニナツタ豫審判事  
ノ調ヲ書イタモノ其ノ他テアル假令之ハ斯フタト思ツテモ證據カナケレハ罪ヲ定メルコトハ出來ナイ  
ノテアル其ノ證據中ニハ信スルニ足ルト云フモノモアレハ半信半疑ヲ起スモノモアル即殺シタノタラ  
ウトカ又ハ或ハ殺シタノカモ知レヌト云フ處マテハ考ヘラレルカ今一步進ンテ事實ハ斯々々間違ナイ  
ト云フ所マテニハ今少シ距離カアルト云フモノモアル一寸茲テ申上ケテ置クカ斯フ云フ風ニ半信半疑  
ノ場合ニハ殺サヌト定メナケレハナラヌ疑ハシキハ被告ノ利益ニ釋ルト云フコトハ刑事訴訟法即人ノ  
罪ヲ定メル時ノ大原則テアル兎ニ角色々ノ證據中ニハ信スルニ足ルモノト左様テナイモノトカアル  
夫ヲ如何オ採リニナルカハ陪審員諸君ノ自由テアル(中略)茲ニ於テカ陪審員諸君ノ常識カ役立ツノ  
テアツテ證據ニ依ツテ殺サヌト云フ方ヲオ採リニナルカ又ハ殺シタト云フ方ヲオ採リニナルカ此ノ點  
カ諸君ノ公正ナル常識ヲ以テ判斷セラルル點テアツテ其ノ外ニ諸君カ頭ヲ痛メラルルコトハナイノテ  
アル」尤モ之ヲ一件記録ニ就テ見レハ「秦辯護人ハ疑ハシキハ輕キニ從フト云フコトハ刑事訴訟法ノ

陪審員ノ心得ノ論告 論告ノ範圍 陪審法第七十三條ト證人ノ召喚シ難キ場合  
證據ノ要領ノ說示ト其ノ範圍 陪審法第八十二條第二項ト公判ニ於テ示シタル  
證據書類

大原則ニシテ是ハ確信ニ從フテ事件ヲ判斷スヘキコトヲ意味スルモノニシテ證據ニ依ツテ事件ヲ判斷スル場合ニ有罪ナリト確信スル場合ト無罪ト確信スル場合ト半信半疑ノ場合トアリテ有罪ナリト確信スル場合ニ限り有罪ノ判斷スヘキモノニシテ無罪ナリト確信スル場合ハ勿論半信半疑ノ場合ハ輕キニ從ヒ無罪ト爲スヘキモノナリトアルニ對シ裁判長ハ「昨日辯護人ノ辯論中疑ハシキハ輕キニ從フト云フコトハ刑事訴訟法ノ大原則ナリト辯論アリタルカ左様ナ諺ハアレトモ刑事訴訟法ニハ斯ル規定ハ存在セス此ノ諺ハ公平ニ判斷シ罪アルモノハ罰シ罪ナキモノハ罰スヘカラスト云フ趣旨ニ解スヘキモノニシテ事件ノ判斷スルコトカ困難ナルモノハ罪アルモノモ罪ナキモノトシテ罰スヘカラスト云フ趣旨ニアラス困難ナル事件ト雖冷靜ニ公平ニ其ノ事實ノ真相ヲ捉ヘテ審判スルノカ裁判ノ本旨ニシテ陪審員各位ハ此ノ裁判ノ基本トナルヘキ事實ノ判斷ヲ爲スヘキ職責ヲ有スルモノナレハ最モ冷靜ニ公平ニ事實ノ真相ヲ判斷スヘキモノナリト」ト説示セリ而シテ此ノ裁判長ノ説示ハ却テ辯論ノ内容ヲ不當不法ナルモノニ改惡セルモノニシテ陪審員ノ公正ナル判斷ヲ惑ハスモ亦甚シキモノナリ即(一)諺トハ何ソヤ其ノ意味不明ナリ(二)罪アルモノハ罰シ罪ナキモノハ罰スヘカラスト云フコトハ單ナル諺ト見ルヘキモノニアラス(三)何人モ「事件ノ判斷スルコトカ困難ナルモノハ罪アルモノモ罪ナキモノトシテ罰スヘカラスト云フ趣旨ノ辯論ヲ爲セルモノナシ(四)其ノ直後「困難ナル事件ト雖云々」ト其ノ前ノ「困難ナルモノハ罪アルモノモ罪ナキモノトシテ罰スヘカラスト」ト云ヘルコトト併セ者フ

レハ裁判長ノ謂フ冷靜ニ公平ニ捉フヘキ事實ノ真相トハ有罪トシテソレナルコトヲ示セル疑ヲ起サシムルコト充分ニシテ不法ナリ然ラサレハ裁判長ノ此ノ説示ハ意味ヲ爲サス第二辯護人ノ辯論中其ノ結論トシテ「吳々モ證據ノ中ニ或ハ殺シタカモ知レヌトカ又ハ殺シタノタラウ位ナ半信半疑ヲ起サセルモノカアツタナラハソソナ半信半疑テ人ノ罪ヲ定メルコトハ不可ナイノテアルソソナ半信半疑ハ綺麗サツバリト水ニ流サナケレハナラス百人ノ罪人ヲ遁ストモ一人ノ冤罪ヲ罰スヘカラスト之カ陪審法ヲ制定セラレタ大精神テアル(中略)諸君ハ此ノ陪審法ニ依ツテ被告人カ殺シタカ如何カヲ決定メニナルノテアルカラ最モ冷靜ニ判斷シテ貫ヒタイ」尤モ之ヲ一件記録ニ就テ見レハ「要之本件ハ疑ハシキ事件ニシテ疑ハシキハ輕キニ從フト云フコトハ刑事訴訟法ノ大原則ニシテ又百人ノ罪アルモノヲ遁ストモ一人ノ罪ナキモノヲ罰スヘカラスト云フ事モアルニ付本件ハ被告人ノ利益ニ解釋スヘキ案件ナル旨辯論シタリ」トアルニ對シ裁判長ハ「又百人ノ罪アルモノヲ遁カシテ一人ノ罪ナキモノヲ罰スヘカラストノ辯論アリタルモ這ハ罪ナキモノヲ罰スヘカラストノ比喩ニシテ事件カ複雑ニシテ判斷スルコトカ困難ナルモノハ遁シテ罪ナキモノトスヘシト云フ趣旨ニアラス」ト説示セリ是レ實ニ辯護人ノ辯論ヲ曲解セルモ甚シキモノニシテ辯護人ハ事件カ複雑ニシテ判斷スルコトカ困難ナルモノハ遁スヘシト論シタルニアラス(中略)個所ハ陪審法制定理由ヲ述ヘタルモノナリ)斯ク裁判長ハ殊更ニ諺トカ比喩トカノ言語ヲ用ヒテ辯護人ノ辯論ノ趣旨ヲ改惡セルモノニシテ之畢竟スルニ有罪意見ヲ持シテ辯

陪審員ノ心得ノ論告 諭告ノ範圍 陪審法第七十三條ト證人ノ召喚シ難キ場合  
證據ノ要領ノ説示ト其ノ範圍 陪審法第八十二條第二項ト公判ニ於テ示シタル  
證據書類

論ヲ反駁シタルニ外ナラス蓋本件ハ有罪意見ヲ以テ見サレハ別ニ困難ナル事案ニアラス第三辯護人ノ辯論中「豫審ノ自白カ真意カラ出タモノテアルカ如何カヲ考ヘル前ニ夫ト密接ナ關係カアル廣島西警察署カヤッタコトヲ見ル必要カアル其ノ前ニ考ヘテ見タイコトハ吾々國民ハヨク人權蹂躪問題ヲ耳ニスル警察カ被告人ト睨ンタ者ノ自白ヲ強要スル爲ニ拷問ヲスルト云フコトヲ聞クカ一體ソシテ事カアルタラウカ今例ヲ二ツ擧ケテ見タイ一ツハ和歌山市ニ於テ辯護士ヲ殺傷シタト云フ事件テアル如何シテ辯護士カソシテ酷イ目ニ逢ツタノテアルカト云ヘハ和歌山警察署司法主任ノ木滑警部カ岩橋ト云フ裁判所書記ヲ拷問シタノテ人權蹂躪問題カ起ツタカラテアル今一ツ此ノ人權蹂躪問題ニ付テ裁判所ハ如何云フ風ニ見テ居ラルルカト云フト福島縣ニ五人殺カアツタ福島地方裁判所テハ死刑ヲ言渡サレタニ拘ラス宮城控訴院テハ今年七月十六日ニ無罪ヲ言渡シタノテアル其ノ判決書ヲ見ルト其ノ中ニ斯ウ云フコトカ書イテアル「近時犯罪捜査ニ從事スル警察吏等カ往々功ヲ擧クルニ急ニシテ被疑者ニ對シ自白ヲ強要スルカ如キ非難ヲ聞ルサルニ非サルヲ以テ」云々トアツタ今本件ニ付テ見ルニ被告人カアノ様ニ眞ニ逼ツテ云ツテ居ルコトハ嘘テアラウカ被告人カ警察ヘ引カレタ日カラ丁度六日目ノ九月十一日ノ夜明方ニ一寸體ヲ動かシタ何故身體ヲ動かスカト怒鳴ラレ「ハイ濟ミマセヌ」ト云フト「サウタラウ濟マナカッタテアラウ早クサウ云フテ了ヘハ胸カスツトスルデアラウ」ト云フ様ナコトカ自白スルニ至ツタ端緒トナツテ居ルト申シテ居ルコトハ被告人ノ作リ事テアラウカ被告人ノ云フコトヲ

聞イテ居ルト實ニ眞ニ逼ツテ警察ノ不法ヲ怒リタイ様ナ氣分カ満々シテ來ルノハ私獨リテアラウカ私カ警察カ被告人ニ無理ヤリニ白狀サセタモノラアルト斷言スルノテアル是カラ其ノ理由ヲ述ヘテ見タイ」尤モ一件記録ニ依レハ「而シテ過般和歌山縣下ニ警察官ノ人權蹂躪問題ノ起リタルアリ又福島ニ於ケル五人殺犯人カ無罪ニナリタル事件モアリテ近時警察官カ犯罪捜査ヲ爲スニ際シ被疑者ニ自白ヲ強要スルコトハ實例ニ乏シカラサルコトニシテ本件ハ被告人カ警察署ニ於テ五日モ連續シテ取調ヲ受ケ漸ク自白ヲ爲シタルモノナレハ其ノ自白ハ強要セラレタル虛偽ノ自白ニシテ信ヲ措クニ足ルヘキモノニアラス」トアルニ對シ裁判長ハ「更ニ又此ノ事件ニ付警察官カ被告人ニ虛偽ノ自白ヲ強要シタルカ如ク他地方ノ警察官ノ不當ノ處置アリタルコトヲ引用シタル辯論アリタルモ或警察官カ不當ノ處置ヲ爲シタリトスルモ何人モ不當ノ處置ヲ爲スモノト斷定スルコトヲ得サルハ勿論ナルヲ以テ其ノ人其ノ人ニ付判斷スヘキモノニシテ當法廷ニ現ハレタル證據ノミニ基キ判斷スヘキモノナリ故ニ本件ニ關係ナキ事實ヲ捉ヘテ本件ノ判斷ヲ爲スカ如キハ其ノ當ヲ得サルモノナリ」ト説示セリ之辯護人ノ引例ヲ攻撃セル趣意ナランモ其ノ不當ナルコト尙後述スヘシ第四辯護人ノ辯論中「第三ニ述ヘタル辯論トシテ」先ツ警察ハ岡本ハマヨカ殺ヲレタ報ニ接スルヤ其ノ時ハマヨト同行者テアツタ藤高サイヲ其ノ日ニ取調ヘタ所同人ノ申ス所ニ依リ犯人ハ丈ノ高イ白イ浴衣テ六方袖ト思ハレルヤウナモノヲ着タ年齢三十歳位ニ見エル男シカモ大イ男ト目星ヲ附ケタノテアルソレカラ捜査方針ヲ第一痴情關係第

陪審員ノ心得ノ論告 諭告ノ範圍 陪審法第七十三條ト成人ノ召喚シ難キ場合 證據領ノ要ノ取示ト其ノ範圍 陪審法第八十二條第二項ト公判ニ於テ示シタル 證據書類

二藤高サイト間違へタルモノ第三強盜強姦ノ所爲トシ其ノ日ニ被告人ハ痴情關係ノ分ヲ疑ハレ警察ヘ連レテ行カレ其ノ留守中家宅捜査マテセラレタノテアルカ何等怪マレルホトノモノカナイノテ其ノ日ノ中ニ歸宅ヲ許サレタノテアル其ノ日ニハ被告人ノタメニ昨日當法廷ニ出タ證人ハ殆ト全部調ヘラレタノテアル警察ハ第一第二ニ付テ何等ノ手掛リカナイノテ第三ノ捜査方針ヲ採リソレコソ不眠不休ノ有様テ遂ニ前科二犯アル天野政雄ト云フ者ヲ捕縛シタノテアル今裁判長カ持ツテ居ラルル記録ノ前ノ方ハ皆此ノ天野政雄ニ關スルモノテアル斯クテ確證ヲ握ツタノテ檢事局ヘ廻シタ所カ檢事局テハ飽クマテモ痴情關係ナリトシテ不起訴トセラレタコトハ先程檢事カ詳シクオ述ヘニナツタ通りテアルソコテ本件ハ天野政雄テナイトスレハ殆ト手ノ附ケヤウカナイ程五里霧中ノモノトナツタノテアル當時西警察署テハ色々ノ問題カアリ管轄内ニ強盜カ潜伏シテ居ルト云フ疑カアルカ未タ縛ニ付カヌ人心恟々タルモノカアリ又公務中ノ巡査カ龍紋製氷會社ノ自働車ヲ弄ンテ電車ヘ衝突セシメタト云フノテ世間ヲ騒カセタノモ此ノ頃テアル一方本件殺人事件ハ一ケ月ニモナルカ何等ノ手掛リカナイト云フ有様テアツタ其處テ如何云フ方針ヲ定メタノカ知ラナイカ九月六日ノ正午被告人カ一生懸命ニ商賣ヲシテ居ル時ニ再ヒ警察ヘ連レテ歸ツタノテアル此ノ點ハ昨日ノ證人八木繁造ノ申ス所ニ依テ明テアル茲テ一寸陪審員諸君ニ申上ケテ置キタイコトハ豫審ニ於テハ或事件ヲ取調ヘタ被告人ニ對シテ證據不十分テ免訴シタモノハ新タナ事實カ又ハ新ラシイ證據ヲ發見シタ場合テナケレハ再ヒ調ヘルコトハ出來ナイ

コトニナツテ居ル之ハ警察テモ檢事局テモ同シ精神テアルソコテ警察ニハトシテ新ラシイ手掛リカアツテ再ヒ被告人ヲ連レ歸ツタノテアルカ連レテ行クニ付テハ新ラシイ證據テモ見付ケタノカト云ヘハ何物モナイノテアルソレテハ何故ニ連レテ歸ツタノテアルカ若モ警察ニ於テ被告人ヲ無理ヤリニ白狀サセヨウトスル積リテナカツタナラハ誠ニ無意味ナ連レ歸リヤウテアル併シ乍ラ無意味ニ連レ歸ツタト云フノテハ假令被告人ヲ白狀サセテモ面白クナイノテソコテ意味ヲ付ケタノハ泥醉徘徊シタ事實ニ依テ内務省令警察犯處罰令ニ該當シタカラ拘留六日ニ處シ取調ヘタ所カ遂ニ五日目ニ白狀ヲシタト云フコトニシタノテアル尤モ一件記録ニ就テ見レハ「本件ハ記録ニ依レハ最初警察署ハ岡本ハマヨヲ殺害シタル犯人ハ同人ノ痴情關係カ藤高サイノ痴情關係カ又ハ強盜殺人ノ所爲ナルカトシテ其ノ方面ノ捜査ニ着手シ幾多ノ人ヲ取調ヘタルモ得ル處ナク又天野某ヲ強盜殺人犯人ノ被疑者トシテ取調ヘタルモ之亦犯罪ノ嫌疑ナカリシ爲困リ居リタルモノト思フ而シテ被告人ハハマヨカ殺害セラレタル西警察署ニ於テ取調ヲ受ケタルモ何等嫌疑ナカリシヲ以テ即日歸宅ヲ許サレタルモノナル處其ノ後九月六日何等ノ手掛リナキニ拘ラス被告人ヲ泥醉者トシテ拘留處分ニ付シ置キ五日間モ被告人ヲ取調ヘタル結果漸ク自白ヲ爲シタルモノニシテ曩ノ天野某ヲ強盜殺人犯人ト目シタルカ見込違ヒナリシニ付被告人ヲ殺人犯人トシタル事モ亦見込違ヒニアラサルカト思ハルナリ」トアルニ對シ裁判長ハ「次ニ本件ニ付岡本ハマヨカ殺害セラレタル際最初或人ヲ強盜殺人犯人トシテ檢舉シタル處見込違ヒナリシニ付本

陪審員ノ心得ノ論告 諭告ノ範圍 陪審法第七十三條ト證人ノ召喚シ難キ場合  
證據ノ要領ノ説示ト其ノ範圍 陪審法第八十二條第二項ト公判ニ於テ示シタル  
證據書類

件モ亦見込違ヒニハアラサルカトノ趣旨ノ辯論アリタルカ吾人ノ日常ノ經驗ニ徴シ物ヲ捜ス場合最初  
 捜シタル箇所ニナク後ニ捜シタル箇所ニアルコトハ經驗スル所ニシテ此ノ場合ハ最初捜シタル箇所ニ  
 ナカリシコトカ思違ヒナリシ爲後ニ捜シタル箇所ニアリタルコトカ間違ヒトハ云フ事ヲ得サルモノナ  
 リ本件事案ノ當否ハ此ノ法廷ニ現ハレタル證據ノミニ基キ冷靜ニ公平ニ且慎重ニ判斷セラレ其ノ職務  
 ヲ盡サレンコトヲ希望スルト説示セリ茲ニ至リテハ裁判長ハ檢事ニ代リテ辯論ヲ曲解シツツ之ヲ反駁  
 シタルモノナリ而シテ其ノ後本件事案ノ當否トシテ此ノ所ニ問題トナレル事柄ニ就テハ何等ノ説示ヲ  
 爲サス以上ハ極メテ不法不當ナル説示ニシテ辯護人ノ辯論ノ效果ヲ減殺スルモ亦甚シキモノナリ然ル  
 ニ記録ニ依レハ裁判長ノ以上ノ説示ハ説示ニアラスシテ諭告トシテ爲シタル如ク記載シアルモ斷シテ  
 諭告ニアラス裁判長ハ最終ノ被告人ノ供述終リタル後ニ於テ如上ノ説示ヲ爲シタルモノニシテ之ヲ眞  
 實ナリト肯定シ得ヘキ理由ハ(一)諭告ト説示トハ其ノ性質ニ差異アリテ其ノ混同ヲ許サス而シテ如  
 上ノ事項ヲ内容トスルモノハ一般的抽象的内容ヲ以テスル諭告ノ性質ニ反スルコト(二)説示ヲ爲ス  
 時機ニ於テ之ヲ爲セルコト(三)説示前ニ於テ諭告ヲ爲ス規定ナク又ソレハ許サレサルコト(四)其  
 ノ後ノ説示ト間斷ナク連續シタルコト(五)辯論ノ内容殊ニ如上ノ第三第四ノ事項ハ本件ニ於テ最重  
 大ナル争點トナルヘキモノ即本件起訴事實ハ公判廷ニ於テ被告ノ極力否認スル自白ニ基クモノニシテ  
 其ノ自白ノ眞否ニ關スル事項ナルヲ以テ被告人ノ供述ト相俟テ證人三好方時同八木繁造ノ供述ニ依リ

説示事項ニ屬スルコト(六)辯論ノ内容ニ於テ不當ナルモノアリテ陪審員ノ心得ヲ諭告スルニアラサ  
 レハ不公平ナル判斷ヲナスカ如キ虞ナキコト即之ナリ而シテ陪審法ニ於テ不法不當ナル説示ヲ上告理  
 由ト爲シタルハ説示カ陪審員ノ評決ニ及ホス影響甚大ナルカタメナリ從テ説示ヲ爲ス時期ニ於テ唯形  
 式上諭告ナル言語ヲ用フレハ其ノ内容如何ニ拘ラス説示ニアラストセハ之陪審員ニ對スル實質的影響  
 如何ヲ顧慮セサル論ナリ裁判長ノ述ヘタルコトヲ陪審員ノ方面ヨリ見テ單ナル陪審員ノ心得トシテ受  
 容セラルヘキ事項ナルカ又ハ事件ノ説明殊ニ辯論ノ反駁若ハ矯正トシテ受容セラルヘキカヲ決定シ若  
 モ後者ナリトセハ説示ノ時機ニ於テ之ヲ爲セル以上假令記録ニハ諭告トアリ而シテ公正ナル判斷又ハ  
 冷靜ナル判斷等ノ言語カ繰返シ記載シアルモ其ノ實質ニ於テ説示ト見ルヘキモノニシテ本件ノ場合ハ  
 後者ナルコト前述ニ依リテ明ナリ之裁判長ハ説示スルニ當リ辯護人ノ辯論ニ對シ反駁的意見ヲ述ヘタ  
 ルモノニシテ不法ナリト信スル所以ナリ若夫レ裁判長ニ於テ之ハ説示ニアラスシテ飽クマテモ諭告ト  
 シテ爲シタルモノナリトスレハ之説示ヲ爲ス時機ニ於テモ斯ル諭告ヲ爲スコトハ適法ナルモ説示トシ  
 テハ違法ナルコトヲ自認セルモノナリ果シテ然ラハ説示トシテ違法ナルモノヲ諭告トシテハ適法ナリ  
 ト認ムルコトヲ得ルヤ斷シテ然ラス蓋説示ヲ爲ス時機到來セルニ當リ説示トシテ適法ナレハ何ヲ苦ン  
 テカ規定ナキ諭告トスル必要アランヤ而シテ説示トシテ違法ナレハ諭告トシテハ一層違法ナル理由ア  
 リ從テ裁判長ハ飽クマテモ諭告ナリト主張スレハ諭告ノ性質ヲ誤解シタルカ又ハ上告理由トナラサル

陪審員ノ心得ノ諭告 諭告ノ範圍 陪審法第七十三條ト證人ノ召喚シ難キ場合  
 陪審員ノ要領ノ説示ト其ノ範圍 陪審法第八十二條第二項ト公判ニ於テ示レムル  
 證據書類

樣論告ヲ脱法的ニ亂用シタルモノナリ若斯ル裁判長ノ行爲ヲ許サルニ於テハ裁判長ハ論告ニ名ヲ藉  
 リテ事件ニ關シ意見ヲ述フル機會ヲ得而シテ之ヲ上告理由ト爲スコトヲ得サル虞アリ之法ノ許ササル  
 所ナリ要之原審ニ於ケル裁判長ハ不法不當ナル說示ヲ爲シタルモノ然ラサレハ說示ノ時機ニ於テ不法  
 不當ナル論告ヲ爲シタルモノニシテ此ノ論告ハ原判決ニ影響ヲ及ホシタルコト多大ナリ其ノ何レヲ問  
 ハス原判決ハ破毀スヘキモノナリト云フニ在リ○仍テ按スルニ我國ノ陪審制度ハ範ヲ歐米ニ於ケル所  
 謂陪審制度ニ採リタルモノニシテ其ノ特色トスル所ハ裁判官ト常人(陪審員)トヲシテ各々別箇ノ合  
 議體ヲ組織セシメ陪審ヲシテハ犯罪ノ構成事實ノ存否ヲノミ評決セシメ裁判所ヲシテハ陪審ノ評決ヲ  
 可トスル場合ニ於テ之ヲ採擇シテ裁判スルコトヲ得シムルニ在リ故ニ裁判ノ主體ハ裁判官ヨリ成ル合  
 議體タル裁判所ニシテ陪審ニ非ス陪審ノ評決スル所ハ裁判ノ一部タル犯罪ノ構成事實ノ存否ニ關スル  
 ノミニシテ法律ノ適用及刑ノ量定等ニ及ハサルモノトス然レトモ既ニ陪審ヲシテ犯罪ノ構成事實ノ存  
 否ヲ裁判ノ一部ニ關與セシムル以上法律智識ニ乏シキヲ常トスル常人タル陪審員ヲシテ裁判ノ何物  
 タルカヲ知ラシメ且陪審ノ責務ノ重大ナルヲ悟ラシメ以テ其ノ評決ニ過誤ナカラシムルコトハ最モ緊  
 要ノ事ナリト謂ハサルヘカラス此ニ於テカ陪審法ハ其ノ第六十九條ニ於テ裁判長ハ檢事ノ被告事件陳  
 述前特ニ陪審員ノ宣誓前之ニ對シテ其ノ心得ヲ論告スヘキコトヲ命シ其ノ第七十七條ニ於テ裁判長ニ  
 對シ辯論終結後陪審員ニ對シ犯罪ノ構成ニ關シ法律上ノ論點及問題ト爲ルヘキ事實並證據ノ要領ヲ說

【要旨第一】

示スヘキコトヲ命ス惟フニ說示ノ目的トスル所ハ陪審員ニ對シテ法律智識ヲ補充シ且法廷ニ於テ陪審  
 員ノ腦裡ニ雜然印象セラレタル事實關係ヲ整頓シ以テ適正ナル評決ヲ爲サシメトスルニ在リ然レハ  
 說示ハ必ス辯論終結後ニ於テ爲スコトヲ要シ而シテ之ニ對シテ異議ヲ申立ツルコトヲ得サルハ法ノ明  
 定スル所ナリ蓋其ノ之ヲ許ササルハ若シ說示ニ對シテ異議ヲ申立ツルコトヲ許スニ於テハ折角裁判長  
 カ陪審員ノ腦裡ニ整頓シタル犯罪ノ構成ニ付テノ事實關係及之ニ對スル證據關係カ攪亂セララルニ至  
 ル虞アルヘケレハナリ之ニ反シテ論告ノ目的トスル所ハ主トシテ陪審員ヲシテ其ノ職責ノ重大ナルヲ  
 悟ラシムルト同時ニ審理ニ陪審員評決答申ヲ爲スニ付テノ行爲ノ準則ヲ知ラシメ以テ職務執行上ニ於ケ  
 ル覺悟ト注意ヲ促スニ在リサレハ法律カ論告ヲ爲スノ時期ヲ檢事ノ被告事件陳述前タルヘキ旨規定セ  
 ルハ固ヨリ其ノ所ナリト雖論告ノ本質前述ノ如クナルヲ以テ論告ヲ法ノ規定スル當初ノ一回ニ限ルノ  
 要ナク裁判長ニ於テ必要ト認ムルニ於テハ說示ノ直前乃至直後ニ於テ時宜ニ從ヒ之ヲ繰リ返スモ毫モ  
 妨ナキモノト謂ハサルヘカラス現ニ「オーストラリヤ」刑事訴訟法第三百二十五條ノ如キハ裁判長ニ辯  
 論終結後陪審員ニ對シテ公判ノ主要ナル結果ヲ要約シ且成ルヘク簡單ニ被告人ノ利益又ハ不利ナル  
 證據ヲ示スト同時ニ犯罪行爲ノ法律上ノ要件及問題トナルヘキ法律上ノ用語ノ意義ヲ説明シ且陪審ノ  
 一般義務及評議評決ニ關スル規定ニ付注意スヘキ旨ヲ規定ス蓋我陪審法ニ於テ裁判長カ陪審員ニ對シ  
 テ說示設問ヲ爲スニ當リテ右ノ如キ注意ヲ促スハ毫モ立法ノ精神ニ戻ルコトナキハ勿論其ノ注意事項

陪審員ノ心得ノ論告ノ範圍 陪審法第七十三條ト證人ノ召喚シ難キ場合  
 陪審員ノ要領ノ說示ト其ノ範圍 陪審法第八十二條第二項ト公判ニ於テ示シタル

ノ如キハ之ヲ呼テ諭告ト稱スルモ亦妨ナカルヘシ翻テ之ヲ本件ニ付テ按スルニ原審裁判長ニ於テ所論ノ如ク辯護人カ(一)疑ハシキハ輕キニ從フ(二)百人ノ罪アル者ヲ遁スモ一人ノ罪ナキ者ヲ罰スヘカラスト辯論シタルニ對シ此ノ如キハ法諺ニシテ之ニ依リテ事件複雑ニシテ判斷スルコト困難ナルモノハ罪アルモノヲモ罪ナキモノト爲スモノナリト誤解スヘカラスト諭シタルカ如キ(三)辯護人カ他事件ニ付警察官署ニ於テ行ハレタル自白強要等ノ事實ヲ舉示シタルニ對シテ當該被告事件ニ關係ナキ事實ヲ判斷ノ資ニ供スヘカラサルヲ注意シタルカ如キ(四)辯護人カ本件ニ付警察官署カ一旦本件被告人ヲ檢舉シナカラ之ヲ釋放シ更ニ再ヒ之ヲ檢舉シタルハ見込違ナルヘキヲ論難セルニ對シ吾人ノ日常ノ經驗ニ徴シ物ヲ捜ス場合最初捜シタル箇所ニナク後ニ捜シタル箇所ニ在ルコトハ屢々アルコトニシテ此ノ場合ハ最初捜シタル箇所ニナカリシコトカ思違ナリシ爲後ニ捜シタル箇所ニ在リタルコトカ間違トハ云ヒ難シト説キタルカ如キ孰レモ陪審員カ評議答申ヲ爲スニ付テ必要ナル一般經驗上ノ法則、訴訟法上ノ心得等ヲ告知シタルニ止マリテ當ニ諭告ノ範圍ヲ出テサルノミナラス絶テ證據ノ信否及罪責ノ有無ニ關シテ言及セルノ點ナキカ故ニ毫モ所論ノ如キ違法存在セス論旨ハ理由ナシ

第二點原裁判所ハ公判準備期日ニ於テ辯護人ノ申請ニ因ル佐伯トメヲ證人トシテ採用セリ(六一〇丁)然ルニ第一回公判期日(十一月二十七日)ニ於テ原裁判所ハ「合議ノ上證人佐伯トメハ旅行不在ニテ召喚スルコト能ハサルニ付同人ニ對スル部分ノ證據決定ヲ取消シ辯護人ノ申請ヲ却下スル旨ノ決定ヲ

【要旨第二】

宣告シタリ(八二四丁)從テ此ノ決定ニ依リ佐伯トメハ公判ニ於テハ證人タル資格ヲ喪失シタルモノナルト同時ニ原裁判所ハ佐伯トメヲ證人トシテ採用セサルコトヲ明ニ爲シタルモノナリ故ニ佐伯トメハ陪審法第七十三條第一號ノ證人ニ該當セス然ルニ第三回公判期日(十一月二十九日)ニ於テ裁判長ハ佐伯トメニ對スル豫審調書ヲ證據トシテ説示セルコト「尙一般ノ證據トシテ佐伯トメニ對スル豫審調書(中略)ヲ示シタリ(八八〇丁)トアルニ依リ明ナリ之法律上證據ト爲スコトヲ得サルモノヲ證據トシテ説示シタルモノナリ今一步ヲ譲リテ佐伯トメノ豫審調書ハ證據トシテ用フルコトヲ得ヘキモノナリトスルモ原裁判所ハ公判廷ニ於テ此ノ豫審調書ニ付テハ朗讀若ハ其ノ要旨ヲ告ケヌ又被告人ニ之ヲ示ス等ノ手續ヲ經サルモノナレハ之ヲ證據ト爲スコトヲ得サルニ拘ラス裁判長ハ之ヲ證據トシテ説示シタル違法アリト云フニ在レトモ○豫審判事ノ作成シタル證人訊問調書カ證人ニ於テ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ召喚シ難キトキ證據ト爲リ得ルコトニ付テハ陪審法第七十三條ニ規定スル所ナリ而シテ本件ニ於テ原審カ公判準備期日ニ於テ辯護人ノ申請ニ係ル佐伯トメヲ證人トシテ喚問スヘキ旨決定シタルモ第一回公判期日ニ於テ之ヲ取消シ右證人申請ヲ却下シタルハ同人カ旅行不在ニテ召喚スルコト能ハサリシニヨルコト原審第一回公判調書及同人ニ對スル送達證書ニ徴シテ明瞭ニシテ其ノ旅行不在ナル爲召喚スルコト能ハサリシコトハ適サニ前記法條ノ所謂供述者ヲ召喚シ難キトキニ該當スルヤ疑ヲ容レヌ又果シテ然ラハ原審カ證人佐伯トメニ對スル豫審訊問調書ヲ採リテ證據ト爲シ得ルコト

【要旨第三】

陪審員ノ心得ノ諭告 諭告ノ範圍 陪審法第七十三條ト證人ノ召喚シ難キ場合  
證據ノ要領ノ説示ト其ノ範圍 陪審法第八十二條第二項ト公判ニ於テ示シタル  
證據書類



勿論ナルノミナラス原審公判廷ニ於テ右調書ノ要旨ヲ告ケテ之カ適法ノ證據調アリタルコト原審第一回公判調書(第八二四丁)ニ明白ナル以上右調書ニ付證據說示ヲ爲スモ何等ノ違法アルコトナシ論旨ハ理由ナシ

第三點裁判長ノ說示中「尙一般證據トシテ佐伯トメニ對スル豫審調書證人八木繁造ノ當公廷ニ於ケル供述被告ノ供述竝ニ其ノ他ノ各證人ノ證言中前掲以外ノ部分被告人及證人藤高サイニ對スル各豫審調書中同人ノ當法廷ニ於ケル供述ト重要ナル點ニ於テ相違スル部分」(八八〇丁)トアルモ被告人及藤高サイノ豫審調書ヲ除ク外ノ證據ニ付テハ其ノ内容ノ要領ニ付一言モ說示セサリシモノナリ記錄ニ依ルモ如上記載以外ニ於テ此ノ說示ヲ爲シタリトノ記載ナシ斯ル說示ニ因リ裁判長ノ援用セル證據ノ内容ニ付テ一度モ一件記錄ヲ讀ミタルコトナキ陪審員ニ對シ證據ノ要領ヲ說示シタリト爲スコトヲ得ス又證人ノ證言中如何ナル點カ本件ニ重要ナル關係事項ナルカ陪審員ハ之ヲ知ルコトヲ得ス殊ニ一般證據トハ本件ニ如何ナル關係アル證據ノ謂ヒナルカ不明ナルノミナラス證人三好方時ノ供述ニ付テハ「其ノ他ノ各證人ノ證言中前掲以外ノ部分」ニ包含セサルカ故ニ同人ノ供述ニ關シテハ全然說示ヲ爲サス是證據ノ要領ヲ說示セサリシ不法ノモノナリ且亦裁判長カ如上ノ說示ヲ爲スニ於テハ如何ナル點ニ於テ其ノ說示カ法律ニ違反セルヤ又如何ナル點ハ證據ト爲スコトヲ得サリシモノナルヤ等全ク不明ナルヲ以テ被告ノ上訴權ヲ奪フモノニシテ斯ル說示ハ明ニ法律ニ違反シタルモノナリト信スト云フニ在リ

【要旨第四】

○仍テ按スルニ陪審法第七十七條ハ裁判長カ辯論終結後陪審ニ對シ爲スヘキ說示ヲ規定スルニ當リ特ニ犯罪ノ構成ニ關シ問題ト爲ルヘキ證據ニ付テハ止タ其ノ要領ヲ說示スヘキコトヲ命ス蓋一切ノ證據ニ付其ノ詳細ニ亘ル說示ヲ爲スヘキコトヲ命スルニ於テハ却テ陪審員ノ頭惱ヲ混亂セシメ法カ說示ヲ規定シタル立法精神ヲ沒却スルニ至ル虞アルヘケレハナリ然リ而シテ要領ヲ說示スヘキ證據カ公判ニ於テ證據調ヲ經タルモノナルコトヲ要スルハ言ヲ俟タスト雖刑事訴訟法第三百四十條第三百四十一條ニ規定スル證據書類又ハ證據物ノ證據調ノ方法タル證據ノ要旨ヲ告ケ又ハ之ヲ示スコトト陪審法第七十七條ニ規定スル證據ノ要領ノ說示トハ固ヨリ其ノ目的ヲ異ニスルモノナレハ猥ニ之ヲ以テ彼ヲ推スハ許ササル所ナリトス夫說示ノ目的タルヤ陪審員ニ對シテ法律知識ヲ補充シ且法廷ニ於テ雜然陪審員ノ腦裡ニ印象セラレタル事實關係ヲ整頓スルニ在ルコト前記第一項説明ノ如クナルヲ以テ證據ノ要領ヲ說示スルニ付テハ證據調ヲ經タル證據ノ全體ヲ一團トシテ其ノ要領ヲ說示スレハ足ルモノニシテ各證據ニ付曩ニ證據調ノ際爲シタルト同様ニ其ノ要旨ヲ告ケ又ハ之ヲ示スノ要アルモノニ非ス故ニ苟モ問題ト爲ルヘキ證據ニ付之ヲ說示スルニ當リ其ノ要領ヲ逸セサル限リハ縱令個々ノ證據ノ中ニ其ノ要旨ヲ告ケス又ハ之ヲ示ササリシモノアリトスルモ說示トシテノ無効違法ヲ來スモノニ非サルナリ然ラハ原審裁判長カ所論ノ如ク或種ノ證據ニ付全然之カ說示ヲ爲サス又ハ其ノ要領ヲ說示スルニ證據ノ要旨ヲ告ケス又ハ之ヲ示ササリシトスルモ輒ク違法ノ說示ナリト斷スルヲ得ス加之記錄ニ徵スレハ原審

陪審員ノ心得ノ論告 論告ノ範圍 陪審法第七十三條ト證人ノ召喚シ難キ場合 證據ノ要領ノ說示ト其ノ範圍 陪審法第八十二條第二項ト公判ニ於テ示シタル 證據書類

裁判長ノ爲シタル證據説示ハ克ク證據ノ要領ヲ説キ得テ説示トシテモ毫モ間然スル所ナシ而シテ所論三好方時ノ證言ノ如キハ全然犯罪ノ構成ニ重要ナル關係アルモノト認メ得サルヲ以テ所論攻撃ハ當ラズ論旨ハ理由ナシ

第四點裁判長ハ本件ニ付問題トナルヘキ事實トシテ四點擧ケタルモ其ノ外問題トナルヘキ事實トシテハ第一事實竊取シタル短刀ヲ携ヘテ再ヒ佐伯飲食店ノ前ニ立歸リテ同店ヲ窺ヒタルヤ否第二事實岡本ハマヨハ左手ニ烏籠ヲ持チ居リシヤ否第三事實被告人カハマヨヲ殺害ノ直前ニ兩人間ニ於テ問答ヲ爲シハマヨハ被告人ヲ駭ラントセル事實アリシヤ否ヲ擧ケサルヘカラス第一事實ノナキコトハ證人山野邊之助ノ供述ニヨリテ明ニシテ被告人ノタメ最モ利益ナル點ナリ第二事實ノ烏籠ハ本件ヲ檢査スル端緒トシテ取扱ハレシコトハ三好巡査ノ「籃(烏籠)ノコトナリシニ記録ニハ斯クナリ居レリ」カアツタノテ其ノ品物カラ端緒ヲ得タノテアリマス」(七九八丁)藤高サイノ「私ハハマヨカスウシタ事情ヲ云フテ傘ト烏籠ヲ拾フテ貰ヒ」(七八八丁)被告人ニ對スル豫審第一回訊問調書中「ハマヨハ藤高サイト一本ノ傘ヲ差シサイノ左側ニ並ンテ左手ニ烏籠ノ様ナモノヲ持ツテ」トアリ其ノ烏籠カ本件ニ於テ如何ナル關係アルヤ檢査ハ此ノ被告人ノ供述ヲ援用シテ自白ノ眞實ナルコトヲ力説シ辯護人ハ之ニ對シ本件ノ證據物ハ烏籠ニアラスシテ被告人ノ宅ニテ押收セラレシ被告人ノ使用シ居リシ籃(證據第四號)ニアラスヤ此ノ籃カ本件ニ如何ナル關係アリヤ毫モ明ナラズト説キ此ノ關係ヲ明ナラシムルコトハ延イテハ本件ニ於テ最モ疑ハシキ警察署ノ搜索ノ態度ヲ知ルコトヲ得ヘシト力説シタル所ナリ而シテ籃又ハ烏籠カ全ク無意味ナルコト明トナレハ警察署ノ不純ナル態度ヲ證セラレ被告人ニ對スル自白ノ強要モ推知セラルルト同時ニ被告人及藤高サイノ豫審訊問調書ニ烏籠カ問題トナリ居レルニ其ノ烏籠ハ如何ニ爲セシヤ等本件ニハ重大ナル問題ニシテ之ヲ明ニスルコトハ頗ル被告人ニ有利ナリ第三事實ノ無キコトハ岡本ハマヨハ胸部ニアラスシテ背部傘ノ上ヨリ一突刺サレタルノミノ事實ト同行者藤高サイノ供述トニ依リテ明白ニシテ此ノ點モ亦被告人ノタメ非常ニ利益ナルモノニシテ説示トシテハ當然爲ササルヲ得サル重要ナル點ナリ然ルニ裁判長ハ斯ル被告人ノタメ最モ利益ナル點ニ關シテ説示ヲ爲サス次ニ裁判長ノ擧ケタル第一點ノ公訴事實維持ノ證據中若岡タマ藤高サイ山本マサノ供述ハ皆同様ニハマヨカ被告人ヲ嫌疑シ居リシコトヲ證スルノミニシテ唯是ノミヲ以テハ問題トナラス

如何トナレハハマヨハ密着質帯ナルヲ以テ物質ノタメニ情ヲ重ネ居リシ者ナレハ情交關係ノ男ノ中ニハ好惡ノ念アルモ厭ナル男ニ對シテ嫌疑ノ情ヲ表ハササレハ嫌疑ハ居ルコトヲ知ラズ者ハ平氣ナリ而シテハマヨカ被告人ヲ嫌疑居ルコトヲ知ラサル者ハ被告人獨リノミトナルモ本件ニハ何等關係ナケレハナリ從テ證據中最モ重要ナルモノハ第一回豫審調書中被告人自身カハマヨニ嫌疑ハ居ルコトヲ感得セル事實ノ供述ナリ裁判長ノ指示中被告人カハマヨニ嫌疑ハ居ル頂上トモナルヘキ事實即自分ハ其ノ上金ヲ取ラントシタルニハマヨハ足ニテ自分ノ右ノ目ヲ蹴リタル爲自分ハ目カ腫レテ十日程モ苦シタル事アリ(起立セル者カ其ノ足ニテ起立セル者ノ目ヲ蹴リタリト云フコト)ミヲ取リテ考フルモ常識ヲ以テハ想像スルコト能ハス此ノ點ハ辯論ノトキ力説シタリ)トノ部分ニ對シ詳細ニ説示シタルニ拘ラス被告人ノ法廷ニ於テ決シテ然ラス金ヲ取返サントスルハマヨノ肘力怪我ニ目ニ當リタル旨ノ供述ニ付テハ説示ヲ爲サス是亦裁判長ハ被告人ノ利益ナル點ヲ省キタルモノナリ次ニ裁判長ノ擧ケタル第三點ノ終ニ於テ竊盜犯人トハマヨヲ殺シタル犯人ハ同一人ニシテ被告人ナリトノ檢事ノ意見ヲ肯定シ竊盜犯人ノ服裝等ヲ證明スヘキ證人富山カメノ犯人ノ着衣ハ緋ノ襪ナ浴衣(證據第十九號ハ緋ノ浴衣)及高下駄ニアラサル點證人高砂武士之助ノ犯人ハ大キナ男(被告人ハ小柄ノ男ナルコト證據第十九號ノ身丈ニヨリテ明ナリ)ナル點ヲ説示セス尤モ第四點ニ於テ富山カメノ供述ニ付テ説示セルモ之檢事ノ意見ニ同意シタルモノ即裁判長ハ竊盜犯人ト殺人犯人トハ同一人ナリトノ豫斷ヲ以テ説示ヲ爲セルモノニシテ斯ル説示ノ違法ナルコトハ明ナリ次ニ本件ニ於ケル殺人事件ト竊盜事件トハ別箇ノ犯罪トシテ取扱ハレ竊盜事件ハ請求陪審事件ト爲シタルコト被告人ニ對シテ訴訟費用ヲ負擔セシメタルコトニ依リテモ明ナリ故ニ説示中第三點ハ殺人事件トシテノ説示ニ屬シ其ノ外ニ於テ或ハ重複ノ嫌疑アルモ竊盜事件トシテハ分離シテ説示ヲ爲ササルヘカラス然ルニ其ノ説示ヲ爲ササル故ニ竊盜犯人ヲ推知スヘキ服裝等ニ付テハ説示ヲ爲サス偶々説示スレハ殺人事件ノ犯人ヲ推知スル箇所ニ於テ爲スカ如キ不徹底ナル説示ヲ取テ爲スニ至ル要之裁判長ノ説示ハ被告ノタメ利益ナル事實關係ハ努メテ之ヲ避ケタリ是ニニ裁判長ハ有罪ナル豫斷ヲ抱キテ説示ヲ爲シタルモノニシテ斯ル説示ハ不法ナリト云フニ在レトモ○犯罪ノ構成ニ關シ問題ト爲ルヘキ事實ノ説示トシテ原審裁判長ノ示シタル事項ハ所論ノ如ク(一)ハマヨカ被告人ヲ嫌疑シ同人ヨリ金品ヲ受取リナカラ情交ノ要求ニ應セサリシ事實アリヤ否(二)夫カ爲被告人カ煩悶シテ八月五日ノ深更ハマヨカ仲居ヲ爲シ居ル佐伯飲食店ニ到リ戶外ヨリハマヨノ舉動ヲ窺ヒ同人カ他ノ男ト情交セル如キ狀況ヲ認メ嫉妬憤激ノ極ハマヨヲ殺害セント決意シタルモノナリヤ否(三)

陪審員ノ心得ノ論告 論告ノ範圍 陪審法第七十三條ト證人ノ召喚シ難キ場合  
證據ノ要領ノ説示ト其ノ範圍 陪審法第八十二條第二項ト公判ニ於テ示シタル證據書類

被告人ハ其ノ準備トシテ同夜高砂武士之助方店頭ヨリ七首一本ヲ竊取シタリヤ否(四)右七首ヲ携ヘテ右佐伯飲食店ヨリハマヨノ歸ルヲ追ヒ廣瀬神社鳥居前路上ニ於テ右七首ヲ以テハマヨノ背部ヲ突刺シ右肺ニ貫通セル刺傷一箇ヲ加ヘ同人ヲシテ之ニ基因スル内出血ノ爲即死セシメタルヤ否ノ四點ニ亙リ本件答申ニ必要ナル事項ヲ遺漏ナク包含シ且之ニ對スル證據ノ要領ヲ說示シテ說示トシテモ不備ノ點ナキノミナラス記錄ヲ査スルモ罪實ノ有無ニ關シ意見ヲ表示シタル述ナキヲ以テ原審裁判長ノ說示ニハ所論ノ如キ違法存在セス論旨ハ理由ナシ

第六點裁判長ハ被告人及證人藤高サイノ法廷ニ於ケル供述ハ豫審ニ於ケル供述ト差異アリトシテ此ノ點ニ於ケル說示ハ本件ニ於テ最モ重要ナルモノトシテ特ニ丁寧且詳細ヲ極メタルコト記錄ニ依リテ明ニシテ其ノ豫審調書ハ明確ニ精讀セルモノナリ即裁判長ハ被告人及藤高サイノ訊問ノトキ豫審調書ヲ讀ミ聞カセテハ其ノ眞否ヲ確メ續イテ說示ノトキ此ノ豫審調書ハ特ニ入念ニ陪審員ニ對シ讀ミ聞カセタルモノナリ然ルニ其ノ上裁判長ハ兩人ニ對スル豫審調書タケテ記錄ヨリ取外シテ之ヲ陪審員ニ交付シタリ(八八二丁)之裁判長ハ陪審法第八十二條第二項ノ「證據書類」ノ中ニハ如斯訊問調書ハ包含セサルモノナルニ其ノ解釋ヲ誤リタルモノナリト信ス蓋茲ニ所謂「證據書類」ニハ自ラ其ノ限界アリテ無制限ノモノニアラス即陪審員ヲ對照トシテ陪審員ニ對シ見セルニアラサレハ聽カスニ困難ナル場合又ハ聽カセルタル上見セルニアラサレハ徹底ヲ缺ク虞アル場合ニ於テ何人モ必要アリト肯定シ得ヘキ客觀的理由アル場合ニ限ラル而シテ其ノ場合ニ該當スヘキヤ否ノ判斷ハ勿論裁判長ノ專權ニ屬スト雖訊問調書ノ如ク言葉ヲ記載セルモノ從テ聽カスニ困難ナラス又見セルニアラサレハ徹底ヲ缺ク虞ナ

キコト(若シ此ノ虞アリトスレハソハ極メテ主觀的ナル理由即裁判長ノ說示ノ拙劣ナル場合ニシテ署名捺印ニ至リテハ豫審調書ノ信憑力ヲ說示スレハ可ナリ)客觀的ニ定マレルモノハ此ノ「證據書類」ニ包含セサルモノナリ從テ之ヲ交付シタル裁判長ノ行爲ハ不法ナリ又陪審法ノ原則タル直接審理主義ノ上ヨリ見テ他ノ記錄ヲ讀ミタルコトナキ陪審員ニ對シ特ニ被告人ニ不利益ナル訊問調書ヲ記錄ヨリ取外シテ讀マセタルコトハ極メテ不當ナリ要之陪審法第八十二條第二項ノ證據書類ノ交付ヲ許シタルハ陪審員ニ對シ「見セル」タメニシテ「讀マス」タメニアラス從テ唯「讀マス」コトヲ目的トシテ交付シタルトキハ不法不當ナリ而シテ此ノ裁判長ノ不法不當ナル行爲ハ原判決ニ影響ヲ及ホスコト誠ニ甚大ニシテ陪審員カ「然リ」ト肯定シタリトスルモ理由一ニ此ノ點ニ繫ルト信スル理由アルヲ以テ原判決ハ破毀スヘキモノナリト信スト云フニ在レトモ○所論被告人及藤高サイニ對スル各豫審調書ハ本件被告事件ノ爲特ニ作成セラレタル文書ニシテ陪審法第八十二條第二項ニ所謂證據書類タルハ勿論ナルノミナラス同條項ニ「公判廷ニ於テ示シタル證據物云々」ト謂ヘルハ「公判廷ニ於テ證據調ヲ爲シタル證據物云々」ト謂フノ義ニ外ナラサルヲ以テ原審裁判長カ此等證據調ヲ經タル調書ヲ陪審員ニ交付シタルハ正當ニシテ毫モ非議スヘキ點ヲ發見セス所論前記法條ニ所謂交付ハ見セル爲ニシテ讀マス爲ニ非スト爲スカ如キハ却テ立法ノ精神ニ背馳スルノ解ト謂フヘク論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨並判決理由ハ之ヲ省略ス)

【要旨第五】

陪審員ノ心得ノ論告 論告ノ範圍 陪審法第七十三條ト證人ノ召喚シ難キ場合 證據ノ要領ノ說示ト其ノ範圍 陪審法第八十二條第二項ト公判ニ於テ示シタル證據書類

○阿片法違反被告事件 (昭和四年(九)第二九一號 棄却)

(同年五月十七日第一刑事部判決)

〔上告人〕 被告人 妹尾庄太郎

〔第一審〕 大阪區裁判所 第二審〕 大阪地方裁判所

○判示事項

阿片ノ見本授受ト阿片授受罪

○判決要旨

政府ノ賣下又ハ交付シタルニ非サル阿片ヲ授受シタルトキハ其ノ目的力見本ノ爲ナルト否ト所有權ノ移轉ニ在ルト否トヲ問ハス阿片法第三條第二項ノ阿片授受罪ヲ構成ス

〔參照〕 阿片法第三條第二項 阿片ハ政府ノ賣下ケタルモノ又ハ交付シタルモノニ非

サレハ之ヲ賣買授受所有又ハ所持スルコトヲ得ス

同法第九條第一項 第三條第二項又ハ第三條ノ二ニ違背シタル者ハ二年以下ノ懲役

又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二月ニ處スル旨判決ヲ言渡シタリ

被告人妹尾庄太郎ハ

- 一 昭和三年九月四日頃大阪市此花區茶園町葦田誠逸方ニ於テ同人ヨリ阿片ノ賣買周旋ノ依頼ヲ受ケ之カ見本トシテ政府ノ賣下又ハ交付シタルニ非サル阿片約二匁ノ交付ヲ受ケ
- 二 同年九月八日頃同市東區山下町陳寶銘方ニ於テ陳文斌ヨリ同人カ相被告人寺川又一ヨリ買受ケタル阿片中約一貫七百匁ノ賣買方ヲ託サレ其ノ旨神戸市下山手通三丁目陳天院ニ通シタルニ之カ賣捌口アリトノコトナリシ爲直ニ前記陳寶銘方ニ於テ陳文斌ヨリ右阿片約一貫七百匁ヲ受取リ即日之ヲ陳天院ニ交附シタリ

而シテ被告人庄太郎ノ右阿片ノ交付ヲ受ケタル所爲竝之カ授受ヲ爲シタル所爲ハ各犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ阿片法第三條第二項第九條第一項刑法第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中懲役刑ヲ撰擇シ其ノ範圍内ニ於テ主文ノ刑ヲ量定處斷スヘキモノトス

○理由

被告人妹尾庄太郎上告趣意書第一點原判決ハ其ノ事實理由第二ノ(一)ニ於テ被告人ハ「昭和三年九月四日頃大阪市此花區茶園町葦田誠逸方ニ於テ同人ヨリ阿片ノ賣買周旋ノ依頼ヲ受ケ之カ見本トシテ政府ノ賣下又ハ交付シタルモノニ非サル阿片約二匁ノ交付ヲ受ケ」ト判示シテ阿片法第三條第二項ニ間擬處斷セラレタリト雖同條ニハ「阿片ハ……之ヲ賣買授受所有又ハ所持スルコトヲ得スト規定アルカ故ニ同條ヲ以テ處斷センニハ必スヤ被告人ノ所爲カ賣買ナリヤ將授受所有或ハ所持ノ何レノ關係ニ該當スルモノナリヤハ之ヲ判文自體ニ於テ明確ニセラレサルヘカラス然ルニ原判決ニ於テハ單ニ「見本トシテ……阿片約二匁ノ交付ヲ受ケ」ト說示スルニ止マシ其ノ授受所有所持ノ孰レノ關係ニ屬スルカヲ明ニセラレタル跡ナシテ然ラハ原判決ハ此ノ點ニ於テ理由不備アルモノト思料スト云フニ在レトモ○原判決ノ認定シタル事實ハ被告ハ昭和三年九月四日頃大阪市此花區茶園町葦田誠逸方ニ於テ同人ヨリ阿片ノ賣買周旋ノ依頼ヲ受ケ之カ見本トシテ政府ノ賣下又ハ交付シタルモノニアラサル阿片約二匁ノ交付ヲ受ケタリト云フニ在ルヲ以テ右所爲ハ阿片法第三條第二項ニ所謂阿片ノ授受ニ該當スルコト明ナレハ原審力之ニ對シテ同法條項同法第九條第一項ヲ適用處斷シタルハ正當ニシテ原判決ハ理由不備ノ點ナク論旨理由ナシ

第二點前點所論ニ於テ假リニ原判決ハ被告カ葦田誠逸ヨリ見本阿片約二匁ノ交付ヲ受ケタル事カ右同法ノ授受所持ノ關係ニアリト云フニアラハ這ハ擬律錯誤ノ違法アルモノト思料ス何者被告ノ交付ヲ受ケタル阿片ハ判文明示ノ如キ見本阿片ニシテ該物自體カ直接賣買ノ目的物ニ非ス見本ナルカ故ニ賣買ノ成否ニ拘ラス後日交付者ニ返還セラルヘキモノニシテ未タ以テ其ノ所有權ヲ被告ニ移轉シ授受ノ關

係ヲ確定シタルモノニ非ス從テ被告ニ於テ縱令之カ交付ヲ受ケテ阿片ヲ所持シタルコトアリトスルモ右阿片ハ見本ノ故ニ直ニ不法ニ施用スヘキ危險アルコト無ク此ノ危險性ヲ前提トシテ規定セラレタル阿片法ノ所謂所持ニモ該當セサルモノト思考ス仍テ原判決ハ執ニスルモ被告ノ交付ヲ受ケタル阿片カ見本ナルコトノ特性ヲ顧慮スル處ナク直ニ同條ニ擬律處斷シタルハ錯誤ノ違法アルモノト思考スト云フニ在レトモ○被告カ葦田誠逸ヨリ見本阿片二匁ノ交付ヲ受ケタルコトハ阿片法第三條第二項ニ所謂阿片ノ授受ニ該當スルコトハ前點說明ノ如シ而シテ苟モ阿片ノ授受アリタル以上ハ其ノ目的カ見本ノ爲ナルト否ト所有權ノ移轉ニアルト否トハ問フトコロニ非サルヲ以テ原審カ被告ノ所爲ヲ阿片法第三條第二項ニ間擬シタルハ正當ニシテ毫モ擬律錯誤ノ違法アルコトナシ論旨理由ナシ

第三點原判決ハ其ノ事實理由ニ於テ被告ニ對スル判示(一)事實ノ被告人カ葦田誠逸ヨリ阿片見本ノ交付ヲ受ケタル事實ヲ斷シ其ノ證據說明ノ部ニ於テ司法警察官ノ右誠逸ニ對スル聽取書ヲ採用シテ「昭和三年八月中旬間高ト云フ先生カ自分宅ニ阿片ノ見本ヲ指ノ先位持參シテ自分ニ何處カニ賣ル處ハ無カロウカト尋ネタレハ自分ハ賣口カアルカ無イカ判ラヌカ一度尋ネテ見ヨウト其ノ阿片ヲ開高ヨリ預リ八月十八日頃瀨尾庄太郎(當四十年位)カ自宅ニ來リシテ以テ阿片ノ見本ヲ示シタルニ瀨尾ハ暫ク貸シテ吳レト其ノ阿片ノ見本ヲ持テ歸リタル旨」ト說示セラレ被告人カ葦田誠逸ヨリ借受ケタル阿片ヲ引續イテ所持シ居ル趣旨ノ罪證ニ供セラレタリ仍テ記錄ニ就テ同調査ヲ參照スルニ同聽取書ノ記載トシテ「……八月十八日頃瀨尾庄太郎(當四十年位)カ自宅ニ硫黃ヲ買フテ吳レト云フテ來マシタノテ阿片見本ヲ示シマス瀨尾ハ暫ク借シテ吳レト其ノ阿片ノ見本ヲ持テ歸リマシタカ三四日シテカラ瀨尾ハ其ノ阿片ノ見本ヲ持テ自宅ニ來テ私ニ之ハ折角テスカイケマセント返シマシタ云々」トノ供述記載アリテ判決證據說示ノ如ク被告カ其ノ阿片ヲ持テ歸リテ其ノ儘所持セルモノニ非ス後日返還セルモノナル事ヲ認メ得ルニ拘ラス原判決ハ證據ノ前半ヲ判決ニ採用シテ

阿片ノ見本授受ト阿片授受罪

之ヲ罪證ニ供シタルモ全趣旨ヲ通シテ原記載ヲ綜合考覈セハ被告ノ阿片所持ハ繼續確定ノモノニ非スシテ後日返還セラレタルコトヲ察知シ得ヘシ果シテ然リトセハ原院ハ證據ノ趣旨ヲ變更シテ斷罪ノ資料ニ供シタルカ又ハ事實誤認ノ顯著ナルモノアリト謂フヘク右判決ハ到底破毀ヲ免レサルモノト思料スト云フニ在レトモ○阿片ノ授受アリタルトキハ直ニ阿片法第三條第二項ノ阿片授受ノ犯罪成立シ之カ繼續所持ハ其ノ要件ニ非サルヲ以テ一日交付ヲ受ケタル阿片ヲ後日返還シタリトスルモ既ニ成立シタル犯罪ニ消長ナシ從テ原審カ被告ノ葦田誠逸ヨリ阿片ノ交付ヲ受ケタル事實認定ノ資料トシテ司法警察官ノ葦田誠逸ニ對スル聽取書中被告カ葦田ヨリ阿片ノ見本ヲ貸シ吳レトテ之ヲ持歸リタル旨ノ供述部分ヲ引用シ其ノ後被告カ葦田方ニ赴キ之ヲ返還シタリトノ供述部分ヲ引用セザレハトテ之ヲ證據ノ趣旨ヲ變更シテ斷罪ノ資料ニ供シタリト謂フヘカラサルノミナラス記錄ヲ查スルニ原審ノ事實誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナク論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨並判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事三橋市太郎關與

○邸宅侵入被告事件(昭和四年(九)第三七一號 棄却)

【上告人】 被告人 久保田吉次郎 辯護人 林 逸 郎  
【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京地方裁判所

○判示事項

家屋汚漬ノ目的ト住居侵入罪

○判決要旨

他人ノ住居セル家屋ヲ汚漬スル目的ヲ以テ其ノ邸内ニ立入りタルトキハ住居支配權ノ意思ニ反シテ之ニ侵入シタルモノニ外ナラサレハ其ノ行爲ハ住居侵入罪ヲ構成ス

【參照】 刑法第三百三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役四月ニ處スル旨ノ判決ヲ言渡シタリ

被告人ハ高崎市關東日日新聞記者ナルトコロ豫テ民政黨總裁濱口雄幸カ數田輝太郎ヨリ賃借居住セル東京市小石川區小日向水道町百八番地所在家屋ハ右數田カ塩水港製糖株式會社取締役タリシ頃同會社所有ノ金圓ヲ流用建築セルモノナル旨ノ風評アルニ拘ラス右濱口カ其ノ疑雲ヲ一掃セスシテ默殺スル

家屋汚漬ノ目的ト住居侵入罪

ハ不當ナルヲ以テ事口該家屋ヲ汚瀆シ以テ前示濱口ニ反省ヲ促スニ如カストシ昭和三年九月十八日午前七時頃人夫田中利治外數名ヲ雇入レテ之ヲ引率シ糞尿ヲ充滿セル四斗樽ヲ運搬シ故ナク前記濱口邸ノ表門ヨリ同邸宅内ニ侵入シタルモノナリ

尙被告人ハ大正十五年十二月二十六日關東廳高等法院ニ於テ傷害罪ニ依リ懲役四月ニ處セラレ當時其ノ刑ノ執行ヲ終リタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ刑法第三百三十條ニ該當スルヲ以テ其ノ懲役刑ヲ選擇シテ處斷スヘキトコロ前示前科アルヲ以テ同法第五十六條第五十七號ニ依リ累犯ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役四月ニ處スヘキモノトス

○理由

辯護人林逸郎上告趣意書第一點第二番公廷ニ於テ辯護人林逸郎ハ被告人ノ爲「本件ハ無罪ナルコトヲ確信スト前提シ本件ハ邸宅侵入罪ヲ構成スルヤ否ヤノ點爭點ナリト述ヘ之ニ該當スヘキモノナラズト斷シ住居ノ平和家宅支配權ノ侵害ニ關スル法規中故ナクト云フハ家宅權者ノ明示又ハ默示ノ許諾ナクシテトノ謂ナリ故ニ家宅權者ノ不許諾ヲ認識シテ闖入シタル行爲ハ邸宅侵入罪ヲ構成スヘケンモ本件ニ於テハ默示ノ許諾アリト認識シテ入りタルモノナリト見ルチ妥當トスヘク從テ犯罪ヲ構成セス即チ通行自由ナル門ヲ通りテ特ニ玄關前二間ノ場所ニ於テ止マリ其ノ目的タル汚物投擲ヲ爲シ殊更玄關前ヨリ内ニ入ラントハ爲ササリシモノナレハ他罪ハ或ハ構成スヘケンモ住居侵入罪トナルコトナシト信スルカ故ニ無罪ノ判決アリタキ」旨辯論シタリ即法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ理由タル事實上ノ主張ヲ爲シタリ果シテ然ラハ之ニ對シ何等ノ判斷ヲ示ササリシ第二審判決ハ當然破毀セラルヘキモノナルヤ論ヲ俟タサルナリト云フニ在レトモ〇苟モ故ナク他人ノ邸宅ニ侵入スルニ於テハ其ノ玄關前ニ到リテ止マリタルト違テ玄關内ニ入りタルトハ邸宅

侵入罪ノ成立ニ消長ヲ來スコトナシ所論辯護人ノ主張ハ畢竟邸宅侵入罪ノ構成事實ヲ否認スルニ歸シ刑事訴訟法第三百六十條第二項ノ場合ニ該當セサルヲ以テ特ニ其ノ主張ニ對シテ判斷ヲ示スノ要ナク本論旨ハ理由ナシ

第二點第二審判決ハ其ノ理由ニ於テ「被告人ハ(中略)故ナク前記濱口邸ノ表門ヨリ同邸宅内ニ侵入シタルモノナリ」ト判示シ其ノ證據理由ニ於テ「以上ノ事實ハ被告人ノ當公廷ニ於ケル判示同趣旨ノ供述ニ依リ之ヲ認ム仍テ判示ノ事實ハ其ノ證明十分ナリ」ト說示シタリ依テ第二審公廷ニ於ケル被告ノ供述記載ニ就キ査閱スルニ被告人ニ於テ家宅支配權者ノ明示又ハ默示ノ不許諾ヲ認識シテ開カレタル門内ニ入りタルモノナル趣旨ノ供述ハ更ニ之レアルナシ果シテ然ラハ第二審判決ハ虛無ノ供述ヲ罪證トナシ且之ノミニヨリテ有罪ノ斷定ヲ爲シタルモノナリト云フヘク重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノナリト云フニ在レトモ〇原審公判調書ニ依レハ被告人ハ他人ノ居住セル邸宅ニ就キ本件家屋ヲ汚瀆スル目的ヲ以テ其ノ邸内ニ入りタル旨ノ供述記載アルニ依リ被告人カ住居支配權者ノ意ニ反シテ之ニ侵入スルノ意思ヲ有シ居リタルコト明白ナレハ原判決ノ證據說示ニ所論ノ如キ違法存スルコトナク記錄ヲ按スルニ原判決ノ事實誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由存セス本論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事矢追秀作關與

○竊盜森林竊盜被告事件(昭和四年(九)第四一四號 棄却)

【上告人】 小山忠治 辯護人 加藤行吉

【第一審】 一關區裁判所 【第二審】 盛岡地方裁判所

○判示事項

森林ノ産物ニ加工シタル物ト森林竊盜

○判決要旨

他人カ森林ノ立木ヲ伐採造材シタル場合ニ之ヲ其ノ森林内ニ於テ  
竊取シタルトキハ森林法第八十三條後段ノ罪ヲ構成ス

【参照】 森林法第八十三條 森林ニ於テ其ノ物産ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ三年  
以下ノ【重禁錮】又ハ【重禁錮】以上【重禁錮】二倍以下ノ罰金ニ處ス其ノ物産ニシテ人工ヲ加ヘ  
タルモノニ係ルトキ亦同シ

同法第八十四條 森林竊盜ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二月以上三年以下

ノ【重禁錮】及【重禁錮】以上【重禁錮】二倍以下ノ罰金ニ處ス

七 二人以上共同シ又ハ他人ヲ雇使シテ犯シタルトキ

○事實

第二審判決ハ左記事實ヲ認定シ法ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六月及罰金百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スル  
能ハサルトキハ被告人ヲ五十日間勞役場ニ留置シ尙被告人ニ對シ三年間右懲役刑ノ執行ヲ猶豫スル旨  
ノ言渡ヲ爲シタリ

被告人ハ(一)昭和三年九月二十三日東磐井郡門崎村字妻神七十八番ノ鈴木助之丞所有山林ニ於テ佐  
藤退祐カ助之丞ヨリ立木ヲ買受ケ伐採造材シ之ヲ小原吉藏ニ賣渡シタル吉藏所有ノ薪材用雜木割丸長  
サ三尺廻リ三尺六寸ノモノ四百六把(時價約八十一圓二十錢一把二十錢ノ割)ヲ同山林ヨリ瀧澤誠外八  
名ヲ雇使シテ搬出竊取シ(二)右吉藏カ前記山林ヨリ同村字清水沖砂鐵川東側ニ搬出シ積重ネ置キタ  
ル前同様雜木割丸三百七十六把(時價約七十五圓二十錢一把二十錢ノ割)ヲ前同日瀧澤誠外八名ヲ雇  
使シテ他ニ搬出竊取シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示(一)ノ所爲ハ森林法第八十四條第七號刑法施行法第十九條第二條第二十  
條ニ判示(二)ノ所爲ハ刑法第二百三十五條ニ各該當スル處右二罪ハ同法第四十五條前段所定ノ併合

森林ノ産物ニ加工シタル物ト森林竊盜



罪ナルヲ以テ懲役刑ニ付同法第四十七條第十條ニ則リ最モ重キ竊盜罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ同法第四十八條ニ依リ森林竊盜罪ノ罰金刑ニ付罰金百圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條第一項第四項ニ則リ被告人ヲ五十日間勞役場ニ留置スヘク所犯情狀ニ因リ刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條ニ從ヒ本判決確定ノ日ヨリ三年間右懲役刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス

○理 由

辯護人加藤行吉上告趣意書第一點原判決ハ擬律ノ錯誤アルモノトス原判決ハ其ノ理由冒頭ニ於テ「被告人ハ昭和三年九月二十三日東磐井郡門崎村字妻神七十八番ノ鈴木助之丞所有山林ニ於テ佐藤退祐カ助之丞ヨリ立木ヲ買受伐採造材シ之ヲ小原吉藏ニ賣渡シタル吉藏所有ノ薪材用雜木割丸長サ三尺廻リ三尺六寸ノモノ四百六把(時價八十一圓二十錢一把二十錢ノ割)ヲ同山林内ヨリ瀧澤誠外八名ヲ雇使シテ搬出竊取シ」ト判示シ之ニ問擬スルニ森林法第八十四條第七號ヲ以テセラレタリ然レトモ森林竊盜ハ森林ヨリノ產物ヲ竊取スルニ因リテ成立シ而シテ此ニ所謂產物トハ山林地ヨリ發生々育スル一切ノ物ヲ包括スルモノナルコトハ既ニ御院判例ノ存スル所ナリ(大正九年大審院刑事判決錄七二三頁)然ラハ森林竊盜ノ目的物ハ森林地ヨリ發生々育スル物夫レ自體ナラサルヘカラサルハ論ヲ俟タサル所ナリトス翻テ被告人ノ前記原判決判示ノ行爲ニ付考フルニ被告人ノ前記山林ヨリ搬出シタル物件ハ佐

【要旨】

藤退祐カ當該山林ニ生立セル樹木ヲ伐採シ之ヲ東ネ薪材トシテ小原吉藏ニ賣渡シタルモノニ係リ而シテ右樹木ハ佐藤退祐ニ依リ伐採造材セラレタルトキニ於テ當該山林ヨリ發生々育セル物自體タルノ性質ヲ失フニ至リタルモノナレハ被告ノ判示行爲ハ茲ニ所謂森林竊盜ヲ構成スルニ至ラサルモノトス換言スレハ被告人カ右山林ニ生立セル樹木ヲ伐採搬出セルニ於テハ或ハ森林竊盜罪ヲ構成スルコトアルヘキモ他人カ伐採造材シタル物件ヲ搬出シタルノミニテハ他罪ヲ構成スルコトアルヘキハ格別森林竊盜罪ヲ構成スヘキニ非ス即チ原判決カ被告人ノ前記判示所爲ニ付森林竊盜罪ニ問擬シタルハ擬律ノ錯誤アルモノトスト云フニ在レトモ○森林法第八十三條ニ依レハ森林ニ於テ其ノ產物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ云々ノ刑ニ處ス其ノ產物ニシテ人工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シト規定シアルヲ以テ森林内ニ發生々育スル產物ニ加工シタル物ヲ其ノ森林内ニ於テ竊取シタル場合ニハ其ノ所爲ハ同條後段ニ該當スルコト疑ヲ容レズ而シテ原判決第一事實ハ所論ノ如ク被告人ハ鈴木助之丞所有ノ判示山林ニ於テ佐藤退祐カ助之丞ヨリ立木ヲ買受伐採造材シ之ヲ小原吉藏ニ賣渡シタル吉藏所有ノ判示薪材用雜木割丸ヲ同山林内ヨリ瀧澤誠外八名ヲ雇使シテ搬出竊取シタルト云フニ在リテ即チ森林ノ產物タル立木ニ加工セラレタル物ヲ他人ヲ雇使シテ其ノ森林内ニ於テ竊取シタルモノナレハ森林法第八十四條第七號ニ問擬シタル原判決ハ相當ニシテ論旨引用ノ判例ハ森林ニ於ケル土砂竊取ノ案件ニ係リ毫モ右ト抵觸スルコトナク論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理用ハ之ヲ省略ス)

依テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事溝淵孝雄關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件 (昭和四年(九)第四二九號 棄却)  
同年五月三十一日第四刑事部判決

〔上告人〕 被告人 飯田三四郎 辯護人 〔北井波治目 德村謙吉〕  
〔第一審〕 大阪地方裁判所 〔第二審〕 大阪控訴院

○判示事項

數人ノ選舉運動者ニ對シ一箇ノ行爲ヲ以テセル報酬ノ供與

○判決要旨

選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ數人ニ對シ一箇ノ行爲ヲ以テ金  
錢ヲ供與シタルトキハ之ヲ包括的ニ觀察シ衆議院議員選舉法第百  
十二條第一項第一號ニ該當スル一罪トスヘク刑法第五十四條第一

項前段ヲ適用スヘキモノニアラス

〔參照〕 衆議院議員選舉法第百十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以  
下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス  
一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對  
シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ  
約束ヲ爲シ又ハ要應接待其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ  
四 第一號若ハ前號ノ供與、要應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ  
承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ  
刑法第五十四條第一項 一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ  
結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸レルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

○事實

第二審裁判所ハ左記事實ヲ認定シ法ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金五百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スル能ハサ  
ルトキハ金五圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス押收物件中百圓紙幣一枚ヲ沒收ス被  
告人ヨリ金百圓ヲ追徵スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ(一)昭和三年二月二十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ同年一月二十四日立候補ノ  
届出ヲ爲シタル候補者岩崎幸治郎ノ爲ニ演說ニ依ル選舉運動ヲ爲シ居タルモノナルトコロ同月二十七  
日大阪府中河内郡枚岡南村大字四條ノ被告人別宅ニ於テ原審相被告人山田増太郎ヨリ前記候補者ノ當

數人ノ選舉運動者ニ對シ一箇ノ行爲ヲ以テセル報酬ノ供與

選ヲ得シムル目的ヲ以テ選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ供與セラレタル金二百圓ヲ其ノ情ヲ知リテ受領シ以テ供與ヲ受ケ(二)前記候補者ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同年二月十一日頃同郡若江村大字若江南被告人宅ニ於テ奥野市次郎中村岩太郎川口徳三ニ對シ同議員候補者ノ爲選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金百圓ヲ供與シタルモノナリ

然而被告人ノ以上ノ所爲ハ犯意繼續シテ爲サレタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示(一)ノ所爲ハ衆議院議員選舉法第一百十二條第一號ニ判示(二)ノ所爲ハ同條第四號ニ各該當スルトコロ判示(二)ノ所爲ハ一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段ヲ適用シ最モ重キ奥野市次郎ニ對スル供與罪ノ刑ニ從ヒ以上ハ犯意繼續ニ係ルヲ以テ刑法第五十五條ニ則リ一罪トシ所定ノ罰金刑ヲ選擇シ該刑ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金五百圓ニ處シ同法第十八條ニ依リ右罰金ヲ完納スル能ハサル場合ノ勞役場留置期間ヲ定メ主文表示ノ押收物件ハ被告人カ山田増太郎ヨリ判示ノ如ク供與ヲ受ケタル金二百圓ノ一部ナルヲ以テ衆議院議員選舉法第一百四條前段ニ依リ之ヲ沒收シ其ノ餘ノ百圓ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ同條後段ニヨリ被告人ヨリ之ヲ追徴スヘキモノトス

### ○理由

辯護人北井波治目上告趣意書第一點原判決ハ罪トナラサル事實ヲ罰シタル不法アリ原判決理由ノ前段

ニ「候補者岩崎幸治郎ノ爲演說ニヨル選舉運動ヲナシタルモノナルトコロ同月二十七日云々前記候補者ノ當選ヲ得セシムル目的ヲ以テ選舉運動ヲナス事ノ報酬トシテ供與セラレタル金二百圓ヲ其ノ情ヲ知リテ受領シ以テ供與ヲ受ケタリ」ト說明シ選舉法第一百十二條第一號ヲ適用セラレタルモ元來被告人ハ選舉委員又ハ事務員ニアラス原判決認定ノ如ク演說ニノミ依ル選舉運動ヲ爲スコトヲ承諾シ之ニ對スル賞費報酬トシテ二百圓カ受授アリシコト記録ニ徵シ明カナリ即チ山田増太郎ヨリ提供セラレシトキ一旦之ヲ拒絶シタルニ拘ラス増太郎ハ演說スルニモ自動車賃ヲ要スルト稱シ強ヒテ交附セラレシモノナリ上告辯護人ハ本來判示ノ事實ハ罪ヲ構成セサルモノト信ス十數日間晝夜兼行ニテ演說セル勞務ニ對スル相當ノ對價ナルヘシ若シ斯ノ如キヲ罰センカ各地至ル處ノ應援辯士ハ悉ク違反者トナリ候補者以外ニハ政見發表ナス能ハス何人カ自辨自費ヲ以テ晝夜十數日モ演說スルモノアラン遂ニ選舉競争ニ於ケル唯一ノ武器タル言論戰ハ行ハレサルニ至ル選舉法罰則ノ精神ハ蓋シ如斯究屈ナルモノニアラス而シテ選舉法第九十七條ニ依レハ「演說又ハ推薦狀ニ依リ選舉運動ヲ爲ス者ニモ選舉委員ト同シク選舉運動ニ要スル飲食物、船馬車ノ給與又ハ旅費休泊料其ノ他官費ハ辨償ヲ受クルコトヲ得」トアリ被告人ノ如キ身分地位ヲ有シ且候補者ノ代リトシテ十數日晝夜ノ演說ヲ依頼セル辯士ニ對シ上記ノ支辨ヲ豫算シ山田増太郎カ金二百圓ヲ交附シタルハ當然ノ處置ト謂ハサルヲ得スト云ヒ」同第二點原判決ハ刑ノ適用ヲ誤レリ(イ)原判決刑ノ適用ニ至リ「法律ニ照スニ被告人ノ判示(一)ノ所爲ハ衆議院

議員選舉法第十二條第一號ニ「トアリ同號ハ讀シテ字ノ如ク何人タルヲ問ハス選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ云々金錢ノ供與ヲ爲シタルモノヲ罰スルニアリ本件ノ場合ハ山田増太郎カ金錢ヲ被告人ニ供與シタルモノニシテ被告ハ供與者ニアラス亦選舉人又ハ選舉運動者ニアラス然レハ本號ヲ適用スヘキ主體タラス(ロ) 原判決ニ「判示(二)ノ所爲ハ同條第四號ニ各該當スルトコロ判示(二)ノ所爲ハ一個ノ所爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段ヲ適用シ最モ重キ」云々ト説明セラルルモ同條ノ適用ヲナセルコト不法ナリ判示事實ハ被告カ二月十一日頃自宅ニテ奥野常次郎中村岩太郎川口徳三ノ三名ニ對シ金一百圓ヲ渡シタルニアリ此ノ事實ハ一箇ノ所爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノニアラス一個ノ所爲ニシテ一箇ノ罪名ナリ即チ同日同所ニ於テ同一ノ目的ニ因リ被告ヨリ三名ニ金一百圓ヲ渡シタル單純ナル選舉法違背行爲ニシテ數箇ノ罪名ナルモノ何レニアリヤ數箇ノ罪名ニ觸ルルトハ例ヘハ屋内竊盜ニ於テ竊盜罪ト家宅侵入罪ニ觸ルルカ如キヲ云フ本件ハ選舉法違犯ノ一所爲ニシテ選舉法違反ノ一罪ニ觸ルルノミ受領者三名アリト雖何等罪名ヲ異ニセス亦何レモ輕重ナシ然ルニ重キニ因ル法條ヲ適用セルハ不法ト言ハサルヲ得ス(ハ) 選舉法第十二條第四號ノ主體ハ供與者ニアラス受與者ニアリ同條第一號ト全ク反ス判示第二ノ所爲ハ供與者タル被告ヲ罰シ受與者タル三人ニアラス然ラハ第十二條第一號ヲ適用スヘキモノナルニ拘ハラヌ同條第四號ヲ適用シタルハ全ク誤リタルモノナリト云フニ在リ○仍テ案スルニ原判示ニ依レハ被告人ハ犯意ヲ繼續シテ

## 【要旨】

(一) 衆議院議員候補者岩崎幸治郎ノ爲ニ演說ニ依ル選舉運動ヲ爲シ之カ報酬トシテ金二百圓ノ供與ヲ受ケ(二) 前記候補者ヲシテ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ奥野市次郎外二名ニ對シ同候補者ノ爲選舉運動ヲ爲スコトノ報酬トシテ金一百圓ヲ供與シタルモノニシテ其ノ供與ハ一箇ノ行爲ヲ以テシタルモノナルコト原判文ヲ通讀シテ之ヲ知ルヲ得ヘク其ノ侵害スル法益ハ選舉ニ關スル自由公正ナル公共的單一ノ利益ナルヲ以テ右三人ニ對スル供與ハ之ヲ包括的ニ觀察スルヲ妥當トス然レハ右第一ノ行爲ニ對シテハ衆議院議員選舉法第十二條第一項第四號第二ノ行爲ニ對シテハ同法條第一項第一號ヲ適用スヘキモノナレハ原判決ニ於テ第一ノ行爲ニ付前示法條第一項第一號ヲ第二ノ行爲ニ付同法條第一項第四號刑法第五十四條第一項前段ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ違法アルコト洵ニ所論ノ如シ然レトモ原判決カ衆議院議員選舉法第十二條第一項所掲ノ號數ニ付適用ヲ誤ルモ之カ爲法定刑ニ異同ヲ生スルコトナク又前示ノ如ク包括的ニ觀察スヘキ右第二ノ行爲ニ付原判決ハ刑法第五十四條第一項前段ヲ適用シタルモ之カ爲被告人ノ罪責ニ差異ヲ生スルコトナキヲ以テ以上ノ違法ハ原判決ニ影響ヲ及ボササルコト明ナリ隨テ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス又記錄ヲ查スルニ敍上事實ノ認定ニ付重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ル顯著ナル事由ナシ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

○水利妨害被告事件 (昭和四年(九)第二二七號 棄却)

(昭和四年(九)第二二七號 同年六月三日第二刑事部判決)

〔上告人〕 被告人 鈴木久作 辯護人

〔平松市藏 本屋彌三郎〕

〔第一審〕 福島地方裁判所若松支部 〔第二審〕 宮城控訴院

○判示事項

流水使用權ト水利妨害罪

○判決要旨

公共ノ水路ヨリ一私人ノ所有地ヲ通過シテ流下スル水ヲ下流ニ於テ慣習上使用スル權利ヲ有スル者アル場合ニ上流地所有者力故意ニ水路ヲ壅塞シテ流水使用ノ途ヲ杜絶シタルトキハ水利妨害罪ヲ

構成ス

〔參照〕 刑法第二百二十三條 堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行

爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓

以下ノ罰金ニ處ス

民法第二百十九條 溝渠其他ノ水流地ノ所有者ハ對岸ノ土地カ他人ノ所有ニ屬スル

トキハ其水路又ハ幅員ヲ變スルコトヲ得ス

兩岸ノ土地カ水流地ノ所有者ニ屬スルトキハ其所有者ハ水路及ヒ幅員ヲ變スルコ

トヲ得但下口ニ於テ自然ノ水路ニ復スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定被告人及辯護人ノ主張ニ對スル判斷竝ニ法律ノ適用ヲ爲シ被告

人ヲ懲役四月ニ處シ二年間刑ノ執行ヲ猶豫スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

福島縣大沼郡旭村坂内ハルイ横山半平鈴木忠藏坂内泉眞部儀作等ハ各所有耕作セル同村大字三寄字大

道端宇松原字藥師堂所在ノ水田約三町歩ノ灌漑用水トシテ同村博士街道ニ沿ヒテ流ルル新堀ヨリ被告

人所有ノ同村大字三寄字馬之墓六百七十九番ノ畑地内ヲ流下セル水路ニヨリテ二十年以上引續キ流水

ヲ使用シ來タリ以テ同地方ノ慣行ニ基キ流水使用ノ權利ヲ取得シタルモノナリ從テ被告人モ右下流田

地ノ所有者ニ對シテハ猥リニ流水ノ使用ヲ妨クルヲ得サル狀況ナリシ處慢不遜ナル被告人ハ該狀況

流水使用權ト水利妨害罪

ヲ認識セルモ是レ固ヨリ其ノ意ニ滿タザル所ナルト且ツハ堀内ハルイヲ焚燬ニ對シ宿怨禁シ難キモノアリシヨリ大正十五年四月十八日右所有畑地内ノ箇所ニシテ同所ヨリ約數十間下流ニ在ル前記堀内ハルイ等ノ田地ニ灌溉スヘキ唯一ノ水路(幅約一尺五寸深サ約一尺二寸)ヲ俸久三久伍ノ兩名ニ命ジ漫リニ土砂ノ以テ長サ三間程埋沒壅塞シ因テ以テ前記堀内ハルイ等ヲ流水使用ノ途ヲ杜絶シ其ノ水利ヲ妨害シタルモノナリ

被告人及辯護人ハ本件用水路ハ被告人ノ所有畑地ニ附屬スル衛堀ナレハ被告人ニ於テ任意之ヲ閉塞スルモ所有權ノ行使ニ外ナラサルヲ以テ犯罪ヲ構成セサル旨辯疏スレトモ本件用水路カ假リニ被告人主張ノ如ク衛堀ナリトスルモ之カ流水ヲ堀内ハルイ外數名カ多年灌溉用水トシテ使用シ以テ流水使用ノ權利ヲ取得セルモノナルコト前説明セル所ナルカ故ニ該水路カ被告人ノ衛堀タルト否トヲ問ハス判示ノ如ク漫リニ之ヲ埋沒壅塞シテ堀内ハルイ等ノ流水使用ヲ杜絶セハ水利妨害罪ヲ構成スルヤ勿論ナルカ故ニ被告人及辯護人ノ右抗辯ハ理由ナシトシテ排斥ス

法律ニ照スニ被告人ノ行爲ハ刑法第百二十三條ニ該リ一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ同法第五十四條第一項第十條ヲ適用シ犯情重キ堀内ハルイニ對スル水利妨害罪ノ刑ニ從ヒ所定ノ懲役刑ヲ選擇シ其ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役四月ニ處スヘク而シテ情狀ニ因リ刑ノ執行猶豫ヲ與フルヲ相當ト認メ同法第二十五條ニ則リ二年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス

○ 理 由

辯護人平松市藏本屋彌三郎上告趣意書第二點原判決ハ法律ノ適用ヲ誤リ且判決ニ理由ヲ附セス及之ニ齟齬アルモノニシテ刑事訴訟法第四百十條ノ十九ニ該當スル違法アルモノナリ前點詳述スルカ如ク係争堀カ被告人所有畑地内ニ存スル所謂衛堀ト稱スル私有堀ナルコトハ明ニシテ前記第一點冒頭掲記ノ判示ニヨルモ亦既ニ係争堀カ被告人ノ所有畑地内ニ存在スルコトヲ認メタルモノナリ此ノ趣旨ニ從ヘハ係争堀ハ被告人主張ノ所謂衛堀トシテ井戸餘水排泄ノ私有堀ニシテ其ノ溝渠カ他人ノ用水路ニアラサルコトノ趣旨ヲ認容シタルモノトナリ從テ其ノ埋沒行爲ハ自己ノ有スル處分權ノ行使トシテ爲サレ且他人ノ用水路ヲ埋沒シタルモノニアラサルモノト推論セラレヘキコト當然ノ筋合ナリ故ニ水利權ニ關スル判示事實及妨害行爲意思ノ内容タル此ノ事實ノ認識ヲ斷定スルニハ須ラク該私有堀カ變シテ公用水路トナリタル事實若ハ私有堀ナルモ尙下流水田所有者カ之ニ付合意上又ハ地役的用水權ヲ取得シタル原因事實ヲ特ニ判示セサル限り被告人ノ行爲ノ違法性ヲ斷スルコト能ハサルヤ法律上當然ノ理ナリ然ルニ原判決ハ此ノ點ニ付單ニ二十年以上引續キ流水使用ヲ爲シ來リタルヨリ同地方ノ慣行ニ基キ水利權ヲ得タリト云フニ止マリ同地方ニ用水權ニ付如何ナル權利取得ノ慣行アルカノ事實ヲ認定スルコトナシ而モ尙原審ニ於テ被告人及辯護人カ私有堀ヲ埋立テタルバ所有權ノ行使ニシテ水利妨害罪ヲ構成セサル辯明ニ對シ原判決ハ其ノ理由未段ニ於テ判示水田所有者等カ多年其ノ流水ヲ使用シ以テ流

水使用ノ權利ヲ取得シタル以上ハ其ノ墮没行爲ハ水利妨害罪ヲ構成スル旨ヲ説明シ以テ右辯明ヲ斥ケ  
 タリ則チ原判決ハ單ニ多年流水ヲ使用シタリトノ一事ニヨリ他ニ何等ノ理由ヲ示スコトナク抽象的ニ  
 地方的慣行ノ存在及之ニ基ク水利權發生ノ事實ヲ認定シタルニ止マルモノニシテ未タ用水權ノ發生及  
 取得ノ原因トナルヘキ具體的事實及其ノ慣行ヲ認定セサルモノナリ而モ此ノ如キ權利發生ノ原因タル  
 法律事實ト認ムヘカラサル事實ヲ認定シ以テ犯罪行爲ヲ斷定シタルハ權利取得ニ關スル法律ノ適用ヲ  
 誤リタルノミナラス其ノ事實認定ノ理由ニ於テ前提ト結論トニ齟齬アルト共ニ判決ニ理由ヲ附セサル  
 違法アルニ歸スルモノナリト云フニ在レトモ○原判示ニ依レハ判示水路ノ一部カ被告人所有地ナル判  
 示畑地ヲ通過セル事實明瞭ナルモ其ノ部分カ所謂衝堀トシテ判示畑地所在ノ井戸餘水排泄ノ爲設ケラ  
 レタル専用堀ナルコトハ原判決ノ認メサル所ナル。同時ニ原判決ハ判示村ノ用水堀ナル新堀ヲ流ルル  
 水カ右新堀ヨリ被告人ノ右所有地ヲ經テ坂内ハルイ等所有ノ判示田地附近ニ至ル水路ヲ流下セル事實  
 ヲ認メタルモノナルコト原判文ノ全旨趣ニ徹シ明瞭ナリ而シテ村ノ用水堀ノ如キ公共ノ水路ヨリ流出  
 スル水ハ一私人ノ所有地ヲ通過シテ流下スル場合ト雖下流ニ於テ多年慣行トシテ之ヲ田地ニ灌漑スル  
 者アルトキハ其ノ使用者ニ流水使用ノ權利ヲ生スルコトハ我邦ノ慣習上認ムル所ナレハ原判決ニ於テ  
 坂内ハルイ等カ其ノ所有田地ノ灌漑用水トシテ二十年以上引續キ右新堀ヨリ流下スル判示水路ノ流水  
 ヲ使用シ來リ慣習ニ依リ其ノ流水使用權ヲ取得シタル事實ヲ證據ニ依リ認メタルハ正當ニシテハルイ

## 【要旨】

等ニ於テ判示水路ノ流水ヲ使用スル權利ヲ有スル以上被告人ハ其ノ水路中被告人ノ所有地ヲ通過スル  
 部分ト雖之ヲ壅塞シテハルイ等ノ流水ノ使用ヲ妨クルコトヲ得サルハ民法第二百十九條ノ律意ニ照シ  
 明瞭ナレハ被告人ニ於テ其ノ事情ヲ認識シナカラ被上田地ニ灌漑スヘキ唯一ノ水路タル判示水路ノ被  
 告人ノ所有地ヲ通過スル部分ヲ壅塞シテハルイ等ノ右流水使用ノ途ヲ杜絶シタルコト原判示ノ如クナ  
 ル以上ハルイ等ノ右流水使用權ヲ侵害シテ水利ヲ妨害シタルモノニ外ナラサレハ其ノ行爲ハ刑法第百  
 二十三條ノ水利妨害罪ヲ構成スルコト勿論ナルニヨリ原判決カ被上判示事實ヲ認メ被告人ヲ同罪ニ問  
 擬シタルハ正當ニシテ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由  
 ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彦三郎關與

○昭和四年六月大審院刑事部裁判  
長及部員氏名表

第一刑事部

裁判長

判事

牧野菊之助

院長

部員

判事

藤波元雄

判事

宇野要三郎

判事

遠藤誠

判事

草野豹一郎

判事

高瀬幸七郎

本部ノ開廷

火曜日

金曜日

本部ノ所管

上告其他事件毎ニ順次平分ス

但未済事件ハ前年度受理ノ部ニ於テ引

續キ結了ス

第二刑事部

裁判長

部長

判事

豊島直通

部員

判事

横村米太郎

判事

新保勘解人

判事

尾佐竹猛

判事

織田嘉七

本部ノ開廷

月曜日

木曜日

本部ノ所管

上告其他事件毎ニ順次平分ス

但未済事件ハ前年度受理ノ部ニ於テ引

續キ結了ス

等ニ於テ判示水路ノ流水ヲ使用スル權利ヲ有スル以上被告人ハ其ノ水路中被告人ノ所有地ヲ通過スル部分ト雖之ヲ壅塞シテハルイ等ノ流水ノ使用ヲ妨クルコトヲ得サルハ民法第二百十九條ノ律意ニ照シ明瞭ナレハ被告人ニ於テ其ノ事情ヲ認識シナカラ絞上田地ニ灌溉スヘキ唯一ノ水路タル判示水路ノ被告人ノ所有地ヲ通過スル部分ヲ壅塞シテハルイ等ノ右流水使用ノ途ヲ杜絶シタルコト原判示ノ如クナハ以上ハルイ等ノ右流水使用權ヲ侵害シテ水利ヲ妨害シタルモノニ外ナラサレハ其ノ行爲ハ刑法第二百二十三條ノ水利妨害罪ヲ構成スルコト勿論ナルニヨリ原判決カ絞上判示事實ヲ認メ被告人ヲ同罪ニ問擬シタルハ正當ニシテ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス  
檢事平井彦三郎關與



○偽證教唆被告事件(昭和四年(九)第四二七號 同年五月三十日第二刑事部判決) 棄却

【上告人】 被告人 松川喜藏 辯護人

吉田政之助  
川廣之  
市藤川  
工藤吉  
菅原欽治

【第一審】 一關區裁判所 【第二審】 盛岡地方裁判所

○判示事項

證據調請求却下ノ決定ト辯護人ニ對スル送達——刑事訴訟法第二百一條第一項第三號前段ニ該當スル場合

○判決要旨

一同一被告人ノ辯護人中ノ或者ヨリ公判廷外ニ於テ證據調ノ請求

證據調請求却下ノ決定ト辯護人ニ對スル送達 刑事訴訟法第二百一條第一項第三號前段ニ該當スル場合

ヲ爲シ裁判所カ却下ノ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ請求ヲ爲ササル辯護人ニ決定ノ送達ヲ爲ササルモ不法ニ非ス【要旨第一】

二 證人カ現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アリトシテ有罪ノ確定判決ヲ受ケタル者ナルトキハ刑事訴訟法第二百一條第一項第三號ニ依リ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スヘキモノトス【要旨第二】

【參照】

刑事訴訟法第五十條 裁判ノ告知ハ公判廷ニ於テハ宣告ニ依リ之ヲ爲シ其ノ他ノ場合ニ於テハ裁判書ノ謄本ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

同法第二百一條 證人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スヘシ

- 一 十六歳未滿ノ者
- 二 宣誓ノ本旨ヲ解スルコト能ハサル者
- 三 現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アル者又ハ其ノ嫌疑アル者
- 四 第四百八十六條第一項ニ規定スル關係アルモノニシテ證言ヲ拒マサルモノ

五 第四百八十八條ノ場合ニ於テ證言ヲ拒マサル者

六 被告人ノ雇人又ハ同居人

前項第三號ノ規定ノ適用ニ付テハ犯人藏匿ノ罪、證憑湮滅ノ罪、偽證ノ罪、虛偽ノ鑑定、通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ノ犯人ハ其ノ本犯ノ共犯ト看做ス

第一項ニ掲クル者宣誓ヲ爲シタルトキト雖其ノ供述ハ證言タルノ效力ヲ妨ケラレルコトナシ

○事實

第二審ハ左記ノ事實ヲ認定シ刑法第六十九條第六十一條第一項ヲ適用シテ被告人ヲ懲役三月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ一關區裁判所昭和三年(ハ)第一八二號貸金請求事件ノ原告ナル處被告木村七平カ消滅時效ノ抗辯ヲ提出シタルヨリ玆ニ時效中斷ノ關係ヲ立證スル爲證人トシテ千葉吉太夫ノ喚問ヲ申請シ其ノ許可ヲ受クルヤ同年十一月一日東磐井郡薄衣村ナル右吉太夫居宅前ニ於テ同人ニ對シ該事件ニ付證人呼出狀ノ到着セルヤ否ヲ確メ同事件ニ付用談アルニヨリ自宅ニ來ルヘキ旨申入レ同月四日頃前記吉太夫カ同郡松川村ナル被告人宅ニ來ルヤ同所ニ於テ同人ニ對シ「來ル十二日證人トシテ裁判所ニ出頭セハ大正二年八月松川顯藏ノ依頼ヲ受ケ木村七平ノ子恒治郎方ニ貸金三百五十圓ノ支拂方ノ督促ニ行キ又

證據調請求却下ノ決定ト辯護人ニ對スル送達

刑事訴訟法第二百一條第一項第

三一

(21)

大正九年九月中ニモ右恒治郎方ニ右賃金ノ督促ニ行キタル處ニ同共同人ハ辨濟ノ猶豫ヲ乞ヒタル旨一  
虚偽ノ陳述ヲ爲サレタキヤウ依頼教唆シ因テ同人ヲシテ同月十二日一關區裁判所ニ於ケル右事件ノ證  
據調期日ニ證人トシテ宣誓ノ上右事實ノ虚構ニ係ルコトヲ知リナカラ其ノ旨趣ノ陳述ヲ爲サシメタル  
モノナリ

尙第二審ニ於ケル被告人ノ辯護人ハ工藤吉次 菅原勇 山田欽治 吉田政之助 市川廣治ノ五名ナル處第  
一回公判後昭和四年二月四日工藤 菅原 山田ノ三辯護人ヨリ公判廷外ニ於テ證人訊問ノ申請書ヲ提出  
シタルニ第二審ハ公判廷外ニ於テ同月九日付ヲ以テ右證人申請ヲ却下スル旨ノ決定書ヲ作成シ其ノ決  
定書ノ謄本ヲ辯護人工藤 菅原 山田等ニ送達シタルモ吉田 市川兩辯護人ニハ送達セサリシモノトス

○ 理 由

被告人上告趣意書第一點第一審裁判所ニ於テ被告松川喜藏ハ昭和三年十二月十九日辯護人トシテ菅原勇 吉田政之助兩名ヲ辯護人ニ  
選定シ各辯護人ト連署シテ其ノ届出ヲナシタリ而シテ右兩辯護人ハ同日盛岡地方裁判所へ民事辯論ノ爲出頭ニ付十九日ノ公判期日ヲ  
變更相成度旨右兩辯護人及被告喜藏連署ヲ以テ該公判期日變更申請ヲナシタリ然ルニ原裁判所ハ右申請ニ對シ何等ノ決定ヲ與ヘス且  
辯護人ヲ立會セシメスシテ公判ヲ開キ審理ヲ進メタル後ニ於テ「辯護人ヨリ公判期日變更申請アルヲ以テ之ヲ許容スル旨ノ決定ヲ言  
渡シタルハ不法ニ辯護權ノ行使ヲ制限シタル不當ノ判決ナリト云ヒ」同第二點第一審第三回公判ノ昭和三年十二月二十二日ニ於テ被  
告松川喜藏辯護人ヨリ證人トシテ千葉政右衛門菅原幸治佐藤昌一三名ヲ證人トシテ申請シタルニ千葉菅原ヲ採用シ尙職權ヲ以テ木村

七平ヲ訊問ストノ決定ヲ言渡シ第四回公判ノ十二月二十四日ニ在リテ千葉 菅原 木村ノ三證人ヲ訊問シタルノミニテ佐藤昌一ニ對ス  
ル許否ノ決定ヲ爲スコトナク其ノママ結審シ十二月二十八日言渡ヲ爲シタル第一審判決ハ刑事訴訟法第四百十條第十四號ニ該當スル  
不法アリ從テ此ノ不法アル第一審判決ニ基キ控訴ヲ進行シ審理判決ヲ爲シタル第二審判決モ亦不法ナリト云フニ在レトモ○控訴ハ事  
件ニ付覆審ヲ爲スモノニシテ控訴裁判所ハ全ク第一審ト獨立シテ審理ヲ爲シ且第一審判決ノ當否ニ關係ナク更ニ判決スヘキモノナレ  
ハ縱令本件第一審ノ訴訟手續ニ所論ノ如キ違法ノ點アリ延イテ第一審判決ノ不法ヲ來シタリトスルモ之カ爲原判決ヲ不法ナリト云フ  
コトヲ得サルヲ以テ論旨ハ何レモ理由ナシ

同第三點第二審ニ於テ吉田政之助 市川廣治兩人ハ辯護人トシテ選任セラレ被告喜藏ト連署シテ昭和四年二月四日盛岡地方裁判所刑  
事部ニ届出タタリ然ルニ右兩辯護人ヲ呼出スコトナク又立會セシメスシテ同日公判ヲ開キ審理ヲナシタルハ不法ニ辯護權ヲ制限シタ  
ル不當ノ判決ナリト云フニ在レトモ○裁判所ニ於テ既ニ公判期日ヲ定メ被告人ニ對シ召喚手續ヲ爲シタル後始メテ辯護人選任ノ書面  
ヲ提出シタル場合ニ於テハ辯護人ヲ特ニ其ノ期日ニ召喚スルノ要ナキコト當院判例ノ示ス所ニシテ記録ニ依レハ原審ハ公判期日ヲ昭  
和四年二月四日ト定メ被告人ニ對シ同日出頭スヘキコトヲ命シタル召喚狀ヲ同年一月十五日既ニ送達シ所論辯護人ハ右公判期日ノ當  
日ニ至リ始メテ辯護權ヲ提出シタルモノナルコト明ナレハ原審カ所論辯護人ニ對シ召喚手續ヲ爲スコトナク同日公判ヲ開キ審理ヲ爲  
シタルハ正當ニシテ所論辯護人カ其ノ公判ニ立會セサリシハ辯護人ノ懈怠ニ外ナラサレハ原判決ハ所論ノ如キ不法アルモノニ非ス論  
旨ハ理由ナシ

同第四點原審ニ於テ昭和四年二月四日付證據申請ヲ却下シタル決定謄本ヲ辯護人吉田政之助 市川廣  
治ニ送達セサルハ不法ナリ而シテ此ノ不法ナル訴訟手續ヲ看過シ審理ヲ遂行シ判決ヲナシタルハ不當  
ナリト云フニ在レトモ○同一ナル被告人ノ辯護人數人中ノ或者ヨリ爲シタル公判廷外ニ於ケル證據調  
ノ請求ヲ裁判所カ書面ヲ以テ却下ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ決定書ノ謄本ハ右請求ヲ爲ササル辯護

【要旨第一】

證據調請求却下ノ決定ト辯護人ニ對スル送達 刑事訴訟法第二百一條第一項第  
三號前段ニ該當スル場合

人ニ送達セサルモ不法ニ非ス記録ニ依レハ原審ニ於ケル被告人ノ辯護人ハ丁藤吉次菅原勇山田欽治吉田政之助及市川廣治ノ五名ニシテ所論證據申請ハ第一回公判後昭和四年二月四日工藤菅原山田ノ三辯護人ヨリ公判廷外ニ於テ書面ヲ以テ爲シタルモノニ係リ吉田市川兩辯護人ノ爲シタルモノニ非サルコト明ナレハ原審カ右證據調申請却下ノ決定ヲ爲スニ當リ其ノ決定書謄本ヲ吉田市川ノ兩辯護人ニ送達セサリシハ不法ニ非ス論旨ハ理由ナシ

同第六點原判決ハ被告ノ偽證據陳述ノ犯罪ヲ認メタル理由トシテ被告人ハ一關區裁判所昭和三年(ハ)第一八二號貸金請求事件ノ原告ナル處被告木村七平カ消滅時効ノ抗辯ヲ提出シタルヨリ茲ニ時効中斷ノ關係ヲ立證スル旨證人トシテ千葉吉太夫ノ喚問ヲ申請シ其ノ許可ヲ受ケルヤ同年十一月一日東野井郡薄衣村ナル右吉太夫宅前ニ於テ同人ニ對シ該事件ニ付證人呼出狀ノ到着セルヤ確メ同事件ニ付用談アルニヨリ自宅ニ來ルヘキ旨申入レ同月四日頃前記吉太夫カ同郡松川村ナル被告人宅ニ來ルヤ同所ニ於テ同人ニ對シ「來ル十二日證人トシテ裁判所ニ出頭セハ大正二年八月松川顯藏ノ依頼ヲ受ケ木村七平ノ子恒治郎方ニ貸金三百五十圓ノ支拂方ノ督促ニ行キ又大正九年九月中ニモ右恒治郎方ニ右貸金ノ督促ニ行キタル處二回トモ同人ハ辨濟ノ猶豫ヲヒタル旨」虛偽ノ陳述ヲ爲サレタキヤウ依願教唆シ因テ同人ヲシテ同月十二日一關區裁判所ニ於ケル右事件ノ證據調期日ニ證人トシテ宣誓ノ上右事實ノ陳述ヲ爲サレコトヲ知リナカラ其ノ旨趣ノ陳述ヲ爲サシメタルモノナリト示シタリ此ノ認定ニ依レハ松川顯藏ノ依頼ヲ受ケテ大正二年八月及大正九年九月中ノ二回督促ニ行キタル旨被告カ千葉吉太夫ニ依頼教唆シタリト云フニ在リ然レトモ松川顯藏ハ被告ノ父ニシテ同人ハ明治四十四年九月八日隱居ヲナシ被告ハ同日家督相續ヲ爲シタルモノナレハ松川顯藏ノ木村七平ニ對スル債權ハ相續ト同時ニ被告ニ移轉シ顯藏ハ債權者ニ非ス從テ顯藏ノ依頼ヲ受ケテ督促シタリト稱スル大正二年八月及大正九年九月ハ顯藏カ債權者ニ非サルコトハ勿論ナリ從テ債權者ニ非サル顯藏ヨリ依頼スヘキ管モナク又顯藏ヨリ督促シタレハトテ時効中斷ノ效力ヲ生スル筋合ナケレハ斯ル依願ヲ受ケタリト吉太夫ノ陳述ハ全然間違ナリ即原判決時効中斷ノ方法トシテ被告カ偽證據ヲ教唆シタリトノ事實ノ認定ハ意義ヲ爲

ササルモノトス若シ隱居相續ニ因リ被告カ該債權ヲ承繼シ債權者トナリ其ノ債權者タル被告ノ代理人タル父顯藏ノ依頼ヲ受ケテ催促セシメタル意味ナリトセハ此ノ委任代理ノ關係ヲ列示セサル可カラ然ルニ此ノ點ニ付調査審究スル所ナク漫然トシテ顯藏ノ依頼ヲ受ケ催促シタル據爲證ノ教唆ヲ爲シタルモノナリト認定シタルハ所謂判決ニ理由ヲ付セサル不法アルモノナリ(隱居相續ノ關係ヲ證明スル爲戸籍謄本ヲ添付ス)ト云フニ在レトモ○苟モ他人ニ對シ證人トシテ虛偽ノ陳述ヲ爲スヘキコトヲ囑託教唆シ因テ同人ヲシテ宣誓ノ上證人トシテ虛偽ノ陳述ヲ爲サシメタルトキハ偽證據陳述罪成立スルコト勿論ニシテ原判決示ノ如ク民事訴訟ノ原告カ同訴訟ノ證人ニ對シ證言ノ内容ヲ指定シテ虛偽ノ陳述ヲ爲スコトヲ依頼シ因テ同人ヲシテ證人トシテ宣誓ノ上右依頼ノ旨趣ニ基キ虛偽ノ證言ヲ爲サシメタル場合ト雖其ノ證言カ右民事訴訟ニ於ケル原告ノ主張ニ如何ナル影響ヲ及ボスヘキヤハ罪ト爲ルヘキ事實ニ非サルヲ以テ之ヲ判決ニ列示セサルモ理由ヲ付セサル不法アルモノト云フヲ得ス然ラハ原判決カ事實理由トシテ論旨所掲ノ如ク列示セル以上所論ノ點ニ付列示スル所ナキモ偽證據陳述罪ヲ斷スル判決ノ事實摘示トシテ何等缺クル點ナキヲ以テ所論ノ如キ不法アルモノト云フヲ得ス論旨ハ理由ナシ

辯護人赤井幸夫上告趣意書第一點原判決カ證據トシテ引用シタル千葉吉太夫ニ對スル第二回檢事廳取書ハ檢事カ既ニ右千葉吉太夫ヲ偽證罪トシテ起訴シタル後ノ作成ニ係ルモノナルコト記録上明ナル處ナリトス然リ而シテ事件起訴後ニ於テ檢事カ被告人ニ付取調ヲ要スル事項アルトキハ裁判所ニ對シ準備手續トシテ訊問ヲ求ムルカ若ハ公判ニ於テ其ノ取調ヲ求ムヘキモノニシテ(刑事訴訟法第三百二十四條同三百三十八條)此ノ手續ニ依ラス自ラ被告人ヲ取調フルカ如キハ違法ノ處分ナリ從テ斯ル違法ノ處分ニヨリテ作成セラレタル前示廳取書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ○被告事件ノ起訴後ニ於テ檢事ノ作成シタル廳取書ト雖證據力ヲ有セサルモノニ非サルコト當院判例(昭和三年(レ)第一七九號同年三月十六日判決參照)ノ示メ所ナレハ原判決カ所論檢事ノ廳取書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ニ非ス論旨ハ理由ナシ

同第二點原判決ハ第二審ニ於ケル證人千葉吉太夫ノ證言ヲ引用シタリ而シテ右ハ上告人ト共犯ノ關係アルモノナリトノ理由ニヨリ官誓ヲ爲サシメスシテ訊問シタルモノナルコト記録上明ナル處ナリトス

證據調請求却下ノ決定ト辯護人ニ對スル送達 刑事訴訟法第二百一條第一項第 三號前段ニ該當スル場合

【要旨第二】

然レトモ同人ハ第一審ニ於テ有罪ノ判決ヲ受ケ右判決ハ既ニ確定シタル後ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百一十條第一項第三號ニ所謂「現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アル者又ハ其ノ嫌疑アル者」ニ該當セサルヲ以テ右證人ニ宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問シタルハ違法ナリ從テ該證人ノ證言ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト信ス(平沼博士著新刑事訴訟法要論第三七五頁參照)ト云フニ在レトモ○現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アリトシテ有罪ノ確定判決ヲ受ケタル者ハ刑事訴訟法第二百一十條第一項第三號ニ所謂現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アル者ニ該當スルコト勿論ナレハ之ヲ證人トシテ訊問スルニハ同條第一項本文ノ規定ニ依リ宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問スヘキモノナルコト疑ヲ容レヌ蓋裁判所カ證人ヲ訊問スルニ當リ之ニ宣誓ヲ爲サシムルハ依テ以テ其ノ證言ノ真正ヲ確保スル爲ニ外ナラスシテ同條第一項及第二項ニ掲クル者ニ宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問スヘキコトヲ命シタル法律ノ旨趣ハ此等ノ者ニ宣誓ヲ爲サシムルモ其ノ證言ノ真正ヲ確保スルニ足ラスト認メタルニ由ルモノナリト解スヘキト同時ニ同條第一項第三號ハ汎ク現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アル者ト規定シ現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アリトシテ有罪ノ確定判決ヲ受ケタル者ヲ除外シタル旨趣ノ見ルヘキモノナキノミナラス彼上共犯ノ關係アリトシテ有罪ノ確定判決ヲ受ケタル者ノ如キハ之ニ宣誓ヲ命スルモ其ノ證言ノ真正ヲ確保シ難キコト多言ヲ要セサレハナリ然ラハ原審カ本件ニ付被告人ト共犯ノ關係アリトシテ第一審ニ於テ

有罪ノ判決ヲ受ケ其ノ判決確定シタル第一審相被告人千葉吉太夫ヲ宣誓ヲ爲サシメス證人トシテ訊問シタルハ適法ナレハ原判決カ同證人ノ供述ヲ證據トシテ引用シタルハ違法ニ非ス論旨ハ理由ナシ(其他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事平井彦三郎關與

○治安維持法違反被告事件 (昭和四年(九)第三八九號 棄却)  
(同年五月三十一日第四刑事部判決)

〔上告人〕 被告人 山名正實 松岡二太郎 荒量太助 吉田吉之助 伏見武夫  
 〔辯護人〕 神道寛一 中村高次 上村辰治 布施辰治

〔第一審〕 旭川地方裁判所 〔第二審〕 札幌控訴院  
 治安維持法ニ所謂團體ノ意義

○判示事項

治安維持法ニ所謂國體ノ意義

○判決要旨

我帝國ハ萬世一系ノ天皇君臨シ統治權ヲ總攬シ給フコトヲ以テ其ノ國體ト爲シ治安維持法ニ所謂國體ノ意義亦此ノ如ク解スヘキモノトス

【參照】大正十四年法律第四十六號治安維持法第一條 國體ヲ變革シ又ハ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シ又ハ情ヲ知リテ之ニ加入シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス 前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

昭和三年勅令第二百二十九號治安維持法中改正ノ件第一條 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處シ情ヲ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス 私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

第二審判決ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人正實ヲ懲役五年被告人二十世武夫ヲ各懲役三年被告人量太郎 吉之助ヲ各懲役二年ニ處シ各被告人ニ對シ何レモ未決勾留日數中百五十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

近時我國ニ於ケル労働者農民ノ階級意識深厚トナリ労働運動熾烈トナルヤ該運動ハ經濟的領域ヨリ漸ク政治的領域ニ進出セントスルニ至リ曩ニ大正十一年頃堺利彦等ノ主唱ニ基キ現時ノ資本主義的社會組織ヲ變革シ勞農獨裁ノ國體ヲ樹立シ以テ共產制社會ノ實現ヲ目的トスル日本共產黨ナル秘密結社ノ組織ヲ見ルニ至リタルカ同共產黨ハ翌大正十二年檢舉ニ遇ヒテ一時其ノ活動ハ屏息シタル處茲ニ復其ノ再興ヲ企ツルモノアリ大正十五年十二月四日福本和夫佐野文夫渡邊政之輔三田村四郎等同志十七名ハ山形縣南置賜郡山上村大字五色温泉宗川旅館ニ秘カニ集合シ秘密結社日本共產黨ノ創立大會ヲ開催シ立憲宣言組織規約ヲ議決シ日本共產黨ハ國際共產黨(コンミュニテルン)ノ一支部タルヘキコト職業的革命家ノミヲ以テ結成セラルヘキコト組織ノ原則ハ民主的中央集權ニ則ルヘキコト等ヲ定メ且中央委員補助委員統制委員ヲ選任シ以テ再ヒ日本共產黨ヲ組織シ亞テ翌昭和二年春同黨ノ幹部露西亞ニ入り國際共產黨ノ批判ヲ受ケ同年十一月歸國スルヤ右批判ニ基キ更ニ政治テラゼ組織テラゼヲ作成シ

治安維持法ニ所謂國體ノ意義

革命的手段ニヨリ政治上我大日本帝國ノ大本タル君主國體ヲ變革シ無産階級獨裁ノ政府ヲ樹立シ依テ經濟上私有財産制度ヲ否認シ凡ユル生産機關ヲ社會ノ共有トスル所謂共產主義社會ヲ實現セントスル同黨根本ノ目的ノ下ニ其ノ政綱組織ヲ新ニシ先ツ當面ノスローガン(政綱)トシテ(一)戦争ノ危機ニ對スル闘争(二)支那革命ノ不干渉(三)ソヴェエツト露西亞ノ防衛(四)殖民地ノ完全ナル獨立(五)君主制ノ撤廢(六)議會ノ解散(七)十八歳以上ノ男女ノ普通選舉(八)言論出版集會結社ノ自由(九)一切ノ反勞働者法ノ撤廢(十)失業保險(十一)八時間勞働(十二)宮廷寺院地主等ノ土地無償沒收(十三)高度ノ累進所得稅ヲ掲ケ次ニ組織トシテハ其ノ末端タル細胞ヲ基礎トシ順次ニ地區委員會地方委員會中央委員會ノ諸機關ヲ備ヘ細胞ハ黨ノ政策ヲ實行スル行動機關ニシテ其ノ他ハ順次ニ之ヲ統制指導スルコトヲ其ノ任務トナシ尙右ノ外從屬的機關トシテ黨外ノ大衆團體ヲ黨ノ主義ニ指導教化スルコトヲ任務トスルフラクシヨシヲ設置シ斯クテ全國各地ニオルガナイザー(組織者)ヲ派遣シ黨ノ主義宣傳黨員ノ獲得等愈々其ノ活動ヲ開始シ當北海道ニハ昭和三年一月中央補助委員タル三田村四郎カオルガナイザートシテ派遣セラレタル處

第一被告人山名正實ハ從來社會科學ヲ研究シタル結果マルクス共產主義ニ共鳴シ我國ノ資本主義制度ニ不滿ヲ抱キ殊ニ北海道ニ於ケル農民ノ悲惨ナル状態ヲ慨シ一身ヲ農民運動ニ投シ昭和二年三月日本農民組合北海道聯合會書記トナリ争議部ヲ擔任シ小作争議等ニ携サハリ舊勞働農民黨ニ籍ヲ置キ農民

運動ニ從事シタルモノニシテ

(一)昭和三年一月中札幌市白石中川寅吉方ニ於テ北海道地方オルガナイザータル三田村四郎ト會見シ同人ヨリ日本共產黨ニ加入スヘキコトヲ勸誘セラレ同黨カ前記ノ如ク國體ヲ變革シ私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル秘密結社ナルコトヲ知りナカラ之ヲ承諾シ同年一月末頃黨本部ノ承諾ヲ得テ同黨ニ加入シ旭川地區代表者兼日本農民組合北海道聯合會内ノフラクシヨシヲ統制スヘキフラクシヨシビユイローニ擬セラレ

(二)同黨ノ目的ヲ達成スル意圖ノ下ニ(イ)昭和三年一月末頃札幌市白石中川寅吉方ニ於テ三田村四郎正木清沼山松藏武内清等ト會見シ衆議院議員選舉ニ對スル日本共產黨ノ對策トシテ其ノスローガンヲ民衆ニ宣傳スル方法ヲ相諮リ以テ目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ(ロ)同年三月五日頃札幌市北七條西十五丁目三田村四郎方ニ於ケル各地區代表會議ニ參加シ三田村四郎出口右源太沼山松藏武内清渡邊利右衛門等ト日本共產黨ノ北海道ニ於ケル組織活動ヲイゼ及ブルジョア代議機關ニ於ケルプロレタリア代表ノ態度ニ關スル條件ヲ決議シ以テ右目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ(ハ)昭和三年一月ヨリ同年三月迄ノ間ニ三十數回ニ互リ三田村四郎ヨリ手渡シ又ハ郵送セラレタル日本共產黨中央機關紙赤旗北海道地方機關紙北海道通信(後ニ北海勞働者ト改題)日本共產黨北海道地方組織活動ヲイゼブルジョア代議機關ニ於ケルプロレタリア代表ノ態度ニ關スル決議ヲ安住豊及被告人松岡二十世荒岡庄太

郎荒量太郎吉田吉之助伏見武夫原審相被告人荒哲夫山本作二合田角逸等ニ秘密ニ手渡シ又ハ郵送シ尙昭和三年一月中旬樺戸郡月形ニ於テ安住豊ニ昭和三年二月初頃旭川市九條通日章館ニ於テ被告人松岡二十世ニ昭和三年二月初頃旭川市八條通七丁目某飲食店ニ於テ被告人荒岡庄太郎ニ昭和三年二月初頃旭川市三條通九丁目日本農民組合北海道聯合會事務所ニ於テ被告人荒量太郎吉田吉之助原審相被告人荒哲夫ニ昭和三年三月初頃右事務所ニ於テ被告人伏見武夫ニ夫々日本共產黨ニ入黨スヘキコトヲ勸誘シ執レモ其ノ頃其ノ承諾ヲ得テ前記目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ(ニ)昭和三年二月初頃旭川市三條通九丁目日本農民組合北海道聯合會事務所ニ於テ農村細胞結成ノ爲被告人松岡二十世ニ對シ東旭川方面ニ於ケル文書ノ配布及黨員ノ獲得方ヲ依頼シ其ノ承諾ヲ得テ前記目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ(ホ)昭和三年二月頃旭川市三條通九丁目日本農民組合北海道聯合會事務所ニ於テ被告人荒量太郎ニ對シ廣瀬仙太郎被告人吉田吉之助ト共ニ鷹栖村ニ於ケル農村細胞ヲ結成スヘキコトヲ依頼シ其ノ承諾ヲ得テ前記目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ(ヘ)昭和三年三月十日頃及同月二十日頃ノ二回ニ被告人伏見武夫ニ對シ日本共產黨中央機關紙赤旗日本共產黨北海道地方機關紙北海労働者日本共產黨北海道地方組織活動トイゼブルジョア代議機關ニ於ケルプロレタリア代表ノ態度ニ關スル決議等ノ配布方ヲ依頼シ其ノ承諾ヲ得テ前記目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ(ト)昭和三年三月十二三日頃旭川市師團道路某餅屋ニ於テ原審相被告人山本作二ニ對シ旭川市合同労働組合内ノ日本共產黨ノ

フラクシヨシタランコトヲ依頼シ其ノ承諾ヲ得テ前記目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シタルモノナリ

第二被告人松岡二十世ハ東京帝國大學在學中新人會ニ加入シ社會科學ヲ研究シ大正十四年卒業大山郁夫主唱ノ政治研究會員トナリ教育部調査部ヲ擔任シ其ノ後渡道シ日本農民組合北海道聯合會書記トナリ又舊労働農民黨中央執行委員トシテ農民運動ニ從事シタルモノナル處

(一)昭和三年二月初頃旭川市九條通九丁目日章館ニ於テ被告人山名正實ヨリ日本共產黨ニ加入スヘキコトヲ勸誘セラレ同黨カ我國體ヲ變革シ私有財産制度ノ否認ヲ目的トスル秘密結社ナルコトヲ知りナカラ之ヲ承諾シ同年三月七日頃黨本部ヨリノ承諾ヲ受ケテ同黨ニ加入シ

(二)昭和三年二月初頃旭川市三條通九丁目日本農民組合聯合會事務所ニ於テ被告人山名正實ヨリ農村細胞結成ノ爲東旭川方面ニ於ケル黨機關紙ノ配布及黨員ノ獲得方ヲ依頼セラルルヤ同黨ノ目的達成ノ意圖ノ下ニ之ヲ承諾シ以テ右目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ次テ其ノ頃被告人山名正實ヨリ受取リタル日本共產黨ノ機關紙ヲ東旭川村戸島富松諸橋龜次郎ニ秘密ニ交付シタルモノナリ

第三(上告被告人ニ關係ナキ事實ナルヲ以テ略ス)

第四被告人荒量太郎ハ從來農業ニ從事シ農村ノ悲惨ナル状態ヲ體驗シ現時ノ經濟組織ニ不満ヲ抱キ日本農民組合北海道聯合會假執行委員長同聯合會鷹栖支部常任執行委員ニシテ舊労働農民黨ニ加入シ農



民運動ニ從事シタルモノナル處

三二四 (九四)

(一) 昭和三年二月初頃旭川市三條通九丁目日本農民組合北海道聯合會事務所ニ於テ被告人山名正實ヨリ日本共產黨ニ加入スヘキコトヲ勸誘セラレ同黨カ前記ノ如ク私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル秘密結社ナルコトヲ知リナカラ之ヲ承諾シ同年三月七日頃黨本部ヨリノ承認ノ通知ヲ受ケテ同黨ニ加入シ

(二) 昭和三年二月中前示聯合會事務所ニ於テ被告人山名正實ヨリ廣瀬仙太郎被告人吉田吉之助ト共ニ鷹栖村ニ於ケル農村細胞ヲ結成スヘキコトヲ依頼セラルルヤ同黨ノ目的達成ノ意圖ノ下ニ之ヲ承諾シ以テ右目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シタルモノナリ

第五被告人吉田吉之助ハ從來鷹栖村ニ於テ農村ニ從事シ現時ノ資本主義制度ニ不滿ノ念ヲ抱キ日本農民組合北海道聯合會鷹栖支部員ニシテ舊労働農民黨ニ加盟シ農民運動ニ從事シタル者ナル處昭和三年二月初頃旭川市三條通九丁目日本農民組合北海道聯合會事務所ニ於テ被告人山名正實ヨリ日本共產黨ニ加入スヘキコトヲ勸誘セラレ同黨カ前記ノ如ク我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル秘密結社ナルコトヲ知リナカラ之ヲ承諾シ同年三月七日頃黨本部ヨリノ承認ノ通知ヲ受ケテ同黨ニ加入シタルモノナリ

第六被告人伏見武夫ハ嘗テ早稻田大學在學中大山教授退職問題ニ關シ退校セラレ舊労働農民黨ニ加盟

シ滿洲各地ヲ視察シ労働階級ノ狀況ヲ實驗シ現時ノ資本主義制度ノ不滿ヲ憤シ日本農民組合北海道聯合會書記トシテ農民運動ニ從事シタルモノナル處

(一) 昭和三年三月初頃旭川市三條通九丁目日本農民組合北海道聯合會事務所ニ於テ被告人山名正實ヨリ日本共產黨ニ加入スヘキコトヲ勸誘セラレ同黨カ前記ノ如ク我國體ヲ變革シ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル秘密結社ナルコトヲ知リナカラ之ヲ承諾シタルモ黨本部ヨリノ承認ノ通知ヲ受ケサル爲未タ黨加入ノ目的ヲ遂ケス

(二) 昭和三年三月十日頃及同月二十日頃ノ二回ニ互リ被告人山名正實ヨリ日本共產黨機關紙赤旗日本共產黨北海道地方機關紙北海労働者日本共產黨北海道地方組織活動ターゼブルジョア代議機關ニ於ケルプロレタリア代表ノ態度ニ關スル決議等ノ配布方ヲ依頼セラルルヤ同黨ノ目的達成ノ意圖ノ下ニ之ヲ承諾シ以テ右目的事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ其ノ頃右文書ヲ山本作二外數名ニ配布シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人等ノ判示行爲ハ孰モ大正十四年法律第四十六號治安維持法ノ適用ヲ受クヘキモノナルトコロ同法ハ本件犯行後昭和三年六月二十九日勅令第二百二十九號緊急勅令ヲ以テ改正セラレ刑ノ變更アリタルヲ以テ刑法第六條第十條ニヨリ右新舊兩法ノ刑ヲ比照スルニ被告人山名正實松岡二十世吉田吉之助ノ各所爲ハ舊法ニ於テハ第一條第一項後段ニ新法ニ於テハ第一條第一項第二項中各結社加

入ニ關スル規定ニ該當シ後者ニ在リテハ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ重キ第一條第一項ノ國體變革ヲ目的トスル結社加入ニ關スル罪ノ刑ヲ以テ問擬スヘク被告人伏見武夫ノ所爲ハ舊法ニ於テハ第一條第二項第一項後段ニ新法ニ於テハ第一條第三項第一項第二項中ノ各結社加入ニ關スル規定ニ該當シ後者ニ在リテハ刑法第五十四條第一項前段第十條ニヨリ重キ第一條第三項第一項ノ國體變革ヲ目的トスル結社加入未遂罪ニ關スル刑ヲ以テ問擬スヘク被告人荒量太郎ノ所爲ハ舊法ニ於テハ第一條第一項後段ニ新法ニ於テハ第一條第二項中ノ結社加入ニ關スル規定ニ該當シ以上比照ノ結果ハ被告人荒量太郎ニ付テハ新舊其ノ刑相等シク其ノ他ノ被告人ニ付テハ何レモ舊法ノ刑輕キヲ以テ總テ舊法ノ刑ニ從ヒ何レモ懲役刑ヲ選擇シ被告人山名正實ヲ懲役五年ニ被告人松岡二十世伏見武夫ヲ各懲役三年ニ被告人荒量太郎吉田吉之助ヲ各懲役二年ニ處シ刑法第二十一條ヲ適用シテ各被告人ニ對シ未決勾留日數中百五十日ヲ各本刑ニ算入スヘキモノトス

### ○ 理 由

各被告辯護人神道寬次中村高一上村進布施辰治上告趣意書第三點原判決ハ其ノ理由中「革命的手段ニヨリ政治上我大日本帝國ノ大本タル君主國體ヲ變革シ無產階級獨裁ノ政府ヲ樹立シ依テ經濟上私有財產制度ヲ否認シ凡ユル生産機關ヲ社會ノ共有トスル所謂共產主義社會ヲ實現セントスル同黨根本ノ目的ノ下ニ其ノ政綱組織ヲ新ニシ先ツ當面ノスローガン(政綱)トシテ云々」ト判示シタリ按スルニ國

體トハ何ソヤ國體ノ意義ニ關シテハ法律學者中非常ナル異論アリ法律學者中國體ノ意義ニ關シ(一)穂積八東上杉慎吉ノ諸氏ハ國體ト政體トヲ區別シ「國體トハ主權ノ所在即チ主權カ君主ニ在スルカ人民ニ在スルカヲ云フ」而シテ君主ノ所在スル國ハ當然君主國體大統領制ノ國ハ民主國體ニシテ「政體トハ政治ノ方法ノ如何即チ專制カ立憲カヲ云フ」從テ我日本ハ君主制ヲ國體トシ立憲ヲ政體トス而シテ政體ハ幾度カ變革ヲ經タレ共國體ハ何等ノ變革ナシト說明シタリ然レ共此ノ見解ノ誤レルコトハ幾多ノ實例ニ依リテ證明スルコトヲ得ヘシ例ヘハベルギト國ノ如キハ君主アリ然モ世襲ナル事實ヨリ見レハ其ノ國體ハ當然君主制ト云ハサルヘカラス然ルニベルギト憲法ニ依レハ「主權ハ人民ニ在リ」ト明確ニ規定セラレタリ若シ主權ノ所在ヲ以テ國體ノ如何ヲ決定セント欲スルナラハ「ベルギト」國ハ正シク君主アル民主制ナリト謂ハサルヘカラス又英國ノ如キ君主ハ嚴トシテ在スルモ「主權ハ議會ニ在リ」トノ傳統法ヲ有ス然ラハ英國モ亦君主制ノ國體ニ非スト謂ハサルヘカラス伊太利ニ於テハ主權ハ形式的ニハ君主ニ存スレ共實權ハ「ファシスト」專制ナルコト萬人ノ認ムル處ナリ斯ノ如キ場合之モ君主國體ト稱シ得ヘキヤ疑ナキ能ハス(2)美濃部達吉氏ハ之レ等上敍ノ見解ニ反シ國體ト政體トノ區別ヲ認メス總テ之レ政治形態ヲ表現セントスルモノナルカ故ニ政體以外ノ觀念ヲ作り出ス必要ナシト稱ス隨テ美濃部氏ニ依レハ國體ナル觀念ハ憲法學行政學其他ノ一切ノ法律學ノ範圍外ニ存スルコトトナルヘシ今日ノ既存法律學說トシテ此ノ見解ノ正當ナルコト論ヲ俟タス(3)更ニ國體ノ本質意義ヲ決

定スヘキ最大唯一ノ權威アリ教育勅語之レナリ即チ「我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス」ト宣ヘリ之レ實ニ國體ノ意義ヲ究明シ盡シ得テ疑問ノ餘地ナシ之レニ據テ之レヲ見レハ何人モ「國體トハ傳統的風俗習慣道德ノ謂ナリ」ト的確ニ答フルコトヲ得ヘシ果セル哉伯爵二荒若德氏ハ其ノ著「新日本ノ自主的建設」四十二頁ニ「國體トハ其ノ國家ノ個性ナリ」ト説明シ更ニ其ノ國家ノ個性ハ……個人ノ個性ト同シク環境生ヒ立チ天性修養ニヨツテ定マル」ト述ヘタリ一見傳統的風俗習慣道德ノ謂ニ非サル如シト雖個性カ個人即チ自然人ナラサル限リ環境生ヒ立チ天性修養ト云ヘ共要スルニ風俗習慣道德ノ範疇ヲ脱スルモノニ非ス氏モ亦「古典ヲ透シテ見タル日本ノ個性」ナル題目ノ下ニ「日本民族ノ個有ナル理想信念」——「國民的道德」カ「日本國體」ナリト主張セリ又更ニ海軍中將男爵梨羽葉時起氏謹述ニカカハル「教育勅語ノ義解」二十一頁ニハ「世界各國ソノ國家カアレハ其ノ歴史カアル其ノ歴史カアレハ其ノ國體アリ」ト斷定シタリ氏ニ依レハ「國體ハ歴史ニ依ルモノニシテ傳統的風俗習慣道德」ノ謂ナルコト明瞭ナリ氏ハ國體ノ字解ニ於テ「國體トハ國家ノ體テ即チ國家ノ精神の要素トナルヘキ性格ヲ云フ」ト述ヘタリ以上ハ唯一例ニ過キササルモ斯克ノ如クニ幾多諸家説ヲナシ其ノ結果此ノ「國體」ヲ抽象化シ宗教化セント努力カシスクテ「君民一體説」「一大家族説」「同一民族説」「彌榮説」等ヲ生ムニ至リ之レヲ以テ日本ノ國體其ノモノナリトノ結論ニ到達シツツアリ而シテ今日一般ノ通説乃至信念トナルニ至レル右諸説カ究極

スル處「國體」トハ風俗習慣道德ナリトノ斷定ニ立脚スルコトヲ見ルヘシ隨テ右諸説ノ所謂國家ノ個性又ハ性格ハ所謂「主權ノ所在」ヲ指稱スルニ非サルコトモ亦明瞭ナリ何トナレハ「主權ノ所在」ハ政治問題ナルモ個性乃至性格ハ「政治問題」ニ非スシテ自然乃至必然ノ問題ナレハナリ然ラハ國體ノ變革トハ如何國體ノ意義ニ關シテ上敍ノ如キ國家ノ個性乃至性格又ハ傳統的風俗習慣道德ナル以上ソノ變革トハ果シテ何か二荒伯ハ上敍著書八十一頁ニ於テロシヤノ現今ノ如キ支那現今ノ如キ彼等ハソノ個性ニ從テ敢然ト其ノ行フヘキ所ニ赴キタルニ過キス」ト述ヘタリ以テ一革命ハ國體ノ自然ノ必然的——即チ內在的法則ニ依ル歸結——結果ナルコトヲ結論セリ國體ノ方面ヨリ觀レハ即チ革命ハ自然ニ存在スル自己發展ノ意ナリ隨テ「國體ノ變革」トハ政治的の革命ニ非サルコト明瞭ナリ否國體ノ變革ト稱スル事實ハ生起シ得サルヘシ何トナレハ國家ノ個性乃至性格ノ變革ナル觀念ハ存在セス個性乃至性格ハ或ハ發展シ或ハ萎縮スルコトアルモ變革サルヘキ性質ノモノニ非ス我カ國體ハ終始一貫ト稱スルモ之レハ勿論ノコトニシテ政治的の變革ハ國體ソノモノトハ無關係ニ存在シ得ルカ故ナリ隨テ國體ノ變革ナル事實ハ政治的の結社ノ目的トナスコト不能ナルモノナリ假ニ百歩ヲ讓ルモ國體ノ變革トハ經濟及政治ノ變革ニ伴ヒソノ結果トシテ自動的(內在的法則ニ隨ヒ自然發生的ニ)ニ發展轉化スルモノト解スヘキナリ尙治安維持法ニ所謂「國體ノ變革」ト比較對照セサルヘカラサルモノニ刑法第七十七條乃至第八十條「内亂ニ關スル罪」ノ規定アリ「内亂罪ノ本體ヲ一政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其ノ他朝憲ヲ紊

亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタルモノハ云々」ニシテ此ノ政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭窃シ其ノ他朝憲ヲ紊亂スルコトカ「治安維持法ニ所謂國體ノ變革」ト對比セラルヘキモノナリ共產黨ノ結成共產黨ノ政治的宣傳煽動カ直接此ノ内亂罪ノ本體ニ抵觸スルヤ否ヤ問題ナリ内亂罪ハ豫備陰謀幫助ヲモ犯罪トシ其ノ刑モ死刑迄ノ規定アリ非常ナル廣範圍ノ性質ヲ有ス若シ共產黨結社カ同法條ニ抵觸スルトコロアラハ別ニ治安維持法ヲ制定スル迄モナク同法條ニ依テ處斷サルヘキモノナリ然ルニ治安維持法ヲ制定シタル所以ヨリ見レハ同法條ハ直ニハ共產黨結社ヲ處斷シ得サルカ故ナリ即チ内亂罪ニ於テハ暴動ナル行爲カ犯罪現象ノ根本的ナル一要素ヲ爲スヲ以テナリ從テ單ニ此ノ暴動ニ依テ侵害セララル所謂「法益」ノ側ヨリ見レハ共產黨結社ハ結局此ノ同一「法益」ヲ目標トスルコト明ナリ共產黨結社ニハ唯暴動ナル要素存セサルカ故ニ内亂罪ノ法條ニ依テ處斷シ得サルノミ然ラハ其ノ法益「朝憲」トハ何カ「朝憲」ヲ紊亂トハ現在ノ政治形態ノ維持保存ヲ侵害スル」ノ謂ナルハ幾多判例ノ示ストコロニシテ治安維持法モ又コノ同一法益ヲ擁護センカタメノモノナルコト疑ナシ隨テ治安維持法カ政治行動ヲ目的トスル結社即チ政治結社ニ向テ適用サルヘク制定サレタル以所ナリ然ルニ治安維持法ノ法條ニ規定シタル「國體ノ變革」ナル字句ハ上敍ノ如ク其ノ本質内容ノ全ク別ニシテ政治行動ヲ目的トスル共產黨結社處斷ニハ全然無關係ナルノ結果ヲ見ルモノナリ之レヲ要スルニ原判決ノ所謂「革命的手段」ヨリ政治上我大日本帝國ノ大本タル君主國體ヲ變革」スルコトハ上敍國體其ノモノノ本質上國體ハ人

爲のニ變革スルコト能ハサルモノニシテ就中原判決表示ノ如キ「政治上……變革」スルカ如キコトハ全然事實ノ認識ト其ノ判斷ヲ誤レルモノナリ何トナレハ原判決ノ謂フカ如ク「政治上ノ革命乃至變革アル毎ニ國體ノ變革ヲ見ルノ不合理ヲ生スヘシ原始共產制ヨリ奴隸制度（王朝時代）等々ニ又封建制度ヨリ資本主義制度（原判決ハ其ノ冒頭ニ現今ノ日本ヲ資本主義制度ト斷定シタリ）ニ幾度カ政治上經濟上其ノ社會制度ノ變革ヲ經タレ共之レヲ以テ國體ノ變革ヲ經タリトハ稱シ得サルヘシ然ルニ資本主義制度ヨリ共產主義制度ニ政治上經濟上變革スルコトノミ當然國體ノ變革ナリトハ解シ能ハサルトコロナリ以上原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノナリト云ヒ」同第六點原判決ハ其ノ理由中「革命的手段ニヨリ政治上我大日本帝國ノ大本タル君主國體ヲ變革シ」ト判示シタリ惟フニ國體ハ何人ト雖又如何ナル手段ヲ以テスルモ之レカ變革ヲ爲スコト能ハサルモノナリ變革シ能ハサルトコロニ國體ノ本質ノ存スルヲ見ルヘシ然ラハ國體ノ變革ヲ目的トスル行爲ハ絕對的不能犯ナリト謂ハサルヘカラス絕對的不能ノ事實ヲ目的トスル行爲ヲ斷罪ノ對照トシタル原判決ハ違法ナリト云ヒ」同第七點原判決カ被告等ヲ有罪ナリト處斷シタル所以ノモノハ國體ノ變革ヲ可能ナリトシタルモノト謂ハサルヘカラス然ルニ原判決ハ國體變革カ可能ナル所以ヲ判示セス又國體變革カ可能ナルハ顯著ナル事實ナリト云フハ當ラズ此ノ點原判決ハ理由不備ノ違法アリト云ヒ」同第八點原判決カ國體變革カ可能ナリヤニ關シ敢テ一言ノ論及スルト

【要旨】

コロナカリシハ判決ニ示スヘキ判斷ヲ潰脱シタル違法アルモノナリト云フニ在レトモ○我帝國ハ萬世  
 一系ノ天皇君臨シ統治權ヲ總攬シ給フコトヲ以テ其ノ國體ト爲シ治安維持法(大正十四年法律第四十  
 六號昭和三年勅令第二百二十九號)第一條ニ所謂國體ノ意義亦之レニ外ナラサルカ故ニ帝國ニ無產階級  
 獨裁ノ政府ヲ樹立セントスルカ如キハ即我國體ノ變革ヲ企圖スルモノト云フヘシ而シテ此ノ如キ企圖  
 ヲ遂行センカ爲同法所定ノ行爲ヲ爲スニ於テハ犯罪ヲ構成スヘキコト多言ヲ要セサルトコロナレハ原  
 判決カ判示ノ如ク事實ヲ認定セル以上其ノ目的ノ可能ナルコトヲ説示スルノ要アルモノニ非ス各論旨  
 ハ何レモ其ノ理由ナシ

同第四點原判決ハ其ノ理由中革命的手段ニ依リ政治上我大日本帝國ノ大本タル君主國體ヲ變革シ無產階級獨裁ノ政府ヲ樹立シ依テ  
 經濟上私有財産制度ヲ否認シルニ生産機關ノ社會ノ共有トスル所謂共產主義社會ヲ實現セントスル同黨根本ノ目的ノ下ニ其ノ政綱  
 組織ヲ新ニシト判示シタリ惟フニ私有財産制度ト資本主義制度トハ同一ニ非ズ現在日本カ資本主義經濟組織ノ過程ニ在ルコトハ世  
 人ノヒトシク認ムルコトコロナルモ尙其ノ構成中ニハ幾多ノ封建的要素ノ殘留スルコトモ亦看過スヘカラサル事實ナリ凡ソ社會ノ制度  
 ナ分ツテ封建制資本主義制共產主義制等々ニ區別セラルルニトアルモ私有財産制度ヲ獨立單一ノ制度トシテ規定シタルハ實  
 ニ治安維持法ニ於テノミナリ治安維持法ハ現代日本ヲ以テ私有財産制度ノ段階ニアルモノト認識スルモノノ如キモ斯ノ如キハ立法者  
 カ社會組織ニ對スル認識ノ錯誤乃至ハ迷信の結果ニシテ私有財産制度ナル單一獨立ノ社會制度ハ存在セス況ンヤ法律上私有財産制度  
 ナルモノナシ法律カ規定シ乃至ハ保障スル所有權及此レヨリ派生シタル各種私權ト制度トシテノ私有財産制ノ法律の意義ハ嚴格ニ之  
 レヲ區別セサルヘカラス何トナレハ封建制度ノ下ニ於テハ封建制度ニ適合シタル私有財産制ニ關スル法規アリテ私權ノ保護ヲ全ウシ  
 タルコトハ疑ナキトコロニシテ更ニ原始國家即チ王朝時代ヲ見ルニ當時ハ奴隸制度ノ時代トシテ茲ニモ亦其ノ社會制度ニ適合シタル

私有財産ノ規定存在シ更ニ遡テ原始共產制ノ末期ノ狀態ヲ見ヨ茲ニハ私有財産制度ニ對スル一般の萌芽ヲ發見スルコトヲ得ヘン更ニ  
 續テ現代ノロシヤ即チ「社會主義ソビエツト共和聯邦」ヲ見ヨ茲ニモ亦私有財産ノ事實トシテ存シ法規ニ於テ許容シ私權ノ保護全キ  
 チ見ルヘシ唯「ソビエツト聯邦」カ他ノ資本主義國家ト相違スル點ハ生産機關(茲ニ所謂生産トハ分配マテ含ム分配ハ從屬的性質ヲ有  
 スレハナリ)ノ國有トソノ國家ニ依ル管理ノ一點ニ存スルノミナリ即チ原始共產制奴隸制封建制資本主義制共產制夫々ノ制度ニ適應  
 シタル私有財産ハ存在シ私權ノ保護全キ得ルモノナリ唯々資本主義制度ノ下ニ於テ私有財産ハ最大ノ保護ヲ得テ爛熟ノ絶頂ニ在ル  
 ノ差アル ミナリ即チ私有財産制度トハ一社會形態ニ特有ナル制度乃至ハ單一獨立ノ制度ニアラスシテ彼上ノ如キ如何ナル社會形態  
 ノ下ニ於テモ夫々ニ適應シテ存在シ得ル社會的必然タル一ノ事實ニ過キサルナリ原判決カ本件被告等ヲ治安維持法違反ナリト斷スル  
 ニハ先ツ事實トシテノ私有財産制度ナル社會制度ノ存否如何若シ存在スルトセハ本件犯罪發生當時ノ日本ニ於ケル私有財産制度トハ  
 如何ナル形態ヲ指稱スルモノナリヤニ關シテ事實ノ判斷ヲ爲スヘキ義務アリ然ルニ原判決ハ彼上ノ如ク虛無ノ事實タル私有財産制度  
 ナ當然ノ存在事實ナルカノ如ク前提シ此ノ基礎ノ上ニ本件事實ノ全認定ヲ爲シタルハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ  
 顯著ナル事由アルモノト云フヘク同時ニ原判決カ理由中以上ノ點ニ關シ何等判示スルコトナキハ一面事實並ニ法律ニ關スル判斷ヲ  
 遺脱シタル違法アルト共ニ又一面理由不備ノ違法アルモノナリト云フニ在レトモ○凡ソ制度ハ國法ヲ外ニシテハ存スルアルヲ見ス私  
 有財産制度ハ即チ財産ノ私有ヲ國法カ認許シ之ヲ保護スルニ因リ生シ我國法ノ下ニ於テモ亦其ノ制度ノ存スルコトハ極メテ顯著ナル  
 事實ニ屬ヘ而シテ財産私有ニ關ヘル法ノ推移ヲ選ハ同時ニ私有財産制度ノ推移變遷タルニ歸シ一定不變ノ財産制度ヲ想像スルノ難キ  
 ハ論旨云フトコロノ如シト雖治安維持法(大正十四年法律第四十六號及昭和三年勅令第二百二十九號)第一條ニ所謂私有財産制度ノ否  
 認トハ重要財産ノ私有ニ關スル國法ノ保護ヲ排斥シ我現行ノ私有財産制度ヲ根本的ニ破壞スルノ謂ナリト解スヘク判示ノ如ク凡ユル  
 生産機關ト社會ノ共有ト爲シ共產制度ヲ實現セントスルノ行爲ハ假令共產制度ノ主義トスルコト一切ノ財産私有ヲ否認スルモノニ  
 非ストスルモ尙我カ私有財産制度ヲ根本的ニ破壞スルモノニシテ即チ前記法條ニ規定セル私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル  
 モノニ外ナラス然レハ原判決カ判示事實ヲ認メ判示法條ヲ適用處斷シタルハ正當ニシテ原判決ニハ所論ノ如キ不法ナク又記録ヲ查ス  
 ルニ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルコトヲ認メ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判

治安維持法ニ所謂國體ノ意義

決理由ハ之ヲ省略ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス  
檢事柴碩文關與

### ○強姦住居侵入被告事件

(昭和四年(九)第四二一號 同年六月七日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 岩 本 米 藏 辯護人 一 又 安 平

【第一審】 大分地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

#### ○判示事項

判決書ノ作成ト官吏ノ秘密義務トタイプライターニ依リテ印刷セラレタル判決書ノ效力

#### ○判決要旨

一 判決手續ノ適法ニシテ有效ナルコトト官吏秘密義務ノ遵守トハ各別ニ之ヲ論スヘキモノトス【要旨第一】

二 判事ハ判決書ヲ作成スルニ當リ自己ノ口授又ハ草稿ニ基キ他人ヲシテ之ヲ筆記セシメ若ハタイプライターニ依リテ之ヲ印刷セシムルモ違法ニ非ス【要旨第二】

【參照】 刑事訴訟法第六十七條 裁判書ハ判事之ヲ作ルヘシ

官吏服務紀律第四條第一項 官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタ

ルトヲ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス

#### ○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役二年ニ處スル旨ノ判決ヲ言渡シ該判決書ハタイプライターニ依リテ印刷セラレ判事之ニ署名捺印ヲ爲セリ

被告人ハ自家用馬匹交換ノ爲大分縣速見郡東村大字猪尾宮脇堅吾方ニ滯在中昭和三年十月十四日夕刻右堅吾方隣家ナル興田金六ノ内縁ノ妻某(當時二十四歳)ヨリ同夜同人ノ夫金六不在ナル旨ヲ聞知シタルヲ伴ヒニ右某ヲ姦淫セント欲シ同日午後十時過頃密カニ興田金六方表戸ヲ押シ開キ同家屋内ニ侵入シ同人ノ就寢シ居リタル奥六疊ノ間ニ進ミ之ヲ認メタル同人ニ於テ起上ラントスルヤ矢庭ニ蒲團ノ上

判決書ノ作成ト官吏ノ秘密義務 タイプライターニ依リテ印刷セラレタル判決書ノ效力

ヨリ兩手ニテ之ヲ押へ付ケ同人カ聲ヲ舉ケテ拒マントスルヲ意トセス(中略)同人ノ上ニ乘リ掛リ其ノ抵抗スルニ拘ラス(中略)姦淫ヲ遂ケタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中住居侵入ノ點ハ刑法第三百十條ニ強姦ノ點ハ刑法第七十七條前段ニ該當スルトコロ右ハ順次ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ重キ強姦罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定期限範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役二年ニ處スヘキモノトス

○理由

辯護人一又安平上告願意書第二點裁判ハ凡テ公開ノ下ニ行フヘキチ原則トシ只公安ヲ害スルノ虞レアル場合風俗ヲ紊亂スルノ虞レアル場合ハ裁判所ハ決定ヲ以テ公開ヲ禁止スルコトヲ得ルモノナリトス從テ斯ル虞レアル場合ニテモ事實ノ訊問ヲ了ヘ斯ル虞レナキニ至リタルトキハ直ニ右禁止ヲ解キ公開セサルヘカラスルモノトス原院公判調書ヲ閱スルニ其ノ第一回公判ニ於テ裁判長ハ本件ハ風俗ヲ害スル虞アリトノ理由ニテ公開ヲ禁止シタルモノナルカ事實ノ訊問證據調ヲ了ヘタルモ尙之カ禁止ヲ解カス遂ニ最後迄公開禁止ノ證據事ノ論告辯護人ノ辯論ヲ聽キ判決ヲ言渡シタルハ公開ノ規定ニ違背スルモノニシテ公判手續上重大ノ違法アルモノトス然ラハ原判決ハ斯ル違法ノ公判ニ基キ下サレタルモノナルヲ以テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ○裁判所ハ被告事件ヲ審理スルニ當リ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ公判ノ公開ヲ停止シ得ヘキコトハ憲法ノ明規スルトコロニシテ判決言渡ノ時ノ外ハ其ノ被告ニ對スル事實訊問ノ場合ナルト證據調ノ場合ナルト將タ檢事ノ論告辯護人ノ辯論ノ場行ナルトハ之ヲ間ハス苟クモ停止ノ要ナキニ到ルマテハ之ヲ繼續シ得ヘキコト勿論ナリ原審第一回公判調書ヲ閱スルニ原審ハ本件ニ付事實審理ノ當初ニ於テ風俗ヲ害スル虞アリト認メ公判ノ公開ヲ停止セルママ辯論ヲ終結シタルコト所論ノ如シト雖是レ畢竟裁判所ニ於テ其ノ職權ニ基キ辯論ノ終結ニ到ルマテ公開ヲ停止スル要アリト認メタルニ外ナラス尙第二回公判調書ニ依レハ公判ノ公開ヲ停止シタル事跡ナキヲ以テ原判決ハ公開ノ法廷ニ於テ言渡アリタルコト疑ナシ從テ原審ハ公判ノ公開ノ規定ニ違背シタル手續上ノ違法アリタルモノト謂フヘカラス

論旨理由ナシ

同第三點判決書ハ判事之ヲ作成スヘキモノナルコトハ刑事訴訟法ノ明記スル所ニシテ假令機械的ナルニモセヨ判決言渡以前ニ於テ判事以外ノモノヲシテ之ヲ作成セシムルニ於テハ判決ノ秘密ヲ維持スルコト能ハサルニ至ルヘク從テ斯ル判決ハ無効ナリト謂ハサルヘカラス原判決ハ邦文タイプライターニテ印刷シアリテ公判判事ニ於テ作成シタルモノニアラサルコト明白ナレハ該判決ハ右法律ニ違背シテ作成セラレタルモノト謂フヘク破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ○刑事訴訟法ニ於ケル判決手續ノ適法ニシテ有效ナルコトト官吏秘密義務ノ遵守トハ各別ニ之ヲ論スヘキモノニシテ後者ノ違背ハ當然ニ前者ノ違法無効ヲ來スモノニ非サルノミナラス判決書ハ判事之ヲ作ルヘキコトハ刑事訴訟法ノ命スルトコロナレトモ之カ作成ニ當リ判事自ラ筆記スルコトハ其ノ要件ニ非サルヲ以テ判事ノ口授又ハ草稿ニ基キ他人ヲシテ筆記又ハ印刷ノ方法ニ因リ其ノ作成ヲ準備セシムルコトハ固ヨリ妨クルトコロナク斯ル場合ニ於テ筆記者又ハ印刷者ハ單ニ機械的ニ判事ノ補助タルニ過キサルヲ以テ是等ノ者ヲ使用スルモ之ヲ指シテ直ニ秘密ヲ守ル義務ニ違反シタルモノト爲スヲ得ス從テ原審判決書カタイプライターニ依リ印刷セラレタリトスルモ無効ニ非サルハ勿論毫モ法律ニ違背シテ作成セラレタルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

判決書ノ作成ト官吏ノ秘密義務 タイプライターニ依リテ印刷セラレタル判決書ノ效力

○放火未遂被告事件(昭和四年(九)第四八七號 棄却)

(昭和四年(九)第四八七號 棄却)

〔上告人〕 被告人 黒田ま津 辯護人 (森直六)

〔第一審〕 岡山地方裁判所

○判示事項

陪審員ノ職業ノ記載方 陪審員ノ職業ト除斥ノ原由

○判決要旨

- 一 陪審法第六十二條第一項ノ書面ニ記載スヘキ職業ハ大正九年十月二十四日內閣訓令第一號職業分類中分類ニ依リ記載スルモ違法ニ非ス【要旨第一】
- 二 陪審員ノ職業如何ハ陪審員除斥ノ原由ト爲ラス【要旨第二】

【參照】 陪審法第六十二條

陪審員二十四人以上出頭シタルトキハ裁判長ハ其ノ氏名職業及住居地ヲ記載シタル書面ヲ示シ檢事及被告人ニ對シ陪審員中除斥セラルヘキ者アリヤ否ヲ問フヘシ

裁判長ハ陪審員ニ被告人ノ氏名職業及住居地ヲ告ケ除斥ノ原由アリヤ否ヲ問フヘシ

檢事被告人及陪審員除斥ノ原由アリトスルトキハ其ノ旨ノ申立ヲ爲スヘシ

除斥ノ原由アリトスルトキハ裁判所ハ決定ヲ爲スヘシ

同法第五十七條 公判期日ニハ第二十七條ノ規定ニ依リテ選定シタル陪審員ヲ呼出スヘシ

第三十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

同法第二十七條 陪審ノ評議ニ付スヘキ事件ニ付公判期日定リタルトキハ地方裁判所長ハ豫メ定メタル市町村ノ順序ニ依リ各陪審員候補者名簿ヨリ一人又ハ數人ノ陪審員ヲ抽籤シ陪審員三十六人ヲ選定スヘシ

前項ノ抽籤ハ裁判所書記ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

同法第二十三條 市町村長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ第二十條及第二十一條ノ規定ニ依リ整理シタル陪審員資格者名簿ニ基キ抽籤ヲ以テ前條ノ規定ニ依リ割當テラレタル員數ノ陪審員候補者ヲ選定シ陪審員候補者名簿ヲ調製スヘシ

前項ノ抽籤ハ資格者三人以上ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十七條第二項及第三項ノ規定ハ陪審員候補者名簿ニ之ヲ準用ス

同法第十七條 市町村長ハ毎年陪審員資格者名簿ヲ調製シ九月一日現在ニ依リ其ノ

陪審員ノ職業ノ記載 陪審員ノ職業ト除斥ノ原由



市町村内ニ於テ資格ヲ有スル者ヲ之ニ記載スヘシ  
陪審員資格者名簿ニハ資格者ノ氏名、身分、職業、住居地、生年月日及納税額ヲ記載スヘシ

市町村長ハ陪審員資格者名簿ノ副本ヲ調製シ之ヲ管轄區裁判所列事ニ送付スヘシ  
昭和二年五月二十八日司法省刑事事務局第一二三號地方裁判所長宛司法次官通牒第十  
六條 陪審員資格者名簿及陪審員候補者名簿ニ記載スヘキ身分ハ族稱アル者ニ付  
テハ其ノ族稱ヲ記載シ族稱ナキ者ニ付テハ空欄トスヘシ  
職業ハ大正九年十二月二十四日內閣訓令第一號職業分類中中分類ニ依リ記載スヘシ

納税額ハ其ノ年度ニ於ケル直接國税ノ決定額ヲ記載シ納税種目數箇アルトキハ其  
ノ額ヲ合算シテ記載スヘシ

大正九年十二月二十四日內閣訓令第一號 國勢調査ノ結果表章ニ用ウヘキ職業分類  
左ノ通定ム

各官廳ニ於テ調製スル統計中職業ニ依リテ類別スルモノハ凡テ本分類ニ據ルヘシ  
但シ時ニ必要アルトキハ本分類ニ據ルモノト比較對照ノ便ヲ失ハサル程度ニ各項  
目ヲ輯約シ若ハ細別スルコトヲ得

職業分類		
(大分類)	(中分類)	(小分類)
一 農業	一 農耕 畜産	一 農作

四 工業	五 土石採取業 六 窯業	七 金屬工業
三 鑛業	四 採鑛 冶金業	
二 水産業	三 漁業 製鹽業	
	二 林業	
	一 園藝造園 二 牧畜 搾乳 養禽 三 養蠶 蠶種製造 四 其他ノ農業 五 森林業 六 林産物業 七 狩獵 八 狩獵 九 漁撈 採藻 一〇 魚介 藻養殖 一一 製鹽 一二 其他ノ水産業 一三 合屬鑛業 一四 石炭鑛業 一五 石油鑛業 一六 其他ノ鑛業 一七 土石採取業 一八 セメント 石膏 石灰類製造 一九 瓦管製造 二〇 煉瓦製造 二一 陶磁器 土器製造 二二 七寶燒 瑛瑯品製造 二三 硝子硝子品製造 二四 其他ノ窯業 二五 精鍊業 二六 金屬鑄造業 二七 釘鉚針類製造 二八 鐵業職 鐵製品製造 二九 鋼索 鐵鎖等製造 針金細工 三〇 鋸屑業	

陪審員ノ職業ノ記載方 陪審員ノ職業ト除外ノ理由

八 機械器具製造業

- 三一 鑄物表
- 三二 銅器 眞鍮器 青銅器類製造
- 三三 其他ノ金屬工業
- 三四 度量衡器 計測器 科學的機械器具類製造
- 三五 時計製造
- 三六 電動機 電氣機械器具製造
- 三七 原動機製造(汽鐘 瓦斯發生機等ヲ含ム)
- 三八 銃砲 彈丸 水雷製造
- 三九 紡織機械器具製造
- 四〇 農具 土工具製造
- 四一 機關車 車輛製造
- 四二 造船業
- 四三 金屬工用 木工用機械器具製造
- 四四 航空機製造
- 四五 其他ノ機械器具製造
- 四六 工業藥品 醫療藥品製造
- 四七 賣藥 賣藥類似品製造
- 四八 染料 顏料及其他原料類製造
- 四九 石鹼製造
- 五〇 化粧品類製造
- 五一 燐寸 附木製造
- 五二 火藥 其他ノ爆發物製造
- 五三 油脂類製造
- 五四 蠟燭製造
- 五五 護謄 セルロイド 防水品製造
- 五六 漆 其他ノ塗料製造
- 五七 肥料製造
- 五八 化學分析 検査ニ關スル業
- 五九 其他ノ化學工業

九 化學工業

一〇 纖維工業

- 六〇 生糸製造
- 六一 人造絹糸製造
- 六二 撚糸製造
- 六三 眞綿(ニ)製造
- 六四 綿製造
- 六五 綿糸紡績業
- 六六 其他ノ紡績業
- 六七 織物業
- 六八 毛織物業
- 六九 莫大小 莫大小品製造
- 七〇 編物 組物製造
- 七一 網繩 網類製造(藁製品ヲ除ク)
- 七二 麻糸 麻糸返業
- 七三 染色 捺染 漂白及糸布加工業
- 七四 湯熨斗 浸拔洗張 洗濯業
- 七五 西洋洗濯業
- 七六 紙製造
- 七七 板紙 壁紙製造
- 七八 パルプ及其他ノ紙料製造
- 七九 紙品製造
- 八〇 棧具師
- 八一 皮革製造
- 八二 皮革品 擬革 擬革品製造
- 八三 骨角 甲 牙 貝類ノ細工
- 八四 刷毛類 其他ノ羽毛品製造
- 八五 製材業
- 八六 木挽 屋根板製造
- 八七 刳物 木地 曲物製造
- 八八 樽 桶類製造

陪審員ノ職業ノ記載方 陪審員ノ職業ト除外ノ原由

- 一一 紙工業
- 一二 皮革骨角  
甲 羽毛品類  
製造業
- 一三 木竹類ニ關  
スル製造業

一四 飲食料品嗜好品製造業

- 八九 器具指物 木型 寄木 合板製造
- 九〇 漆器製造
- 九一 箆籠 行李類製造
- 九二 疊及 蓆類製造
- 九三 扇類
- 九四 藁 米 稈 棕 櫚 繩 木 細 工
- 九五 其他ノ竹木質品製造
- 九六 精穀 製粉業
- 九七 麵類 漿 湯 菜 蒟 蒻 製 造
- 九八 豆腐製造
- 九九 菓子 麵 飽 製 造
- 一〇〇 砂糖類製造
- 一〇一 糖類製造
- 一〇二 啤酒製造
- 一〇三 麥酒製造
- 一〇四 其他ノ酒類製造
- 一〇五 味噌 醬油製造
- 一〇六 屠畜 肉類品製造
- 一〇七 罐詰 罐詰製造
- 一〇八 鹽 乾 魚 介 節 類 製 造
- 一〇九 海藻 其他水産食料品製造
- 一一〇 清涼飲料製造
- 一一一 製茶業
- 一一二 煙草製造
- 一一三 製氷及冷凍業
- 一一四 其他ノ飲食料品製造
- 一一五 洋服裁縫
- 一一六 洋服裁縫
- 一一七 帽子製造

一五 被服身ノ廻り品製造業

- 一一八 シャツ 手袋 股引 脚絆 足袋類製造
- 一一九 袋物製造
- 一二〇 扇子 團扇 提燈 傘 合羽類製造
- 一二一 洋傘 杖類製造
- 一二二 履物類製造
- 一二三 靴製造
- 一二四 其他ノ身ノ廻り品製造
- 一二五 土木建築請負業
- 一二六 土木建築ノ設計 測量等ニ關スル業
- 一二七 大工
- 一二八 左官 泥工 セメント工 煉瓦職
- 一二九 石工
- 一三〇 屏根職
- 一三一 ベンキ 漆 其他ノ塗料塗職
- 一三二 土方 瓦職
- 一三三 潜水業
- 一三四 其他ノ土木建築ニ關スル業
- 一三五 木版 金屬版 石版 其他ノ製版 印刷業
- 一三六 活字製造 活版印刷業
- 一三七 製本業
- 一三八 筆類製造
- 一三九 ベン 鉛筆 インキノ類製造
- 一四〇 其他ノ文具製造
- 一四一 樂器製造
- 一四二 博物標本模型 運動用具 遊戯品 玩具製造
- 一四三 造化 押繪 刺繡 其他裝飾品製造
- 一四四 貴金屬寶石 飾石 細工
- 一四五 瓦斯發生 供給 其裝置業
- 一四六 電力發生 供給 其裝置業

一六 土木建築業

一七 製版 印刷 製本業

一八 學藝 娯樂 裝飾品製造業

一九 瓦斯 電氣 及 天然力利用ニ關ス

陪審員ノ職業ノ記載方 陪審員ノ職業ト排斥ノ理由

五 商 業

二〇 其他ノ工業  
二一 物品販賣業

- 一四七 其他ノ天然力利用ニ關スル業
- 一四八 其他ノ工業
- 一四九 穀類粉類販賣
- 一五〇 蔬菜 果物類販賣
- 一五一 魚介藻類販賣
- 一五二 鳥獸肉類販賣
- 一五三 酒類 調味料 清涼飲料販賣
- 一五四 菓子 麵粉類販賣
- 一五五 茶販賣
- 一五六 其他ノ飲食品販賣
- 一五七 肥料販賣
- 一五八 燃料販賣
- 一五九 木材 竹材販賣
- 一六〇 石材 其他 建築材料販賣
- 一六一 建具 家具 指物類販賣
- 一六二 疊 荒物類販賣
- 一六三 陶磁器 硝子 硝子品類販賣
- 一六四 地金 金屬器具販賣
- 一六五 機械 車輛 農具類販賣
- 一六六 皮革 擬革 其製品販賣
- 一六七 織物 被服類販賣
- 一六八 綿糸類 編物 組物類販賣
- 一六九 紙 紙製品 文房具 玩具 遊戲品販賣
- 一七〇 圖書新聞 雜誌 其他ノ出版物ノ發行販賣
- 一七一 賣小問物 唐物 履物 雨具 雜貨販賣
- 一七二 藥品 染料 顏料 香料等販賣
- 一七三 度量衡 科學的機械器具 時計 貴金屬寶石類販賣
- 一七四 外國貿易商

三四六 (112)

六 交 通 業

二二 媒介周旋業  
二三 金融保險業  
二四 物品貨貸業預業  
二五 旅宿 飲食店 浴場業等

二六 其他ノ商業  
二七 通 信 業  
二八 運 輸 業

- 一七五 古物商
- 一七六 葬具商
- 一七七 其他ノ物品販賣
- 一七八 賣買媒介業
- 一七九 周旋業
- 一八〇 興信業
- 一八一 銀行業
- 一八二 質屋業
- 一八三 貸金業
- 一八四 其他ノ金融業
- 一八五 生命保險業
- 一八六 其他ノ保險業
- 一八七 物品貨貸業
- 一八八 倉庫業 其他ノ物品預業
- 一八九 旅人宿 下宿業
- 一九〇 料理店 飲食店 席貸業
- 一九一 遊戯 興業ニ關スル業
- 一九二 理髮業 理容業
- 一九三 浴場業
- 一九四 其他ノ商業
- 一九五 郵便 電信 電話業
- 一九六 鐵道業
- 一九七 軌道業
- 一九八 人力車業
- 一九九 乘用自働車 馬車業
- 二〇〇 其他ノ車馬運輸業
- 二〇一 船舶運輸業
- 二〇二 運輸取扱業
- 二〇三 其他ノ運輸ニ關スル業

陪審員ノ職責ノ記載方 陪審員ノ職業ト排斥ノ理由

三四七

(113)

七 公務自由業

- 二九 陸海軍人
- 三〇 官吏公吏 雇傭
- 三一 宗教ニ關スル業
- 三二 教育ニ關スル業
- 三三 醫務ニ關スル業
- 三四 法務ニ關スル業
- 三五 記者 著述者
- 三六 藝術家
- 二〇四 陸軍現役軍人
- 二〇五 海軍現役軍人
- 二〇六 神宮神職 雇傭
- 二〇七 宮内官吏 雇傭
- 二〇八 官吏 雇傭
- 二〇九 官吏 雇傭
- 二一〇 神道ニ關スル業
- 二一一 佛教ニ關スル業
- 二一二 基督教ニ關スル業
- 二一三 其他ノ宗教ニ關スル業
- 二一四 學校ニ勤務スル者
- 二一五 圖書館 博物館 動物園等ニ勤務スル者
- 二一六 其他ノ教育ニ關スル業
- 二一七 醫業
- 二一八 齒科醫業
- 二一九 調劑業
- 二二〇 產婆業
- 二二一 看護業
- 二二二 按摩 鍼灸業
- 二二三 其他ノ醫療ニ關スル業
- 二二四 獸醫業
- 二二五 蹄鐵業
- 二二六 裁判所ニ勤務スル者
- 二二七 辯護士業 特許辨理士業
- 二二八 執達吏業
- 二二九 公證人業
- 二三〇 新聞雜誌 通信記者
- 二三一 著述者
- 二三二 文藝家

八 其他ノ有業者	三七八 其他ノ有業者	二四〇 代書業	二四一 其他ノ自由業	二四二 日傭業	二四三 其他ノ有業者	二四四 家事使用人	二四五 小作料ニ依ル者	二四六 地代 家賃 有價証券ノ收入ニ依ル者	二四七 恩給 年金 其他ノ收入ニ依ル者	二四八 準世帯ニ在ル學生 生徒	二四九 精神病院 感化院 慈善病院等ニ在ル者	二五〇 官公又ハ慈善團體等ノ救助ヲ受クル者	二五一 在監人	二五二 其他ノ無職者
九 家事使用人	三三九 家事使用人	二四二 其他ノ自由業	二四三 其他ノ有業者	二四四 家事使用人	二四五 小作料ニ依ル者	二四六 地代 家賃 有價証券ノ收入ニ依ル者	二四七 恩給 年金 其他ノ收入ニ依ル者	二四八 準世帯ニ在ル學生 生徒	二四九 精神病院 感化院 慈善病院等ニ在ル者	二五〇 官公又ハ慈善團體等ノ救助ヲ受クル者	二五一 在監人	二五二 其他ノ無職者		
一〇 無職者	四〇 收入ニ依ル者	二四三 其他ノ有業者	二四四 家事使用人	二四五 小作料ニ依ル者	二四六 地代 家賃 有價証券ノ收入ニ依ル者	二四七 恩給 年金 其他ノ收入ニ依ル者	二四八 準世帯ニ在ル學生 生徒	二四九 精神病院 感化院 慈善病院等ニ在ル者	二五〇 官公又ハ慈善團體等ノ救助ヲ受クル者	二五一 在監人	二五二 其他ノ無職者			
	四一 無職業	二四四 家事使用人	二四五 小作料ニ依ル者	二四六 地代 家賃 有價証券ノ收入ニ依ル者	二四七 恩給 年金 其他ノ收入ニ依ル者	二四八 準世帯ニ在ル學生 生徒	二四九 精神病院 感化院 慈善病院等ニ在ル者	二五〇 官公又ハ慈善團體等ノ救助ヲ受クル者	二五一 在監人	二五二 其他ノ無職者				

○ 事實

第一審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年六月ニ處ス未決勾留日數中六十日ヲ本刑ニ算入ス訴訟費用ハ被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

陪審員ノ職業ノ記載方 陪審員ノ職業ト除外ノ原由

被告人ハ其ノ居宅附近ナル岡山縣津山市二宮四十二番地ノ四雜貨商柳清吉方ニ對シ雜貨代金等三十八圓餘ノ支拂未済アリタルトコロ昭和三年八月頃更ニ清吉ノ妻ソヨヨリ金三四ヲ借用シ其ノ債務ノ擔保トシテ内縁ノ夫時尾榮次郎所有ノ錦紗ノ兵兒帶ヲ質入シ居リシカ同年十月十七八日頃右錦紗兵兒帶ノ必要ヲ生シタル爲ソヨニ對シ一時貸與シ吳レ度シト懇請シタルニソヨカ之ヲ拒絕シタルヨリ不快ニ思ヒ居リタル折柄同年十一月二十二日午後六時頃清吉方ニ至リ附近ナル橋本松太郎ヨリ家ヲ借入ルルコトトナリ居レルカ同人ヨリ自分方ノ信用狀態ニ付問合セニ來ルヤモ測ラレサルニ付其ノ際ハ宜敷答ヘラレ度キ旨依頼シタル際ソヨカ他人ノ惡口ヲ云フコトハ嫌ナリト答ヘタルニ被告人ハ之ヲ以テソヨカ被告人ニ於テ曾テ他人ニ同人ノコトヲ罵リタルモノト思惟シ之ニ對スル當付ノ言ヲ爲スモノナリト解シ同人ノ心事ニ憤慨シテ立歸リタルカソヨノ累次ノ不快ノ言動ヲ想起シ憤懣ノ情禁シ難ク寧ク清吉方居宅ヲ燒燬シソヨニ對スル恨ヲ露サンコトヲ決意シ同日午後十時五十分頃燐寸及藁束ヲ携ヘテ右柳清吉方裏板塀外側ニ至リ所携ノ燐寸ニテ藁ノ先端ニ點火シ同家居宅ト棟續ニシテ薪木ヲ格納セル物置小屋ヲ目蒐ケテ之ヲ投込ミタルモ藁カ小屋内ニ入ラスシテ其ノ附近ニ在リタル菓子製造用釜内ニ陥リ藁ノ火カ他ニ燃エ移ラス其ノ儘消火シタル爲右建物ヲ燒燬スルニ至ラサリシモノナリ

以上ノ事實中犯罪構成事實ハ陪審ノ評議ニ附シ其ノ答申ヲ採擇シテ之ヲ認メ其ノ餘ノ判示事實ハ豫審ニ於ケル被告人ノ第一回訊問調書ニ同人ノ供述トシテ其ノ旨ノ記載アルニ依リ之ヲ認ム

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第百八條第百十二條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ未遂犯ニ係ルヲ以テ同法第四十三條本文第六十八條第三號ニ依リ法定ノ未遂減輕ヲ爲スヘク而シテ被告人ハ數年來蓄膿症ヲ患ヒ心神ニ影響セルモノナシトセス本件犯行ノ如キモ之ニ胚胎セリト認メ得サルニ非ス又犯行當時妊娠ノ初期ナリシカ數十日ノ未決勾留中妊娠四ヶ月ニシテ流産セル事實アリテ情狀憫諒スヘキモノアルヲ以テ同法第六十六條第七十一條第六十八條第三號ニ依リ酌量減輕ヲ爲スヘク其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年六月ニ處スヘク而シテ同法第二十一條ニ依リ未決勾留日數中六十日ヲ右本刑ニ算入スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條ニ依リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

### ○ 理 由

辯護人森眞六上告趣意書第一點陪審員二十四人以上出頭シタルトキハ裁判長ハ其ノ氏名職業及住居地ヲ記載シタル書面ヲ示シ檢事及被告人ニ對シ陪審員中除斥セララルヘキ者アリヤ否ヲ問フコトヲ要スルハ陪審法第六十二條第一項ニ明定スルトコロニ屬ス然ルニ其ノ之ヲ示シタリト爲ス陪審員選定通知書(記錄第四三七丁第四三八丁)ノ職業欄ヲ閱スルニ陪審員國安鶴太郎ノ分ニ於テ「其ノ他ノ有業者」トノ記載アルノミニシテ同人カ如何ナル職業者ナルヤ分明ナラス尙或ハ「小作料收入ニ依ル者」或ハ「恩給ノ收入ニ依ルモノ」等ノ記載アリ如斯ハ陪審法第六十二條ニ所定ノ職業ヲ記載シタル書面ナリ

ト認ムルヲ得ス殊ニ前記國安鶴太郎ハ後ニ當籤シテ陪審ヲ構成スヘキ陪審員ト爲リタルモノナリ若シ前記國安鶴太郎ノ職業ヲ明記シタル書面ヲ示シテ檢事及被告人ニ對シ陪審員中除斥セラルヘキ者アリヤ否ヲ問ヒタルニ於テハ或ハ之ヲ除斥シタルヤモ計リ難シ抑モ陪審員タルヘキ者ノ職業ハ其ノ資格上重要ナル關係ヲ有スルモノニシテ前記ノ如ク違法ナル手續ニ因リテ爲サレタルモノハ結局陪審法第百四條第一項所定ノ「法律ニ從ヒ陪審ヲ構成セザリシトキ」ニ該當シ違法タルヲ免レサルモノト思料ス殊ニ本事件ハ一、足跡ニ大小ノ相違アリテ人違ヒノ疑アリ二、使用セル燐寸ノ種類ニ相違アリテ人違ヒノ疑アリ三、不能犯ノ争點等アル事件ニシテ陪審員ノ評議ニ重大關係アルノミナラス陪審員ノ評議答申ハ判決ノ根本ニ影響ヲ及ホスコト論ヲ俟タサルカ故ニ此ノ重要ナル點ニ付誤リタル手續アリタルコトヲ内容トシテ爲サレタル原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト確信スト云フニ在レトモ○昭和二年五月二十八日司法省刑事局秘第一二三號地方裁判所長宛司法次官通牒陪審員資格者名簿ノ調製ニ關スル取扱規準第十六條ニハ陪審員資格者名簿及陪審員候補者名簿ニ記載スヘキ職業ハ大正九年十二月二十四日內閣訓令第一號職業分類中分類ニ依リ記載スヘキ旨ノ規定アリテ右內閣訓令第一號ハ職業ヲ一、農業二、水産業三、鑛業四、工業五、商業六、交通業七、公務自由業八、其ノ他ノ有業者九、家事使用人十、無業者ノ十種ニ大分類シ更ニ中分類トシテ其ノ他ノ有業者(日傭業ト「其ノ他ノ有業者」トヲ含ム)又無業者ノ一種トシテ收入ニ依ル者ヲ掲ク而シテ所論陪審員選定通知書ハ原審岡山地方裁判所ノ所長カ陪

審法第二十七條ノ規定ニ從ヒ同裁判所備付ノ陪審員候補者名簿ヨリ抽籤ヲ以テ陪審員三十六名ヲ選定シテ其ノ氏名職業住居地等ヲ原審裁判長ニ通知シタル書面ナルコト記録ニ徴シ明瞭ニシテ同地方裁判所備付ノ陪審員候補者名簿ハ前記通牒ニ基キ右內閣訓令第一號所定ノ職業分類中分類ニ依リ職業ノ記載ヲ爲シタルモノト解スヘキヲ以テ所論陪審員選定通知書ノ職業欄ニ其ノ他ノ有業者(陪審員國安鶴太郎ノ職業トシテ記載シアル分)トアルハ右訓令第一號ノ中分類ニ所謂其ノ他ノ有業者ヲ指稱シ又小作料收入ニ依ル者恩給ノ收入ニ依ルモノトアルハ同分類ニ所謂無業者ニシテ收入ニ依リ生活スル者ニ外ナラスト認ムヘク且右職業分類ハ公務ノ取扱上一般ニ慣用セラルルモノナルニヨリ所論陪審員選定通知書ハ陪審法第六十二條所定ノ書面トシテ職業ノ記載ニ付テモ瑕疵アルモノト謂フコトヲ得サルノミナラス右通知書ニ於ケル陪審員國安鶴太郎ノ職業ノ記載不完全ニシテ同人カ果シテ何職業ナルヤ分明ナラストスルモ職業ノ如何ハ陪審員除斥ノ原由トナラサルコト陪審法ノ規定ニ徴シ明瞭ナレハ論旨中原審裁判長ニ於テ若シ鶴太郎ノ職業ヲ明記シタル書面ヲ示シテ檢事及被告人ニ對シ除斥セラルヘキ者ナリヤ否ヲ問ヒタランニハ或ハ除斥シタルヤモ計リ難シトノ點ハ理由ナシ而シテ原審公判調書ニ依レハ裁判長ハ出頭シタル陪審員三十四名中辭退ノ許可ヲ受ケタル二名ヲ除キタル三十二名ニ對シ陪審法第十二條乃至十四條ノ規定ニ依リ資格調査ヲ行ヒ何レモ敘上法條ニ掲クル者ニ該當セサルコトヲ確メタル上右三十二名中ヨリ法定ノ手續ヲ履踐シテ本件陪審ヲ構成スヘキ陪審員國安鶴太郎以下十

二名ヲ定メ宣誓ヲ爲サシメ右十二名ハ檢事被告事件ヲ陳述スル時ヨリ裁判所書記陪審ノ答申ヲ朗讀スル迄引續キ本件陪審ヲ構成シタルコト明ナルヲ以テ本件陪審ハ陪審法第四百條第一號ニ所謂法律ニ從ヒ陪審ヲ構成セサルモノト謂フヲ得ス論旨ハ理由ナシ

第二點被告人ノ母ため方裏炊事場ノ廣サハ當裁判所ノ檢證圖書附屬圖面ニ依リ明瞭ナル處ナルカ何故該草履カ其ノ炊事場ニ在ルニ至リタルモノナルヤ被告人供述ノ自分ハ放火ノ覺ナキモ同草履ノ爲嫌疑ヲ受クルニ至ルヘキコトヲ恐レ燒棄シタリトノ言ハ果シテ摺信シ得ルモノナリヤ否人ノ所爲ニハ所謂頭隠シテ尻隠サスト云フカ如キコトモアリ得ルコトナラスヤ一考ヲ乞フ(記録第七〇四丁末ヨリ第七〇五丁中)トノ裁判長説示ノ要領ハ裁判長説示中ニ於テ證據ノ信否ニ關シ意見ヲ表示シタルモノニシテ陪審法第七十七條ニ違反シタルモノト思料スト云フニ在レトモ〇所論原審裁判長ノ説示ハ本件放火事件ニ付問題ト爲ルヘキ事實ノ一タル草履ノ事ニ關シ證據ノ要領ヲ告ケ其ノ信否ニ付陪審ノ判斷ヲ求メタルニ止マリ所論ノ如ク證據ノ信否ニ關シ意見ヲ表示シタルモノト認メ難キヲ以テ原判決ハ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス論旨ハ理由ナシ

第三點又次ニ被告人ノ自白ノ事情ニ付テハ諸君ノ十分知悉セラレ居ル答ナルカ果シテ其ノ點ニ關スル被告人ノ陳述ノ如キコトアリ得ルモノナリヤ否之ニ付テハ被告人ノ學歷當廷ニ於ケル態度頭腦ノ働キ具合等立派ナル證據ト爲ルヘキモノナルヲ以テ之等ノ點ヲモ參酌シ克考究セラレタシ(記録七〇五丁中)トノ裁判長説示ノ要領ニ付テハ陪審員構成ノ手續ハ法律上公判廷ニ於テ之ヲ行フモノナルコト論無ク被告人ハ公判廷ニ於テ犯罪事實ニ付自白ヲ爲サス從テ公判前ニ於ケル被告人ノ自白ニ付陪審員カ何等知悉スヘキモノニアラサルコト法律上明瞭ナルニ拘ラス前記ノ如ク説示シタルハ裁判長ノ説示法律ニ違反シタルモノナルノミナラス被告人ノ學歷法廷ニ於ケル態度頭腦ノ働キ具合等ヲ以テ立派ナル證據ト爲シタルハ陪審法第四百條第六號ノ所定ノ裁判長證據トシテ説示シアルモノ法律上證據ト爲スコトヲ得サルモノナルトキニ該當シ違法タルヲ免レサルモノト思料スト云フニ在レトモ〇記録ヲ調査スルニ被告人ハ原審公判ニ於テハ本件放火ノ事實ヲ否認セルモ豫審ニ於テハ之ヲ自白セルモノニシテ原審裁判長ハ陪審員ノ列席セル原審公判廷ニ於テ右被告人ノ自白ヲ記載シタル豫審調查書ヲ被告人ニ讀聞ケ被告人ノ辯解ヲ聞キ尙右自白ノ事情ニ付被告人及證人小野實司ヲ訊問シ原審

受命判事ノ證人藤本榮治ニ對スル訊問調查書ヲ被告人ニ讀聞ケ取調ヲ爲シタルコト明ナレハ原審陪審員ハ被告人ノ豫審ニ於ケル自白ノ事情ヲ知悉セルモノト謂フヘク所論原審裁判長ノ説示ニ所謂被告人ノ自白ト豫審ニ於ケル被告人ノ自白ト解スヘキヲ以テ同裁判長カ陪審員ニ對シ被告人ノ自白ノ事情ニ付テハ諸君ノ十分知悉セラレ居ル答ナル旨説示シタルハ違法ニ非ス又被告人ハ原審公判廷ニ於テ其ノ學歷及頭腦ノ働キ具合等ニ付陳述スル所アルノミナラス原審裁判長ハ同廷ニ於テ被告人ノ頭腦ノ働キ具合ニ關スル同人ノ供述記載ノ存スル被告人第一回豫審調查書ニ付證據ヲ爲シタルコト記録ニ徴シ明白ニシテ原審裁判長ハ被告人ノ學歷及頭腦ノ働キ具合ニ關スル被告ノ供述及豫審調查書カ證據ト爲ルヘキ旨説示シタルモノト解スヘク又被告人ノ原審公判廷ニ於ケル態度ハ陪審員ノ目撃セル所ニシテ被告人ノ供述ノ信否ヲ判斷スルニ付資料ト爲シ得ルモノナルコト勿論ナレハ原審裁判長ノ所論説示ノ後段ハ正當ニシテ陪審法第四百條第六號ニ該當スル違法アルモノニ非ス論旨ハ理由ナシ

第四點故ニ諸君ハ右未遂ナリヤ不能犯ナリヤ決定スルニ付先ツ菓ノ量ヲ決定スルノ要アリ此ノ點ニ關シ藤本巡查ハ直徑六七寸位ノ菓東ノ約半量位ヲ抜キ取リタル形跡アリト證言シ居リ果シテ然ラハ投入シタル菓ノ量ハ直徑三四寸ノ量ナリト謂ハサルヘカラス而シテ若シ其ノ證言ヲ眞實ナリトセハ其ノ位ノ量ノ菓ニ點火シ薪小屋附近ニ投入スルトキハ其ノ火ハ該薪小屋中ノ薪ニ移火スヘキヤ否柳清吉ハ該薪小屋中ニハ柴ノ如キ細木ノ宜ク枯レタルモノヲ格納シ居リタルモノナリト證言セリ而シテ其ノ薪ノ上ニ若シ點火シタル菓落下シタル時ハ如何ナル結果トナリシナラント證言シタリヤ之等ノ點ヲ考察セハ不能犯ナリヤ未遂犯ナリヤノ判斷ハ左迄ノ難問題ニアラス極メテ簡單ナルヘシ(記録六九八丁中)トノ裁判長説示ノ要領ハ裁判長證據ノ信否ニ關シ意見ヲ表示シタルモノナルノミナラス陪審員評議ノ上ニ被告人ノ特ニ利益ナル特定ノ證據ヲ採用考慮スヘキコトヲ要求若ハ諷刺シタルモノニシテ違法タルヲ免レス其ノ他裁判長ノ説示全體ヲ通シテ説示カ陪審員ニ對スル誘導的諷刺的ナル點散在スル要領ノ記載ニ徴シ當該説示全體カ法律ニ違反シタルモノナリト謂ハサルヘカラスト云フニ在レトモ〇論旨冒頭摘錄ノ原審裁判長ノ説示ハ本件放火ノ未遂犯ナリヤ不能犯ナリヤノ點ニ付證據ノ要領ヲ解シ陪審員ニ對シ其ノ信否ノ判斷ヲ求メタルモノニシテ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス又原審裁判長ノ説示全體ヲ通シテ觀察スルモ所論ノ如ク誘導的諷刺的ナルモノト認メ難キヲ以テ論旨ハ理由ナシ

第五點住家放火ノ場合モ此ノ原則ニ從ハサルヘカラス即犯人ノ住家ヲ燒燬スルノ意思ナカリシ場合ハ本罪ハ成立セサルモノナリ茲ニ陪審員ノ職業ノ記載方 陪審員ノ職業ト除斥ノ理由



住家トハ犯人以外ノ他人居住シ居ル家屋ノ謂ナルカ而モ犯人ニ於テ其ノ住居ノ認識ヲ有スルコトヲ必要トス而シテ法律ハ單ニ其ノ決心ヲ有スルノミニテ罰スルモノニアラス之ヲ實行スルニ依リテ初メテ犯罪ヲ構成スルモノニシテ次ニ燒燬ト毀棄ト異リ自己以外ノ他人ノ生命身體財産上ニ危害ヲ及ホス程度ニ達シ得ルモノナルコトヲ要スルニ付其ノ意思ヲ以テ其ノ實行ヲ爲ササルヘカラス(記録第六九二丁第六九三丁中)トノ裁判長ノ説示ハ陪審法第四條第七號所定ノ裁判長法律上ノ論點ニ關シ不當ノ説示ヲ爲シタルトキニ該當スルモノナリ而現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物タル以上他人カ住居ニ使用スルモノタルト犯人若ハ其ノ家族カ使用スルモノタルト將又其ノ所有權カ犯人自身ニ屬スルト他人ニ屬スルトハ刑法第八條ノ罪ノ成立上何等ノ關係アルコトナク且本條ノ罪ノ成立ニハ犯人ニ於テ本條ノ目的物ヲ燒燬スル意思ヲ以テ放火スルヲ以テ足り進ンテ他人ノ生命身體財産上ニ危害ヲ及ホスノ意思ヲ必要トセザルコト論ナキトコロニ屬スレハナリ仍テ前記裁判長ノ説示ハ違法ニシテ其ノ判決ハ破毀ヲ免レサルモノト思料スト云フニ在レトモ○刑法第八條ニ「現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物」トアル人トハ犯人以外ノ者ヲ指稱スルコト當院判例ノ示ス所ニシテ放火ヲ現ニ犯人ノミノ住居ニ使用シ又ハ犯人ノミノ現在スル建造物ヲ燒燬スルモ同條ノ放火罪ヲ成立セザルコト論ヲ俟タス然ラハ同條ノ放火罪ノ未遂罪ニ該當スル本件被告事件ニ付原審裁判長カ住家トハ犯人以外ノ他人居住シ居ル家屋ノ謂ナル旨説示シタルハ違法ニ非ス又同條ノ放火罪ハ犯人以外ノ者ノ現ニ住居ニ使用シ又ハ犯人以外ノ者ノ現在スル建造物ヲ燒燬スルニ因リテ成立スルモノニシテ其ノ行爲ハ他人ノ生命身體財産ニ危害ヲ及ホス虞アルコト勿論ナルト同時ニ原審裁判長ノ所論説示ニ於テ放火罪ニ於ケル燒燬ト毀棄罪ニ於ケル毀棄トノ差異ニ付言及スル所アルニ依リテ觀レハ所論説示ハ同條ノ放火罪ニケル燒燬ノ意思ハ毀棄罪ノ場合ト異リ單ニ他人ノ建造物ナルコトヲ認識シテ之ヲ燒燬スル意思アルヲ以テ足ルモノニ非ス他人ノ現ニ住居ニ使用シ又ハ他人ノ現在スル建造物ナルコトヲ認識シテ之ヲ燒燬スルノ意思アルコトヲ必要トスル旨ヲ説示シタルモノニ外ナラスト解シ得ラレサルニ非サルヲ以テ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス論旨ハ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ依リ主文ノ如ク判決ス  
 檢事平井彦三郎關與

○機船底曳網漁業取締規則違反被告事件 (昭和四年(九)第四九二號 同年六月十七日第二刑事部判決 棄却)

〔上告人〕 被告人 壁谷 助 辯護人 三浦久三郎  
 外一名 田米吉  
 〔第一審〕 山田區裁判所 〔第二審〕 安濃津地方裁判所

○判示事項

被告人ノ現在地ニ依ル裁判所ノ管轄——機船底曳網漁業禁止區域内ノ公海ニ於ケル操業ト犯罪ノ成立

○判決要旨

- 一 刑事訴訟法第一條ニ所謂被告人ノ現在地中ニハ被告人カ檢事ノ呼出ヲ受ケテ出頭シタル場所ヲモ包含ス〔要旨第一〕
- 二 機船底曳網漁業ヲ爲ス帝國船舶ノ船長代理力機船底曳網漁業禁

被告人ノ現在地ニ依ル裁判所ノ管轄 機船底曳網漁業禁止區域内ノ公海ニ於ケル操業ト犯罪ノ成立

止區域内ノ一部ニ於テ操業シタルトキハ縱令其ノ部分カ公海ニ  
屬スルモ機船底曳網漁業取締規則第十九條第一項第二號ノ犯罪  
ヲ構成ス【要旨第二】

【參照】刑事訴訟法第一條 裁判所ノ土地管轄ハ犯罪地又ハ被告人ノ住所、居所若ハ現  
在地ニ依ル

帝國外ニ在ル帝國艦船内ニ於テ犯シタル罪ニ付テハ前項ニ規定スル地ノ外其ノ艦  
船ノ本籍若ハ船籍ノ所在地又ハ犯罪後其ノ艦船ノ繫泊シタル地ニ依ル

刑法第一條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス  
帝國外ニ在ル帝國艦船内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

同法第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法  
令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

機船底曳網漁業取締規則第十九條 機船底曳網漁業ヲ爲ス船舶ノ船長又ハ船長ノ職  
務ヲ執リタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰  
金ニ處ス

一 許可ヲ受ケタル漁業名稱、操業區域、漁具ノ構造又ハ許可ノ條件若ハ制限ニ違反  
シテ操業シタルトキ

二 禁止區域内ニ於テ操業シタルトキ

三 第十四條ノ規定ニ依ル制限又ハ停止ノ處分ニ違反シテ操業シタルトキ

四 機船底曳網漁業ニ關シ地方長官ノ發シタル命令ノ規定ニ違反シテ操業シタル  
トキ

機船底曳網漁業者前項ニ掲クル所爲ヲ指揮シタルトキ亦同シ  
前二項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁具及漁獲物ハ之ヲ沒收スルコ  
トヲ得若シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルト  
キハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定辯護人ノ主張ニ對スル判斷及法律ノ適用ヲ爲シ被告人兩名ヲ各  
懲役一月ニ處ス押收ニ係ルマニラロツブワイヤ及漁獲物ノ換價金ハ之ヲ沒收ス訴訟費用ハ全部被告人  
與助ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人與助ハ螺旋推進器ヲ備フル發動機付機帆船船長榮丸ノ船主兼船長代理被告人權八ハ螺旋推進器ヲ  
備フル發動機付機帆船金八丸ノ船長代理ナル處右兩船共同シテ昭和四年一月二十五日ヨリ同月二十七  
日迄ノ間ニ於テ機船底曳網漁業禁止區域内ナル愛知縣渥美郡大山沖及三重縣志摩郡長岡村國崎沖合ニ  
於テ機船底曳網漁業ヲ爲シタルモノナリ

辯護人ハ被告人權八ニ對シテハ國崎沖合約四海里ノ地點ニ於テ判示漁業ヲ爲シタリトスルモ該地點ハ  
所謂公海ニシテ帝國外ナルヲ以テ被告人ノ住所地ヲ管轄スル豊橋區裁判所ノ管轄ニ屬シ山田區裁判所  
竝ニ御廳ニ管轄權ナキ旨主張スレトモ本件ハ同被告人カ昭和四年二月十六日山田區裁判所檢事局ニ任

被告人ノ現在地ニ依ル裁判所ノ管轄 機船底曳網漁業禁止區域内ノ公海ニ於ケル 三五九 (二六)

意出頭シタル際起訴セラレタルモノナル事本件記録上明白ナルヲ以テ刑事訴訟法第一條第一項ニ基キ山田區裁判所ニ管轄權アリ從テ當廳ニ管轄權アルニ依リ管轄違ノ申立ハ之ヲ採用セス法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲ハ機船曳網漁業取締規則第十九條第一項第二號ニ該當スルヲ以テ懲役刑ヲ選擇シ所定範圍内ニ於テ被告人等ヲ各懲役一月ニ處スヘク押收ニ係ルマニラロツプワイヤ漁獲物ノ換價金ハ本件犯行ノ際被告人ノ所持シタル漁具竝ニ漁獲物ノ換價金ナルヲ以テ同條第三項ニ則リ之ヲ沒收シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告人與助ノ負擔タルヘキモノトス

○理由

各被告人辯護人三浦久三郎上告趣意書第一點原判決ハ土地管轄權ナキニ拘ラス不法ニ管轄ヲ認メタリ原判決ハ其ノ理由中「辯護人ハ被告人權八ニ對シテハ國崎沖約四海里ノ地點ニ於テ判示漁業ヲ爲シタリトスルモ該地點ハ所謂公海ニシテ帝國外ナルヲ以テ被告人ノ住所地ヲ管轄スル豊橋區裁判所ノ管轄ニ屬シ山田區裁判所竝ニ御廳ニ管轄權ナキ旨主張スレトモ本件ハ同被告人カ昭和四年二月十六日山田區裁判所檢事局ニ任意出頭シタル際起訴セラレタルモノナル事本件記録上明白ナルヲ以テ刑事訴訟法第一條第一項ニ基キ山田區裁判所ニ管轄權アリ從テ當廳ニ管轄權アルニヨリ管轄違ノ申立ハ之ヲ採用セス」トシテ辯護人カ第一審及原審ニ於テ被告事件ニ付供述ヲ爲ス前ニ爲シタル管轄違ノ申立ヲ却下シタリ刑事訴訟法ニ於ケル土地管轄ノ制ハ事件分配ノ地的標準タルコト疑ヒナク同法第一條第一項ニ

ハ被告人ノ現在地ト規定シ法律上何等ノ制限ナク又其ノ現在スルニ至リタル原因理由ノ如何ヲ問フコトナキヲ以テ同等ナル裁判所間ニ管轄ニ付爭ナキ限リ事件ノ進涉及審理便宜ノ爲却テ之ヲ問題トスルノ要ナキカ如シト雖當事者訴訟主義ヲ採用スル新刑事訴訟法ノ下ニ在リテハ被告人ハ訴訟法上權利ノ主體トシテ當事者タル地位ヲ認メ訴訟法上權利利益ヲ附與スル以上ハ管轄權ノ有無當否ハ又之ヲ嚴格ニ調査シ苟モ裁判所ノ審理ノ便宜ノミニ偏スルコトナク被告人ノ當事者タル地位權利ヲ傷害セサルコトニ留意スヘキハ最モ新刑事訴訟法ノ立法精神ニ適合スルモノト言フヘシ然ルニ原判決カ此ノ法意ヲ顧ミス同法第一條第一項ニ所謂現在地ヲ「起訴ノ當時ニ於ケル被告人カ檢事ノ呼出ニ應シ出頭シタル地」ト解スルハ不當ナリ蓋シ同法第一條第一項ニハ被告人ノ現在地ト規定シ其ノ他法律上何等ノ制限ナキヲ以テ克々新刑事訴訟法ノ立法主義及管轄制度ノ趣旨等ヲ考察シ所謂被告人ノ現在地ノ意義ヲ決スヘキモノナリトス而シテ本件被告人壁谷權八ハ昭和四年二月十六日山田區裁判所檢事ノ呼出ニ應シ出頭シタルモノナルコト記録上疑ヒナシ斯ノ如ク檢事カ其ノ所屬裁判所ニ起訴スル目的ニテ職權ヲ以テ被告人ヲ呼出シ其ノ出頭ノ瞬間其ノ地ヲ以テ被告人ノ現在地トシテ其ノ裁判所ニ起訴シタル場合ノ如キヲ謂フニ非ス若右ノ場合ヲモ現在地ナリト解センカ裁判所ノ管轄ハ訴追權者タル檢事ノ意思自由ニ依リ左右セラレ裁判所ニ管轄ヲ認ムルノ用ナク却テ檢事ニノミ土地管轄ヲ認ムルカ如キ主客顛倒ノ理論タルヲ免レス今一例ヲ擧ケ之ヲ説明スルトキハ其ノ非ナルコト自ラ明白ナルヘシ(設例)本來土地

被告人ノ現在地ニ依ル裁判所ノ管轄  
操業ト犯罪ノ成立

管轄權ナキ裁判所へ檢事或事件ヲ起訴シタリ被告人ハ公判期日ニ出頭シ刑事訴訟法第三百五十七條第一、二項ノ規定ニ依リ管轄違ノ申立ヲ爲シタリ裁判所ハ之ヲ認容シ其ノ事件ニ付管轄違ノ判決ヲ言渡シタリ被告人退廷セントスル瞬間檢事同一事件ニ付再ヒ其ノ裁判所ニ起訴シタルトキハ之又原判決ノ言フカ如ク起訴ノ當時被告人カ任意ニ現在スル地ナルコト疑ナキヲ以テ其ノ裁判所ハ又其ノ事件ニ付改メテ管轄權ヲ取得スル結果トナルナリ斯クテハ新刑事訴訟法ノ管轄ニ關スル幾多ノ規定ハ蛇足ト化スルノミナラス同法第三百五十七條ニ規定スル被告人ノ管轄違ノ申立權ヲ剝奪スルコトナリ昔時ニ於ケル糾問主義及當事者不對等主義ト何等異ナル所ナシ然ラハ所謂現在地ノ意義如何要ハ訴追權者カ當該事件ニ付所屬裁判所ヲシテ管轄權ヲ生セシムル目的ニテ而モ職權ヲ以テ被告人ヲ呼出シタルカ如キ本件ノ場合ヲ謂フニ非スシテ斯ル事情ノ存セサル被告人ノ現在地ヲ指スモノナリト解スルヲ正當トス從テ本件ノ如キ被告人ノ住所居所現在地及其ノ船籍地竝ニ犯罪後繫泊シタル地共ニ一致スルトキハ當該事件ノ管轄裁判所ハ他ニ在ルナシ以上ノ理由ニ依リ原判決ハ被告人壁谷權八ニ對シテハ不法ニ管轄ヲ認メタリト言フ所以ナリ仍テ原判決ハ此ノ點ニ付之ヲ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ○

刑事訴訟法第一條ノ規定ニ依レハ裁判所ノ土地管轄ハ犯罪地又ハ被告人ノ住所居所若ハ現在地ニ依ルト在リテ同條ニ所謂現在地トハ公訴提起ノ當時被告人カ現在スル地域ヲ指稱シ其ノ之ニ現在スル事由ノ如何ヲ問ハサルモノナレハ之カ被告人ノ任意ニ出テタル場合ナルト否ラサル場合ナルトヲ分タス苟

【要旨第一】

モ被告人ノ現在スル地域カ裁判所ノ管轄内ニ存スル以上假令被告人カ檢事ノ呼出ヲ受ケテ出頭シタルカ如キ場合ト雖當該裁判所ハ同條ニ依リ土地ノ管轄權ヲ有スルモノトス蓋シ裁判所ノ土地管轄ニ付同條カ犯罪地又ハ被告人ノ住所居所若ハ現在地ニ依ルト規定シタルハ裁判所ニ於ケル審理ノ便宜及被告人ノ利益ヲ考慮シテ規定シタルモノニシテ現在地ニ依ル土地管轄ニ付其ノ事由ノ如何ニヨリ之ヲ區別スルノ理由ナケレハナリ論旨理由ナシ

同第四點原判決カ機船底曳網漁業取締規則第十九條第一項第二號及其ノ禁止區域ノ件第二十四號ニ規定スル禁止區域ヲ静岡縣掛塚燈臺ヨリ三重縣神ノ島頂上ニ至ル線内ト規定シタルヲ見テ其ノ線内全部ヲ禁止區域ナリト解シ公海ニ於ケル判示漁業ヲ以テ規則違反トシテ被告人兩名ヲ處罰シタルハ違法ナリ凡ソ海洋ヲ分チテ領海及公海ノ二トス領海トハ一國ノ沿岸海ニシテ現今國際法上ノ原則トシテハ之ヲ三海里トシ各國ノ等シク之ヲ遵守スル所ナリ領海以外ノ海洋ハ即チ公海ニシテ公海ハ何國ノ版圖ニモ屬セス故ニ固ヨリ公海ニハ屬地的法律アルニ非ス而シテ各國人民ハ假令其ノ國ノ版圖外ニ在リテモ亦法律ノ屬人的效力換言スレハ國家ノ臣民ニ對スル主權ノ效力上又自國法規ノ拘束保護ヲ受クルハ當然ナルモ版圖外ノ一定ノ場所ヲ區劃シテ其ノ場所内ニ於テハ一定ノ漁業ヲ爲スコトヲ得ストシ公海ニ屬地的法規ヲ制定センカ公海自由ノ原則ニ反スルノミナラス若其ノ違反者外國人ナルトキハ之ヲ處罰スルニ由ナク(刑法第二條)其ノ結果自國漁業者ハ近海ニ於テ漁業ヲ爲スコトヲ得ス之ニ反シ外國人ハ

被告人ノ現在地ニ依ル裁判所ノ管轄  
機船底曳網漁業禁止區域内ノ公海ニ於ケル  
採業ト犯罪ノ成立